

早稲田大学

SCHOOL OF CREATIVE SCIENCE AND ENGINEERING, WASEDA UNIVERSITY

創造理工学部要項

2022



創造理工学部「人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的」

創造理工学部は、人間、生活、環境の3つのキーワードに基づき、科学技術の観点から人間生活と環境分野で発生している様々な問題を解決し、多様な価値観に基づく新しい豊かさを創造できる人材の養成を目的としている。この豊かさの創造のために、人間活動を支援し、地球環境に調和する空間・装置・コミュニティを創出する技術および環境システム技術あるいは社会技術システムに関する実践的教育と研究を展開していくことが、当学部が掲げる教育研究上の理念である。

創造理工学部の方針

卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

早稲田大学の総合性・独創性を生かし、体系的な教育課程と、全学的な教育環境と学生生活環境のもとに、多様な学問・文化・言語・価値観の交流を育み、地球社会に主体的に貢献できる人材を育成する。

いま世界では、人口、食料や環境、防災、資源・エネルギーなど広範かつ緊急な問題が浮上している。これらを乗り越えるには、政策、社会システム、科学技術などに基づく幅広い対策が必要になっている。

「創造」という語には夢とロマンがある。創造理工学部が目指す「創造」とは、社会が直面するさまざまな課題に科学技術の観点から具体的な解決策を提案することである。

このために、人間、生活、環境の3つのキーワードに基づき、科学技術の観点から人間生活と環境分野で発生している数々の問題を解決し、多様な価値観に基づく新しい豊かさを創造できる人材を養成する。

教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

地球的視点、技術者倫理、コミュニケーション能力などの習得を教育の基本とし、社会のリーダーとなり、また国際性の高い人材の養成を目的として、応用に配慮した体験的学習を積極的に取り入れ、産業界とも連携しながら、教育課程を編成、実施する。

具体的には、学部入学時から大学院進学を視野に入れたカリキュラム体系となっており、学部1年生に専門必修科目として「創造理工リテラシー」を設置し、技術者倫理、リスクコミュニケーション、知的財産の基礎となる考え方を学ぶ。また、技術者・研究者として重要な「創造力」「発想力」「分析力」「展開力」を習得できるように、実践的な課題に取り組むプロジェクト・ベースド・ラーニング等による演習、実験、インターンシップ、共同研究による双方向教育課程を設置、実施している。

入学者受入方針（アドミSSION・ポリシー）

創造理工学部は、人間、生活、環境の3つのキーワードに基づき、科学技術の観点から人間生活と環境分野で発生している様々な問題を解決し、多様な価値観に基づく新しい豊かさを創造できる人材の養成を目的としている。この豊かさの創造のために、人間活動を支援し、地球環境に調和する空間・装置・コミュニティを創出する技術および環境システム技術に関する実践的教育と研究を展開していくことが、当学部が掲げる教育研究上の理念である。このような理念のもとで、ともに学び、ともに新たな豊かさを創造しようという意欲に満ちた個性的な学生を、日本国内はもとより世界から幅広く求める。高等学校等における学習によって、高い基礎学力（知識・技能・思考力・判断力・表現力）を身に着け、勉学意欲が強く、自ら主体的に考え、行動しようとする意識が高い者を受け入れることを基本方針とする。

2022年度 創造理工学部要項

早稲田大学
創造理工学部

この要項は、学業を進めていくうえで必要不可欠な基本的事項を収録したものであり、卒業時まで使用するので紛失しないように十分に注意すること。

履修や学生生活に必要な情報はほぼ網羅されているので、日常的に確認し、わからないことがある場合にはこの要項をよく読むこと。

なお、本学では Web サイトを開設し、インターネットを通じた情報発信を行っている。

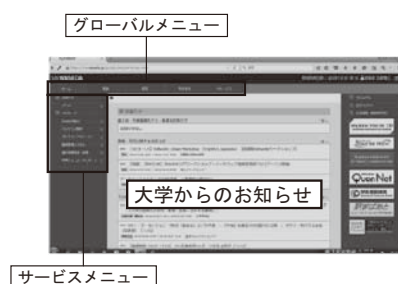
この要項の内容が変更になった場合には、インターネットを通じて周知する。

アクセス方法は次ページの通りなので、必ず常時確認すること。

MyWaseda / Waseda メール

早稲田大学の学生・教職員・校友が共通して利用する基盤システムで、この MyWaseda にログインすることにより、利用者の資格、属性に応じたサービスや情報が得られる（授業の科目登録、試験、レポート、履修などに関することや、講演会やセミナー、シンポジウム、公開行事の案内など）。Waseda メールは Web ブラウザがあれば、どこでも利用できる Web メールサービスである。在学中に利用していたメールアドレスは卒業後も使用できる。

<https://my.waseda.jp/>



MyWaseda トップページ

授業支援システム「Waseda Moodle」

「Waseda Moodle」は講義資料のダウンロード機能や小テスト機能などを備えた授業サポートツールである。MyWaseda にログインし、左側サービスメニュー「授業支援」を選択して利用する。

理工学術院 Web サイト

理工学術院から発信される各種情報を掲載している。「在学生の方へ」のページでは科目登録情報や奨学金情報など重要な情報が随時更新される。また、入試に関する情報も本 Web サイトに掲載される。

<https://www.waseda.jp/fsci/>

創造理工学部・研究科 Web サイト

創造理工学部・研究科から発信される各種情報を掲載している。特に各学科・専攻と領域における研究・教育の理念と内容を詳しく紹介している。また、「創造人」など学部・研究科の教員や学生のページを通して、創造理工の特徴を紹介している。Twitter も登録されている。

<https://www.cse.sci.waseda.ac.jp/>

※要項の内容は変更になることがあるので、これらの Web サイトを常に確認すること。特に、事務所の開室時間は変更となる可能性があるため、最新情報は各事務所の Web サイトを確認すること。

CONTENTS

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 録

I	創造理工学部の特徴	1
---	-----------	---

II	創造理工学部の沿革と概要	3
----	--------------	---

III	創造理工学部要項	11
-----	----------	----

1	単位制	11
2	学位・卒業	11
3	学費の納入と抹籍	11
4	学科目の系列	13
5	複合領域科目，外国語科目（A 群科目）	15
6	数学，自然科学，実験・実習・制作，情報関連科目（B 群科目）	32
7	専門教育科目（C 群科目）	37
8	学科別 C 群科目配当表および学修案内	38
	建築学科	38
	総合機械工学科	43
	経営システム工学科	46
	社会環境工学科	50
	環境資源工学科	54
9	保健体育・自主挑戦科目（D 群科目）	57
10	他学科・他学部・他学術院・他コース等設置科目の聴講	58
11	教員免許状取得方法	62
12	履修科目の登録	71
13	授業時間帯	71
14	試験	71
15	レポート・論文作成にあたっての注意事項	72
16	成績の表示	72
17	理工学術院内 転部・転科試験	73
18	復学者の履修方法	74
19	科目等履修生（一般科目等履修生・教職課程履修生）	74

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

IV 学生生活 75

1	Support Anywhere	75
2	理工学術院および創造理工学部 Web サイト	75
3	学籍番号	75
4	クラス担任制度	75
5	学生相談	76
6	大学院への進学	78
7	就職	78
8	学生証	80
9	各種証明書類の交付	80
10	各種異動・変更手続	81
11	奨学金制度	82
12	掲示	83
13	学生の課外活動	85
14	安全管理	85
15	海外留学等	86
16	禁煙キャンパス	88
17	自転車, バイクおよび自動車の通学利用禁止	88
18	図書館 (理工学生読書室・理工学図書館)	88
19	コンピュータ・ルーム	90
20	実験施設紹介	91
21	保健センター西早稲田分室	93
22	授業欠席の取り扱いについて	94
23	授業期間中の全学休講の取り扱いについて	96
24	緊急時の通知方法	97

V 付 録 99

1	早稲田大学学則 (抜粋)	99
2	早稲田大学校歌	103
3	キャンパスマップ	104
4	時間割作成用紙	106

I

創造理工学部の特徴

I	特 徴
II	沿革と概要
III	学部要項
IV	学生生活
V	付 録

「創造」という言葉には夢とロマンがある。創造理工学部が目指す「創造」とは、社会が直面する様々な課題に科学技術の観点から具体的な解決策を提案することである。

いま世界では、人口や環境、資源・エネルギー、食料など、広範かつ緊急な問題が浮上している。日本では、これに少子高齢化や労働人口の減少などの問題が加わり、産業構造や社会構造の激変に直面している。これらを乗り越えるには、政策、社会システム、科学技術など、広範な対策が必要になってきている。

なかでも期待されるのが、科学技術の進歩である。多くの課題を解決し、人間が生活しやすいより良い社会を作るために、これまで以上に空間・環境技術、情報通信技術（IT）、メカトロニクス、社会システム工学、環境資源工学といった科学技術の進歩に期待がかかっている。

創造理工学部は、地球的視点、技術者倫理、コミュニケーション能力などの習得を教育の基本とし、社会のリーダーとなり、また国際性の高い人材の育成を行う。そのため、応用に配慮した体験型学習を積極的に取り入れ、産業界とも連携しながら、学部・大学院教育を展開している。

創造理工学部の特徴は、5学科と社会文化領域が密接に連携することによって教育・研究活動を展開していく点にある。

例えば医療福祉分野に注目してみると、人工心臓や医療用ロボットなど新しい医療関連システムの開発は機械工学分野（総合機械工学）が中核を担う一方で、患者の視点に立ち、効率的で快適な医療施設を設計するのは建築学の役割である。また、高品質な医療サービスを供給するためには、医療機関のシステムづくりや安定経営が不可欠であり、ここでは経営システム工学が大きな役割を果たす。そのほか環境を考えた社会基盤づくりは社会環境工学の出番であり、医療施設病院全体の省資源・省エネルギーは建築学や環境資源工学の得意分野である。最適な医療システムを構築するには、5学科の研究を相互に密接に関連させることが重要なのである。

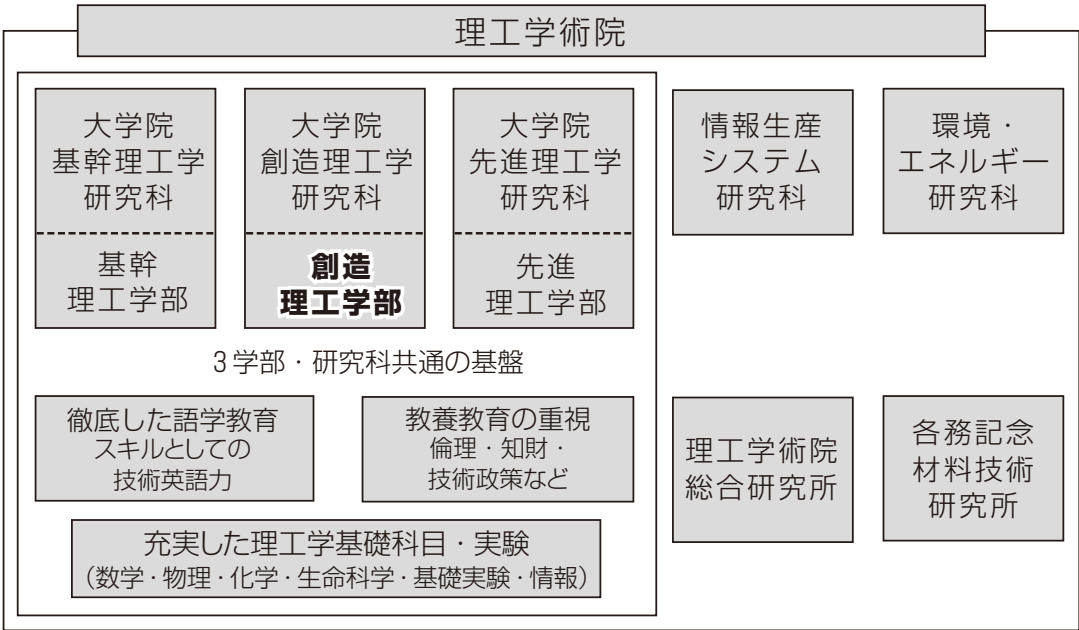
また、社会との双方向教育・研究システムにも力を入れている。インターンシップ、寄附講座、生涯教育、プロジェクト研究などである。1年生に創造理工リテラシーという基礎力を鍛える、参加型授業を用意している。

「創造力」「発想力」「分析力」「展開力」をつけるための教育システムとしてプロジェクト・ベースド・ラーニング（PBL）などによる実践的教育や演習・実験を重視している。実際に手を動かし、体を使うことで、机上の論理が本当の知識に変わっていく。人と工学の接点を目指すのが、創造理工学部の狙いである。

学生諸君は、是非これらの理念をよく理解し、自身の能力を研鑽するように心がけてほしい。また、学生時代には生涯の友人を得る機会でもある。大学で育ぶこと、早稲田大学で学ぶことは、単に授業からのみではなく、教員、同級生、先輩・後輩から学ぶことでもある。学生諸君のステップアップを期待している。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

<理工学術院 組織構成>



II

創造理工学部の沿革と概要

創立者大隈重信が理工系の人材を養成する必要を痛感して、私学にとって不可能とされていた理工科の新設を決定したのは明治 41 年（1908）2 月であり、早稲田大学理工学部は我が国の私立大学の理工系学部教育機関としては最も古い歴史を誇っている。明治 45 年（1912）に第 1 回卒業生 37 人を世に送って以来、今日までに多数の人びとが学窓を巣立ち、社会の多方面の分野で活躍してきた。

以下は本学部の略史である。

沿革

- 1882 年10月（明治 15 年） 東京専門学校創設，大隈英麿校長就任
- 1887 年 9 月（明治 20 年） 大隈英麿退任，前島密校長就任
- 1890 年 7 月（明治 23 年） 前島密退任，鳩山和夫校長就任
- 1902 年10月（明治 35 年） 早稲田大学開校 大学部，専門部，高等予科，研究科を設置
- 1907 年 4 月（明治 40 年） 大隈重信総長，高田早苗学長就任
- 1908 年 2 月（明治 41 年） 理工科を新設し，機械，採鉱，電気，土木，建築，応用化学の 6 学科を漸次設置することを決定
 - 4 月 先ず機械，電気の 2 学科の予科開設
 - 9 月 阪田貞一理工科々長就任
- 1909 年 2 月（明治 42 年） 前記の 6 学科設置の計画に冶金学科を加えて 7 学科とする
 - 4 月 採鉱，建築両学科の予科開設
 - 9 月 機械，電気両学科の本科授業開設
- 1910 年 9 月（明治 43 年） 採鉱，建築両学科の本科授業開設
- 1911 年 5 月（明治 44 年） 早稲田工手学校開設
 - 恩賜記念館竣工
- 1915 年 8 月（大正 4 年） 高田早苗退任，天野為之学長就任
- 1916 年 4 月（大正 5 年） 応用化学科予科開設
 - 9 月 阪田貞一理工科々長退任，浅野応輔就任
- 1917 年 2 月（大正 6 年） 採鉱学科を採鉱冶金学科と改称
 - 8 月 天野為之学長退任
 - 9 月 応用化学本科の授業開設
- 1918 年10月（大正 7 年） 平沼淑郎学長就任
- 1920 年 4 月（大正 9 年） 新大学令による大学となり，理工科を理工学部と改称 科長浅野応輔が学部長となる
- 1921 年10月（大正 10 年） 平沼学長退任，塩沢昌貞学長就任，浅野学部長退任，山本忠興理工学部長就任
- 1922 年 1 月（大正 11 年） 大隈重信薨去
- 1923 年 5 月（大正 12 年） 学長制廃止，高田早苗総長就任
- 1927 年10月（昭和 2 年） 大隈記念大講堂落成
- 1928 年 4 月（昭和 3 年） 早稲田高等学校設置
 - 10月 演劇博物館開館
- 1931 年 6 月（昭和 6 年） 高田総長退任，田中穂積総長就任

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

I 特 徴	1935 年 4 月(昭和 10 年)	各学科に工業経営分科開設
II 沿革と概要	1938 年 4 月(昭和 13 年)	応用金属学科開設, 鋳物研究所開設
III 学部要項	1939 年 4 月(昭和 14 年)	専門部工科開設
IV 学生生活	1940 年 4 月(昭和 15 年)	理工学部研究所設置(1943 年(昭和 18 年)改組, 理工学研究所となる)
V 付 録	1942 年 4 月(昭和 17 年)	電気工学科の第 2 分科が電気通信学科として独立
	10 月	応用化学科に石油分科新設(1943 年(昭和 18 年)4 月石油工学科として独立, 1946 年(昭和 21 年)4 月燃料化学科と改称)
	1943 年 4 月(昭和 18 年)	工業経営学科及び土木工学科設置
	10 月	山本学部長退任, 内藤多仲理工学部長就任
	1944 年 9 月(昭和 19 年)	田中総長逝去, 中野登美雄総長就任
	1946 年 1 月(昭和 21 年)	中野総長退任, 林癸末夫総長事務取扱に就任
	4 月	早稲田工業学校開校(工手学校は 1948 年(昭和 23 年)11 月廃校)
	6 月	島田孝一総長就任
	10 月	内藤学部長退任, 山本研一理工学部長就任
	1948 年 4 月(昭和 23 年)	早稲田工業学校を新制工業高等学校に改組
	1949 年 4 月(昭和 24 年)	新制早稲田大学開設(11 学部)
		第一理工学部には機械, 電気, 鉱山, 建築, 応用化学, 金属, 電気通信, 工業経営, 土木, 応用物理, 数学の 11 学科,
		第二理工学部には, 機械, 電気, 建築, 土木の 4 学科を設置
		山本研一第一理工学部長, 堤秀夫第二理工学部長就任
	10 月	堤秀夫第一理工学部長, 帆足竹治第二理工学部長就任
	1951 年 4 月(昭和 26 年)	新制早稲田大学大学院 6 研究科設置(修士課程)
		工学研究科には機械工学, 電気工学, 建設工学, 鉱山及金属工学, 応用化学の 5 専攻を設置
	10 月	専門部及び高等工学校廃止
		伊原貞敏第一理工学部長就任, 帆足竹治第二理工学部長再任
	1953 年 4 月(昭和 28 年)	大学院 6 研究科に博士課程を設置
	1954 年 4 月(昭和 29 年)	工学研究科修士課程に応用物理学専攻を設置
	9 月	島田総長退任, 大浜信泉総長就任
		青木楠男第一理工学部長, 木村幸一郎第二理工学部長就任
	1956 年 2 月(昭和 31 年)	生産研究所設置(1975 年(昭和 50 年)4 月システム科学研究所と改称)
	9 月	高木純一第一理工学部長, 広田友義第二理工学部長就任
	1957 年 10 月(昭和 32 年)	早稲田大学創立 75 周年
	1958 年 4 月(昭和 33 年)	理工学部創立 50 周年
	9 月	大浜信泉総長再任, 高木純一第一理工学部長, 広田友義第二理工学部長再任
	1960 年 9 月(昭和 35 年)	難波正人第一理工学部長, 鶴田明第二理工学部長就任
	1961 年 4 月(昭和 36 年)	鉱山学科を資源工学科と名称変更, 大学院研究科を数学専攻設置に伴い理工学研究科と名称変更

1962 年 9 月 (昭和 37 年)	大浜信泉総長再任, 難波正人第一理工学部長, 鶴田明第二理工学部長再任
10 月	早稲田大学創立 80 周年
1963 年 9 月 (昭和 38 年)	大久保キャンパス新校舎第一期工事完成
1964 年 4 月 (昭和 39 年)	産業技術専修学校開設
9 月	難波正人第一理工学部長 (兼第二理工学部長) 再任
1965 年 3 月 (昭和 40 年)	大久保キャンパス新校舎第二期工事完成
4 月	物理学科開設
1966 年 5 月 (昭和 41 年)	大浜信泉総長退任, 阿部賢一総長代行就任
9 月	阿部賢一総長就任, 難波正人第一理工学部長 (兼第二理工学部長) 再任
1967 年 3 月 (昭和 42 年)	大久保キャンパス新校舎第三期工事完成
4 月	理工学部全学科の移転を完了
10 月	村井資長理工学部長就任
1968 年 4 月 (昭和 43 年)	第二理工学部廃止, 第一理工学部を理工学部に変更, 工業高等学校廃止
6 月	阿部賢一総長退任, 時子山常三郎総長就任
9 月	村井資長理工学部長再任
1969 年 7 月 (昭和 44 年)	村井資長学部長退任, 吉阪隆正理工学部長就任
1970 年 9 月 (昭和 45 年)	吉阪隆正理工学部長再任
10 月	時子山常三郎総長退任, 村井資長総長就任
1972 年 4 月 (昭和 47 年)	電気通信学科を電子通信学科と名称変更
9 月	平嶋政治理工学部長就任
1973 年 4 月 (昭和 48 年)	化学科開設
1974 年 9 月 (昭和 49 年)	平嶋政治理工学部長再任
10 月	村井資長総長再任
1976 年 9 月 (昭和 51 年)	村上博智理工学部長就任
1978 年 4 月 (昭和 53 年)	産業技術専修学校を専門学校に改組
9 月	村上博智理工学部長再任
11 月	村井資長総長退任, 清水司総長就任
1979 年 3 月 (昭和 54 年)	65 号館竣工 (化学系研究室等及び小倉記念館の移転完了)
1980 年 9 月 (昭和 55 年)	加藤忠蔵理工学部長就任
1982 年 4 月 (昭和 57 年)	理工学部一般高校推薦入学制度開始
9 月	加藤忠蔵理工学部長再任
10 月	早稲田大学創立 100 周年
11 月	清水司総長退任, 西原春夫総長就任
1984 年 9 月 (昭和 59 年)	加藤一郎理工学部長就任
1986 年 9 月 (昭和 61 年)	加藤一郎理工学部長再任
11 月	西原春夫総長再任
1987 年 4 月 (昭和 62 年)	金属工学科を材料工学科と名称変更
1988 年 4 月 (昭和 63 年)	理工学部創立 80 周年

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 録

I 特 徴	9 月	平山博理工学部長就任
II 沿革と概要	10月	鋳物研究所を各務記念材料技術研究所と改称
III 学部要項	1990 年 9 月(平成 2 年)	加藤榮一理工学部長就任
IV 学生生活	11月	西原春夫総長退任, 小山宙丸総長就任
V 付 録	1991 年 4 月(平成 3 年)	情報学科開設
	1992 年 4 月(平成 4 年)	数学オリンピック成績優秀者に対する特別選抜入試制度実施
	9 月	宇佐美昭次理工学部長就任
	1993 年 3 月(平成 5 年)	理工系新棟(55 号館)完成
	4 月	理工学研究所を理工学総合研究センターに改組
	1994 年 2 月(平成 6 年)	理工学部学生ラウンジ完成
	9 月	宇佐美昭次理工学部長再任
	11月	小山宙丸総長退任, 奥島孝康総長就任
	1996 年 4 月(平成 8 年)	電気工学科を電気電子情報工学科と名称変更 工業経営学科を経営システム工学科と名称変更
	9 月	宇佐美昭次理工学部長再任
	1997 年 4 月(平成 9 年)	電子通信学科を電子・情報通信学科と名称変更
	12月	ハイテクリサーチセンター竣工
	1998 年 4 月(平成 10年)	理工学部創立 90 周年 資源工学科を環境資源工学科と名称変更 材料工学科を物質開発工学科と名称変更 数学科を数理科学科と名称変更
	9 月	宇佐美昭次理工学部長再任
	11月	奥島孝康総長再任
	2000 年 9 月(平成 12年)	尾島俊雄理工学部長就任
	2002 年 4 月(平成 14年)	創成入試(AO 方式)制度実施
	9 月	足立恒雄理工学部長就任
	11月	奥島孝康総長退任, 白井克彦総長就任
	2003 年 4 月(平成 15年)	土木工学科を社会環境工学科と名称変更 電気電子情報工学科, 電子・情報通信学科, 情報学科を 電気・情報生命工学科, コンピュータ・ネットワーク工学科に再編
	9 月	「特色ある大学教育支援プログラム(COL)」 (マレーシア) ツイニング(プログラム)による国際化への積極的取組 採択 (13 大学共同)
	2004 年 6 月(平成 16年)	経営システム工学科が日本技術者教育認定機構(JABEE: Japan Accreditation Board for Engineering Education)の認定を受ける
	9 月	足立恒雄理工学部長再任 理工学術院設置
	2006 年 9 月(平成 18年)	橋本周司理工学術院長就任 山川宏創造理工学部長就任 理工学総合研究所と各務記念材料研究所を統合し, 理工学統合研究センターを設置

11月	白井克彦総長再任
2007年4月(平成19年)	理工学部を基幹理工学部, 創造理工学部, 先進理工学部に再編 創造理工学部には 建築学科, 総合機械工学科, 経営システム工学科, 社会環境工学科, 環境資源工学科, 知財・産業社会政策領域, 国際文化領域を設置
10月	早稲田大学創立 125 周年
2008年4月(平成20年)	63号館完成 50号館(通称 TWIns) 完成 理工学部創立 100 周年
9月	橋本周司理工学術院長再任 山川宏創造理工学部長再任
2009年4月(平成21年)	大久保キャンパスを西早稲田キャンパスと名称変更
2010年9月(平成22年)	山川宏理工学術院長就任 後藤春彦創造理工学部長就任 国際化拠点整備事業(グローバル 30) の採択により, 理工学術院の3学部・3研究科に「国際コース」を設置
11月	白井克彦総長退任, 鎌田薫総長就任
2011年4月(平成23年)	「知財・産業社会政策領域」と「国際文化領域」を統合し, 「社会文化領域」を設置
2012年9月(平成24年)	山川宏理工学術院長再任 後藤春彦創造理工学部長再任
12月	卓越した大学院拠点形成支援補助金事業採択
2014年9月(平成26年)	大石進一理工学術院長就任 菅野重樹創造理工学部長就任 スーパーグローバル大学創成支援採択
2016年9月(平成28年)	竹内淳理工学術院長就任 菅野重樹創造理工学部長再任
2018年4月(平成30年)	理工学術院3学部・3研究科の「国際コース」を「英語学位プログラム」に改編
9月	竹内淳理工学術院長再任 菅野重樹創造理工学部長再任
11月	鎌田薫総長退任, 田中愛治総長就任
2020年9月(令和2年)	菅野重樹理工学術院長就任 有賀隆創造理工学部長就任

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

概 要

建築学科は、私大の建築学科として最古の歴史を持ち数多くの優れた人材を建築界に輩出することで、国内外から高く評価されている。創設以来、建築デザイン教育を重視する姿勢を貫いてきている。建築学を建築芸術分野、建築工学分野に分け、前者は建築史、建築計画、都市計画の各系、後者は環境工学、建築構造、建築生産の各系から構成されている。各々の系での研究や教育が建築における実践や理論において大きく統合されることを理想としている。

建築学科の学科目では理性と感性とを同時に養いつつ、低学年では広く、高学年ではより専門的に深く学習を進めることができるようにカリキュラムが組立てられ、分析的な学問のみではなく、それらを基礎とした意匠から工学までの広い意味の建築デザインを学習して行くことを特色としている。設計製図を中心に置き、関連する講義や演習と共に、幅広い知識を統合して建築をとらえている。

2007年度からは日本技術者教育認定機構（JABEE）や国際的な認定基準にも対応する新しい教育内容へとカリキュラムを発展させている。

総合機械工学科で学ぶ機械工学とは、技術に定位を置く学問であり、その「技術」を人間の設計（デザイン）行為として広くとらえることにより、科学でこれまで扱うことが困難であった「価値観や背景が異なる多様な人間の生活（営み）の場に調和した共創の技術」を目指す新しい学問領域を開拓する。具体的には、環境、エネルギー、医療福祉、高齢者介助、コミュニティづくりといった現代社会が抱える諸問題を、個々の人間に則して解決していくための機械の設計原理ならびにそれらの開発と社会的評価について、学科を超えたプロジェクト的研究を展開する。

教育面においては、「技術」を単に「ものづくり」にとどめておくのではなく、「人づくり」にまで拡張するために、これまでとは異なる新しい教育方法を導入する。技術は本来、実践的性格を強く帯びたものであるから、これを踏まえると、生活者と共に「ものづくり」を遂行していくための実践感覚やコーディネーション能力を育成できる教育体制が要請されることになる。この「実践的な知」は身体的な働きによって獲得されるものであり、「科学的な知」が頭脳的な働きにより獲得されることと対をなすものである。

この2つの知を両輪として循環的に働かせる教育カリキュラムとプロジェクト研究を連動させることによって、生活の現場における社会的問題に即応し、それを善い方向に導くことができる構想力と実践能力、論理構成能力を有する開発エンジニアを育成するための教育を展開する。

経営システム工学科は、日本で最初の経営工学分野の学科として常に時代を先取りした教育研究を行ってきた。このような実績を背景として、国際化、高度情報化、環境問題などへの対応を通じて人々の生活の質（Quality of Life）の向上を目指すために必要な問題解決に貢献できる人材の育成を図っている。このために、人、設備、モノ、情報などで構成される経営システムの、開発、運用、保守、改善、更新、廃棄などを遂行するための工学の教育を行う。特に、経営戦略立案、生産システム設計、情報システム開発などの現実的な場で最新技術の活用を図れるようになるために、数理的な基礎技術に加えて、コンピュータおよびインターネットなどの最新技術の実践的活用による問題発見・解決能力の育成を重視している。このため、実験・演習および研究に重点をおいている。さらに国際化への対応すなわち国際社会で通用する人材の育成を目指して、学科独自の国際化プログラムを運営している。なお、当学科の教育課程は、2004年に日本技術者教育認定機構（JABEE）の経営工学関連分野の認定をこの分野として最初に受けている。

I	特 徴
II	沿革と概要
III	学部要項
IV	学生生活
V	付 録

社会環境工学科は、地球的視点から自然環境の保全、人間環境の向上、人間社会の安全等を工学的に取り扱う学科である。技術者倫理に基づいて、人間が安全で文化的な生活を送るために必要な社会基盤を整備し、人間が自然との協調と共生の中で生活するための方策を実現するために必要な広い領域を対象とするため、社会基盤、環境・防災、計画・マネジメントの3部門から構成されている。

社会基盤部門では、構造力学、構造工学、構造設計、コンクリート工学の4研究室がある。環境・防災部門では、河川工学、水環境工学、海岸工学、土質力学、地盤工学の5研究室がある。計画・マネジメント部門では、都市計画、交通・都市、景観・デザインの3研究室がある。

相互に異なる内容を専門とする専任教員と非常勤講師により、社会環境工学の幅広い専門分野が漏れなくカバーされているのが特色である。

環境資源工学科は、「大気・水・地質環境」、「資源リサイクル」、「廃棄物の適正処分・管理」、「資源開発と環境保全」、「自然災害とその予測・防災」、「資源の枯渇と省資源・省エネルギー」、「天然資源の偏在と国際協力」などの資源・環境問題の根幹に関わる重要課題にグローバルな視点から取り組んでいる。その対象とする分野は、各種資源の採取、分離・精製、再生利用、適正処分といった資源利用・循環に関わる技術はもとより、そのシステムを持続可能とし、かつ、自然環境系における人間生活を担保する、大気・水・森林環境保全、環境調和型リサイクル、環境調整型素材の開発、地殻環境保全、災害予測・予防など多岐にわたっている。従来、資源工学として培われてきた学問・技術領域を基盤としながら、資源循環型社会の構築や地球規模での環境保全を視座においた教育と研究を展開している。

社会文化領域 昨今の産業・技術社会の高度化・国際化を背景として、今後我が国が国際社会によりいっそう貢献していくためには、技術革新を支える人材の育成が喫緊の課題である。一方、理工系の専門知識や技術は、人々の日々の生活、社会の仕組み、ひいては世界のあり方にも影響をおよぼしうる大きな力を有しており、理工系三学部の出身者には、それだけにいっそう、豊かな人間性、高い見識、的確な判断力や指導性が求められている。

そこで本領域では、理工学術院に設置されている複合領域科目、初修外国語科目を主として担当することで、科学技術者が備えるべき幅広い教養や知識を提供するとともに、これまで領域コース等において展開されてきた取り組みを発展させ、人文・社会科学の素養をもった科学技術者の人材育成や調査・研究を実施している。さらに、広い視野と柔軟な思考をもった、21世紀にふさわしい、世界的に活躍する科学技術者を育成するために、世界の多様な文化・言語に触れる場、他者を理解し自らを知って成長する場、世界へ向けて発信する力を培う場を提供している。

III

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 録

創造理工学部要項

1	単位制	1. 単位制
2	学位・卒業	2. 学位・卒業
3	学費の納入と抹籍	3. 学 費
4	学科目の系列	4. 学科目系列
5	複合領域科目，外国語科目（A 群科目）	5. A 群科目
6	数学，自然科学，実験・実習・制作，情報関連科目（B 群科目）	6. B 群科目
7	専門教育科目（C 群科目）	7. C 群科目
8	学科別 C 群科目配当表および学修案内	8. 学科別案内 (C 群科目)
	建築学科	建築
	総合機械工学科	総機
	経営システム工学科	経営
	社会環境工学科	社工
	環境資源工学科	資源
9	保健体育・自主挑戦科目（D 群科目）	9. D 群科目
10	他学科・他学部・他学術院・他コース等設置科目の聴講	10. 他学部聴講
11	教員免許状取得方法	11. 教職免許
12	履修科目の登録	12. 科目登録
13	授業時間帯	13. 授業時間帯
14	試験	14. 試 験
15	レポート・論文作成にあたっての注意事項	15. レポート・ 論文作成
16	成績の表示	16. 成績の表示
17	理工学術院内 転部・転科試験	17. 転部・ 転科試験
18	復学者の履修方法	18. 復学者の 履修方法
19	科目等履修生（一般科目等履修生・教職課程履修生）	19. 科目等履修生

1 単位制

大学では、単位制が採用されている。単位制とは、授業に出席し、事前・事後の準備学習・復習を行い、所定の試験に合格することによって単位を修得し、総単位数が所定の数に達することによって学士の学位が与えられる制度である。

各学科目の単位数は、45時間の学修を必要とする内容をもって1単位の授業科目を構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮し、計算される。

1年間に登録できる単位数の上限を49単位とする。ただし、各種資格に関する科目（教育学部および文学部設置）等の卒業算入対象外の科目は、これに含めない。

2 学位・卒業

本学部では、4年以上在学し、所定の卒業必要単位数以上を修得した者を卒業とし、学士の学位を与える。ただし、在学年数は8年（学士入学者は4年）を超えることはできない。

なお、本学部の卒業年月日は、当該年度3月15日付である。

修業年限内に、一部の学科目が単位未修得のため卒業できなかった者が、次の基準に該当した場合は、指導教員の推薦の上、次年度の春学期終了後（9月15日付）に卒業できる。

9月卒業を希望する者は、必ず指導教員と所属学科へ具体的な手続や可否について相談と確認をすること。なお、卒業論文、卒業計画、卒業研究などの通年科目を履修している者は、当該年度5月下旬までに所属学科を通して、9月卒業対象者として理工学術院へ報告があった学生のみが対象となるので注意すること。

- ①すでに履修した学科目につき、未受験または不合格のため卒業できなかった者が、次年度の春学期中に当該学科目を履修した上で試験に合格した場合。
- ②履修しなかった学科目につき、次年度の春学期に履修の上、試験に合格した場合。ただし、原則として春学期で講義の終了する学科目に限る。
- ③卒業論文、卒業計画、卒業研究の未提出または不合格の理由により卒業できなかった者が、次年度の春学期に論文等を提出し、合格した場合。

3 学費の納入と抹籍

(1) 納入期日

学費は、それぞれの年度において、次の期日までに納入しなければならない。

	納入期限
春学期学費	5月1日
秋学期学費	10月1日

I 特徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付録

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 学費

4. 学科目系列

5. A群科目

6. B群科目

7. C群科目

8. 学科別案内
(C群科目)

建築

総機

経営

社工

資源

9. D群科目

10. 他学部聴講

11. 教職免許

12. 科目登録

13. 授業時間帯

14. 試験

15. レポート・
論文作成

16. 成績の表示

17. 転部・
転科試験

18. 復学者の
履修方法

19. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

(2) 2022 年度入学者学費・諸会費

		1 年度		2 年度		3 年度		4 年度	
		春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
入 学 金		200,000	0	0	0	0	0	0	0
授 業 料		723,000	723,000	823,000	823,000	823,000	823,000	823,000	823,000
実験実習料	建 築 学 科	48,000	48,000	48,000	48,000	48,000	48,000	48,000	48,000
	総合機械工学科	47,000	47,000	48,000	48,000	48,000	48,000	49,000	49,000
	経営システム工学科	40,000	40,000	44,000	44,000	44,000	44,000	44,000	44,000
	社会環境工学科	48,000	48,000	48,000	48,000	48,000	48,000	48,000	48,000
	環境資源工学科	48,000	48,000	48,000	48,000	48,000	48,000	48,000	48,000
学生健康増進互助会費		1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500
校 友 会 費		0	0	0	0	0	0	0	40,000
合 計	建 築 学 科	972,500	772,500	872,500	872,500	872,500	872,500	872,500	912,500
	総合機械工学科	971,500	771,500	872,500	872,500	872,500	872,500	873,500	913,500
	経営システム工学科	964,500	764,500	868,500	868,500	868,500	868,500	868,500	908,500
	社会環境工学科	972,500	772,500	872,500	872,500	872,500	872,500	872,500	912,500
	環境資源工学科	972,500	772,500	872,500	872,500	872,500	872,500	872,500	912,500
年額合計	建 築 学 科	1,745,000		1,745,000		1,745,000		1,785,000	
	総合機械工学科	1,743,000		1,745,000		1,745,000		1,787,000	
	経営システム工学科	1,729,000		1,737,000		1,737,000		1,777,000	
	社会環境工学科	1,745,000		1,745,000		1,745,000		1,785,000	
	環境資源工学科	1,745,000		1,745,000		1,745,000		1,785,000	

※実験実習料・諸会費は改定されることがある。

単位 (円)

※教育学部設置の教職に関する科目、グローバルエデュケーションセンター設置の一部の科目を履修する場合は、別途聴講料等が必要となる。

※第4年度の秋学期に校友会費40,000円（卒業後10年分）が必要となる。

(3) 学年延長の学費取り扱い

所定年限以上在学する学生の学費取り扱いについては、下記表を参照すること。

卒業必要単位合計からの 不足単位数	授業料	実験実習料 学生健康増進互助会費
～ 4 単位	4 年次生所定額の 50%	4 年次生所定額
5 単位以上	4 年次生所定額	

※「卒業必要単位合計からの不足単位数」「進級必要単位合計からの不足単位数」は前の学期の終了時に算出したものを基準とする。

※在籍中に休学・留学をした場合の学費については、理工学術院統合事務所まで問い合わせること。

※ただし、延長生学費の計算において、一部科目群については、卒業算入単位数を超えても取得単位として計上される場合がある。

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 学科目系列
5. A 群科目
6. B 群科目
7. C 群科目
8. 学科別案内 (C 群科目)
建築
総機
経営
社工
資源
9. D 群科目
10. 他学部聴講
11. 教職免許
12. 科目登録
13. 授業時間帯
14. 試 験
15. レポート・論文作成
16. 成績の表示
17. 転部・転科試験
18. 復学者の履修方法
19. 科目等履修生

(4) 納入方法

学費等の納入方法は、事前に申請をしたゆうちょ銀行を含む全国の金融機関指定口座からの口座振替となる。この口座は入学手続時に申請をしたものである。

なお、事前に「口座振替のお知らせ」が学費負担者宛てに送付されるので、必ず確認すること。また、金融機関や口座等に変更が生じた場合は、すぐに理工学術院統合事務所に申し出ること。

学費は、それぞれ指定の期日までに納入しなければならないが、特別な事情でそれが不可能な場合は、理工学術院統合事務所に相談すること。

(5) 抹 籍

学費の納入を怠った場合は抹籍（本学学生の身分を失う）となり、最後に学費が納入された学期末に遡って退学となる。この場合、在学年数および成績の一部が無効となる。なお、特別の事情により自動的に抹籍となる日（以下参照）以前に退学を希望する場合は、理工学術院統合事務所に相談すること。

	納入期限	自動的に抹籍となる期日	退学とみなす期日
春学期学費	5月1日	9月20日	3月31日
秋学期学費	10月1日	翌年3月31日	9月20日

4 学科目の系列

本学部の学科目は、A群・B群・C群およびD群の4系列に大別され、その内容は以下のとおりである。なお、各群の内容に関しては後述する。

A 群	複合領域科目（A1）、外国語科目（A2）
B 群	数学（B1）、自然科学（B2）、実験・実習・制作（B3）、情報関連科目（B4）
C 群	専門教育科目
D 群	保健体育科目、自主挑戦科目

A～D群に設置されている学科目には、以下の種別がある。

(1) 「卒業必要単位」に算入される科目

以下の科目があり、いずれも成績証明書に成績が記載される。

必修科目	必ず履修し、単位を修得しなければならない科目
選択必修科目	指定された範囲から必ず所定の科目を履修し、単位を修得しなければならない科目
選択科目	選択科目群から自由に選択し、所定単位を修得する科目

(2) 「卒業必要単位」に算入されない科目

自由科目	単位を修得した場合、成績証明書に記載されるが、卒業必要単位には算入されない科目
------	---

理工学術院の1学年は、学期制（春学期・秋学期、それぞれ15週ずつ）とクォーター制（春クォーター・夏クォーター・秋クォーター・冬クォーター、それぞれ8週ずつ）からなっており、学科目の開講学期は、主に次の区分で設定されている。

- 通年科目
- 春学期科目
- 秋学期科目
- 春クォーター科目
- 夏クォーター科目
- 秋クォーター科目
- 冬クォーター科目
- 集中講義（通年・春学期・秋学期）

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 録

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 学 費

4. 学科目系列

5. A群科目

6. B群科目

7. C群科目

8. 学科別案内
(C群科目)

建築

総機

経営

社工

資源

9. D群科目

10. 他学部聴講

11. 教職免許

12. 科目登録

13. 授業時間帯

14. 試 験

15. レポート・
論文作成

16. 成績の表示

17. 転部・
転科試験

18. 復学者の
履修方法

19. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

(3) 卒業に必要な単位数

系 列 学 科	A ～ C 群の所定単位数													A ～ D 群。その他から任意に選択できる単位数 [1]		合計	学位
	A 群				B 群						C 群			D群			
	A1	A2			B1	B2			B3	B4	専門教育科目		選択任意				
	複合領域科目	英語	初修	英 語 または 初 修 外国語	数学	自然科学 物理学 化学 生命科学			実験・ 実習・ 制作	情報 関連 科目	必修	選択 必修			選択		
建 築 学 科	14	8	0	4	10	4	2	0	6	0	54	14	8	—	12	136	学士(建築学)
総合機械工学科	14	8	0	4	10	4	2	0	8	2	50	0	20	—	14	136	学士(工学)
経営システム工学科	14	8	0	4	10	4	2		6	0	48	0	26	—	14	136	学士(工学)
社会環境工学科	14	8	2	2	10	4	2	0	6	0	39	4	31	—	14	136	学士(工学)
環境資源工学科	14	8	0	4	12	4	2	2	8	4	40	1	24	—	13	136	学士(工学)

- [1] A ～ C 群の所定単位数の合計は、卒業必要単位数（136 単位）に満たないため、以下の科目系列・単位で充足すること。
- ・ A ～ C 群科目系列で指定されている所定単位数を超えて修得した A ～ C 群科目の単位。
 - ・ 保健体育・自主挑戦科目（D 群科目）（4 単位まで）。
 - ・ 他学科・他学部・他学術院・他コース聴講で修得した単位。（各学科が定める上限単位数まで。「10 他学科・他学部・他学術院・他コース等設置科目の聴講」の項参照。）
 - ・ 全学オープン科目で修得した単位。（各学科が定める上限単位まで。ただし、当該科目が卒業必要単位に算入されるものに限る。「10 他学科・他学部・他学術院・他コース等設置科目の聴講（2）全学オープン科目」の項参照。）
- ※自由科目は、卒業必要単位数には算入できない。
- A ～ D 群、その他から任意に選択できる単位数＝卒業必要単位数－（A ～ C 群所定単位数）

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 学科目系列
5. A 群科目
6. B 群科目
7. C 群科目
8. 学科別案内 (C 群科目)

建築
総機
経営
社工
資源

9. D 群科目
10. 他学部聴講
11. 教職免許
12. 科目登録
13. 授業時間帯
14. 試 験
15. レポート・ 論文作成
16. 成績の表示
17. 転部・ 転科試験
18. 復学者の 履修方法
19. 科目等履修生

(4) 大学院授業科目の先取り履修制度

学部・大学院一貫教育の観点から、学部 4 年生を対象に進学予定の研究科から指定された授業科目を先取り履修する制度を実施している。先取り履修し、修得した単位は、次年度に大学院に進学後、当該各学科の専攻が定めた上限単位数の範囲内において、大学院の「修了に必要な単位(30 単位)」として認定される。

	専攻名	先取り履修の 認定上限単位数
創造理工学研究科	建築学	10 単位
	総合機械工学	10 単位
	経営システム工学	0 単位
	経営デザイン	0 単位
	建設工学	0 単位
	地球・環境資源理工学	10 単位

詳細な内容、手続方法等については、理工学術院の Web サイトを参照すること。

(5) 欠席届

- ① 本学部およびグローバルエデュケーションセンターで登録したすべての科目の授業および試験について、これらを欠席した場合は、欠席届を理工学術院統合事務所で取得の上、担当教員に直接提出すること。ただし実験科目については各実験室に提出すること（実験室によっては、別に指定用紙がある）。また、英語科目については英語教育センターの Web サイトを参照してその指示に従うこと。
- ② 他学術院開講科目については、当該箇所の欠席届を使用し、その箇所の手続方法に従うこと。
- ③ 欠席の事由が確認できるもの（診断書の写し等）を添付すること。

5 複合領域科目、外国語科目（A 群科目）

A 群科目は、複合領域科目（A1 群科目）および外国語科目（A2 群科目）に分かれる。各学科が指定する履修条件・制約のもと、系列内の所定単位数を修得すること。

複合領域科目（A1 群科目）については、半期で登録できる単位数の上限を6単位*とする。

*グローバルエデュケーションセンターの科目をA1 群として算入した場合も、この6単位に含まれる。

（1）学科別所定単位数

建築学科・総合機械工学科・環境資源工学科

	複合領域科目 (A1 群)	外国語科目 (A2 群)		
		英語（必修科目）	初修外国語	英語または初修外国語
所定単位数	14 単位	8 単位	—	4 単位
	26 単位			

経営システム工学科

	複合領域科目 (A1 群)	外国語科目 (A2 群)		
		英語（必修科目）	初修外国語	英語または初修外国語
所定単位数	14 単位※	8 単位	—	4 単位
	26 単位			

※特論科目に設置してある「経済学A（ミクロ）、経済学A（マクロ）」、「経済学B（ミクロ）、経済学B（マクロ）」、「経済学A（ミクロ）、経済学B（マクロ）」、「経済学B（ミクロ）、経済学A（マクロ）」（4単位）のいずれかの組み合わせを必修科目として履修すること。

社会環境工学科

	複合領域科目 (A1 群)	外国語科目 (A2 群)		
		英語（必修科目）	初修外国語	英語または初修外国語
所定単位数	14 単位	8 単位	2 単位	2 単位
	26 単位			

（2）複合領域科目（A1 群科目）

世界の政治・経済・社会・文化等の構造の大幅な変動や科学技術の飛躍的な進歩とともに、価値観の多様化、流動化が進み、学問や研究のあり方も大きく転換しつつある。また、学生の関心や要望も従来とは異なり、卒業後の進路も多岐にわたっている。こうした状況をふまえて、理工系3学部では、多角的知識と総合的かつ自主的判断力を身につけると同時に、人文・社会科学系だけでなく、理工学系をも横断する複合的な視点から、多領域にまたがる新しい問題や複雑な現象に挑む能力を養うことをめざして、複合領域科目を設置している。

複合領域科目は、総合科目・基礎科目・特論科目・領域コース科目に区分され、以下17頁の表のように配置されているが、その中から自己の選択に基づいて、4年間で所定の単位を修得しなければならない。

I 特徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付録

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 学費

4. 学科目系列

5. A 群科目

6. B 群科目

7. C 群科目

8. 学科別案内
(C 群科目)

建築

総機

経営

社工

資源

9. D 群科目

10. 他学部聴講

11. 教職免許

12. 科目登録

13. 授業時間帯

14. 試験

15. レポート・論文作成

16. 成績の表示

17. 転部・転科試験

18. 復学者の履修方法

19. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

総合科目・基礎科目

総合科目は、現代社会における特定の重要な課題を、様々な学問領域から多角的に究明することによって、異なった学問領域間相互の関連性を理解し、現象の総合的把握の能力を育むとともに、創造的思考を養成するために開設されたものである。基礎科目は、そうした総合的把握の能力の基礎となる人文・社会科学系学問の素養を身につけるための科目である。両科目とも半期2単位の科目であるが、一部科目についてはクォーター1単位となる。第1年度から履修が可能であり、低学年の間に履修することが望ましい。

特論科目

理工系の学生たちが複合的な視点から問題に取り組むことができるよう編成された科目群が用意されている。この中には、主として人文・社会科学系の発展的な科目、科学技術をめぐる諸問題を複合的な視点から捉える科目、表現の問題を重視する芸術系の科目や実習、外国文化を主として扱う科目などが設置されている。特論科目は半期科目であるが、一部の実習科目については、週2時間、半期4単位となる。第2年度から履修が可能で、総合・基礎科目よりもレベルを高く設定しているので、関連する総合・基礎科目の学習をふまえて履修することが期待される。

社会文化領域コース科目

原則として社会文化領域コース（以下、領域コースという）に進入した学生が選択する科目である（コース進入に際しては、所属する学科の指導に従うこと）。基礎演習は3年の秋学期、領域演習・卒業論文（領域コース）は4年で選択する。基礎演習は半期2単位、領域演習は通年4単位、卒業論文は2単位となっている。領域コースを選択する場合には、通常の単位のほかに、複合領域科目の中から領域コース科目8単位を含む一定単位以上を修得しなければならない。なお、領域コースの概要および進入手続については、別途、領域のWebサイトや説明会等で配布するパンフレットを参照すること。

A1 群科目履修上の注意

- ・ 学科目のあとにⅠ、Ⅱ…を付してある学科目は、その順序に従って履修しなければならない（Ⅰの単位修得が確認できた後に、Ⅱの履修が可能となる）。
- ・ 学科目のあとに、A、B…のついている学科目は重複して履修してはならない（ただし、経済制度論A、B、C、D及び、産学連携、ベンチャー起業の基礎A、Bについては、この限りではない）。
- ・ 学科目のあとに（1）（2）…を付してある学科目は重複して履修してはならない。
- ・ 文化・言語・地域の各国語圏文化論（ドイツ語圏、フランス語圏、中国語圏、スペイン語圏）を履修するには、各国語の中級ⅡAか中級ⅡB、あるいは「学院クラス」のⅡAかⅡBの単位を修得していなければならない。ただし、該当科目担当教員が履修条件を満たしていると認めた学生についてはその限りではない。

履修モデルと認定制度

複合領域科目（A1群）と初修外国語（A2群）の科目を対象とした履修モデルを設定し、モデルに即して履修した学生には、認定証を授与する制度を設けている。履修モデルには、A群の科目を幅広く履修する多様性の側面と、特定分野を履修する専門性の側面がある。詳しくは、以下のWebサイトを参照のこと。

社会文化領域 Web サイト <http://www.div.sci.waseda.ac.jp/>

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 学科目系列
5. A 群科目
6. B 群科目
7. C 群科目
8. 学科別案内 (C 群科目)
建築
総機
経営
社工
資源
9. D 群科目
10. 他学部聴講
11. 教職免許
12. 科目登録
13. 授業時間帯
14. 試 験
15. レポート・論文作成
16. 成績の表示
17. 転部・転科試験
18. 復学者の履修方法
19. 科目等履修生

複合領域科目および領域コース

	総合科目	基礎科目	特論科目
知的財産		知財のグローバル化と言語の多様性 ロボット産業とイノベーション 国際知財政策 A, B 国際コンテンツビジネスと著作権	産学連携, ベンチャー起業の基礎 A, B 新規市場開拓としてのイノベーション経営 (CSR 経営) 知的財産と起業 パイオ・イノベーションと知財 中国産業・知財の基礎 A, B
産業政策	開発協力論		雇用環境と労働 産業・技術移転論 産業政策とデジタルコンテンツ論の基礎 デジタル化社会の興亡 ニーズ型社会と新産業創出 マーケティング論基礎 マーケティング論応用 CIO (最高情報責任者) 概論
科学技術	日常生活とリスク 21 世紀における科学技術と社会	科学・技術の社会史 日本科学技術史 生命の思想史	改善技術論 科学技術とコミュニケーション 技術開発論 運動と重力の物理思想史 光と電子の物理思想史 科学社会学 先端技術と暮らしのイノベーション 科学技術政策論 科学技術と現代社会 技術倫理
環境・倫理・生命	国際保健医療論		開発文化論 生命倫理 健康の生態学 生物と環境適応 自然生態調査論
政治・経済・法律	企業行動と経営 現代経済の構造と変容	経済制度論 A, B 政治学 法学入門 憲法 I, II	経営戦略論 経営管理論 経済学 A (ミクロ), A (マクロ) 経済学 B (ミクロ), B (マクロ) 経済制度論 C, D 現代企業論 確率・統計基礎 確率・統計と機械学習
社会・生活	高度情報社会における人間関係	社会調査の設計 社会調査データの分析 都市と地域の社会学 社会学概論 文化人類学概論 フィールドワーク概論 観光文化論 情報とメディアの社会学 持続可能な生活とデザイン	情報倫理 都市人類学 応用人類学 都市のフィールドワーク
心理・精神・認知	ストレスと自殺 変革期の社会と心理 産業社会のメンタルヘルス		精神分析論 認知心理学 I, II 社会心理学 I, II 心理学 I, II 心理療法・心理的支援法 産業・組織心理学

I 特徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 学科目系列
5. A 群科目
6. B 群科目
7. C 群科目
8. 学科別案内 (C 群科目)
建築
総機
経営
社工
資源
9. D 群科目
10. 他学部聴講
11. 教職免許
12. 科目登録
13. 授業時間帯
14. 試 験
15. レポート・論文作成
16. 成績の表示
17. 転部・転科試験
18. 復学者の履修方法
19. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 学科目系列
5. A 群科目
6. B 群科目
7. C 群科目
8. 学科別案内 (C 群科目)

建築
総機
経営
社工
資源
9. D 群科目
10. 他学部聴講
11. 教職免許
12. 科目登録
13. 授業時間帯
14. 試 験
15. レポート・論文作成
16. 成績の表示
17. 転部・転科試験
18. 復学者の履修方法
19. 科目等履修生

	総合科目	基礎科目	特論科目
文化・言語・地域	生活空間の文化 文学論	人間の表現 劇場と文化 舞台芸術論 プレゼンテーションスキル 複合文章表現 01, 02, 03 身体論 比較文学論 文学表現論 食文化論 サブカルチャー論 国際交流論 人文地理学 スペイン文化研究 朝鮮半島文化研究 地域研究：スペインとスペインアメリカ	歴史社会学 伝統都市と文化遺産 過去の伝承 口頭伝承と文学 文学と科学 宗教と世界 ラテンアメリカの文化と歴史 西洋古典思想 中国の「こころ」 中国の科学と社会 東アジア文化研究 各国語圏文化論 (ドイツ語圏, フランス語圏, 中国語圏, スペイン語圏) 文化研究 (ドイツ, フランス, 東アジア, イスラム) 地域研究 (ドイツ, フランス, 中国, ロシア, アフリカ, 中南米, 英語文化圏) グローバル社会
芸術・思想・メディア	科学と芸術 音と音楽の表現領域	表現とコトバ マスタース・オブ・シネマ映画のすべて1 マスタース・オブ・シネマ映画のすべて2 プラクティカルリーズニング 哲学概論 認知とコミュニケーション 社会思想史 映像史 I, II	インターメディア作曲 I, II 音楽論 境界領域アート論 クロスメディアビジネス 芸術表現 現代マスコミ論 I, II 写真表現 I, II 心身問題研究 プロデュース特論 現在表現概論 A (美術)・B (音楽) 西洋美術史 映画から学ぶ映像表現 映像制作実習 I 映像制作実習 II 奇想のテレビドキュメンタリー論 テレビ論

領域による コース 科目 (3,4年)	基礎演習	演習	卒業論文(領域コース) ※基礎演習は, 3 年次秋学期に履修のこと。
	各領域の主な分野 —— 社会文化領域 (知的財産, 産業政策, 科学技術政策 / 社会システム, 文化, 言語, 地域)		

(I) 総合科目

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
日常生活とリスク	2	○							
開発協力論	2	○							
現代経済の構造と変容	2	○							
変革期の社会と心理	2	○							
ストレスと自殺	2	○							
産業社会のメンタルヘルス	2	○							
音と音楽の表現領域	2	○							
生活空間の文化	2	○							
21 世紀における科学技術と社会	2		○						
国際保健医療論	2		○						
企業行動と経営	2		○						
高度情報社会における人間関係	2		○						
科学と芸術	2		○						
文学論	2		○						

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 録

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 学 費

4. 学科目系列

5. A 群科目

6. B 群科目

7. C 群科目

8. 学科別案内
(C 群科目)

建築

総機

経営

社工

資源

9. D 群科目

10. 他学部聴講

11. 教職免許

12. 科目登録

13. 授業時間帯

14. 試 験

15. レポート・
論文作成

16. 成績の表示

17. 転部・
転科試験

18. 復学者の
履修方法

19. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 学科目系列
5. A 群科目
6. B 群科目
7. C 群科目
8. 学科別案内 (C 群科目)
建築
総機
経営
社工
資源
9. D 群科目
10. 他学部聴講
11. 教職免許
12. 科目登録
13. 授業時間帯
14. 試 験
15. レポート・ 論文作成
16. 成績の表示
17. 転部・ 転科試験
18. 復学者の 履修方法
19. 科目等履修生

(Ⅱ) 基礎科目

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
国際知財政策 A	2	○							
科学・技術の社会史	2	○							
ロボット産業とイノベーション	2	○							
人文地理学	2	○							
プラクティカルリーズニング	2	○							
生命の思想史	2	○							
政治学	2	○							
社会調査の設計	2	○							
憲法 I	2	○							
経済制度論 A	2	○							
映像史 I	2	○							
社会学概論	2	○							
舞台芸術論	2	○							
文化人類学概論	2	○							
フィールドワーク概論	2	○							
文学表現論	2	○							
サブカルチャー論	2	○							
マスタース・オブ・シネマ 映画のすべて 1	1	春Q							
複合文章表現	1	春Q							
マスタース・オブ・シネマ 映画のすべて 2	1	夏Q							
複合文章表現	1	夏Q							
国際知財政策 B	2		○						
知財のグローバル化と言語の多様性	2		○						
表現とコトバ	2		○						
認知とコミュニケーション	2		○						
哲学概論	2		○						
都市と地域の社会学	2		○						
社会思想史	2		○						
法学入門	2		○						
持続可能な生活とデザイン	2		○						
人間工学とデータサイエンス	2		○						
社会調査データの分析	2		○						

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
憲法Ⅱ	2	○							
経済制度論B	2	○							
情報とメディアの社会学	2	○							
国際コンテンツビジネスと著作権	2	○							
日本科学技術史	2	○							
人間の表現	2	○							
映像史Ⅱ	2	○							
劇場と文化	2	○							
比較文学論	2	○							
観光文化論	2	○							
食文化論	2	○							
国際交流論	2	○							
身体論	2	○							
スペイン文化研究	2	○							
地域研究：スペインとスペインアメリカ	2	○							
プレゼンテーションスキル	2	集中							
複合文章表現	1	秋Q							

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 学科目系列
5. A 群科目
6. B 群科目
7. C 群科目
8. 学科別案内 (C 群科目)
建築
総機
経営
社工
資源
9. D 群科目
10. 他学部聴講
11. 教職免許
12. 科目登録
13. 授業時間帯
14. 試 験
15. レポート・ 論文作成
16. 成績の表示
17. 転部・ 転科試験
18. 復学者の 履修方法
19. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

(Ⅲ) 特論科目

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 学科目系列
5. A 群科目
6. B 群科目
7. C 群科目
8. 学科別案内 (C 群科目)
建築
総機
経営
社工
資源
9. D 群科目
10. 他学部聴講
11. 教職免許
12. 科目登録
13. 授業時間帯
14. 試 験
15. レポート・ 論文作成
16. 成績の表示
17. 転部・ 転科試験
18. 復学者の 履修方法
19. 科目等履修生

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
映画から学ぶ映像表現	4			○					
中国産業・知財の基礎 A	2			○					
心理学 I	2			○					
生物と環境適応	2			○					
情報倫理	2			○					
デジタル化社会の興亡	2			○					
生命倫理	2			○					
開発文化論	2			○					
雇用環境と労働	2			○					
心理療法・心理的支援法	2			○					
技術開発論	2			○					
健康の生態学	2			○					
先端技術と暮らしのイノベーション	2			○					
バイオ・イノベーションと知財	2			○					
確率・統計基礎	2			○					
経済学 A（ミクロ）	2			○					
経済学 B（ミクロ）	2			○					
経営戦略論	2			○					
経済制度論 D	2			○					
マーケティング論基礎	2			○					
認知心理学 I	2			○					
改善技術論	2			○					
知的財産と起業	2			○					
産学連携，ベンチャー起業の基礎 A	2			○					
運動と重力の物理思想史	2			○					
インターネットメディア作曲 I	4			○					
CIO（最高情報責任者）概論	2			○					
現代マスコミ論 I	2			○					
技術倫理	2			○					

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
科学社会学	2			○					
社会心理学Ⅰ	2			○					
現在表現概論A（美術）	2			○					
西洋美術史	2			○					
朝鮮半島文化研究	2			○					
歴史社会学	2			○					
中国の「こころ」	2			○					
過去の伝承	2			○					
ラテンアメリカの文化と歴史	2			○					
地域研究：中国	2			○					
イスラム文化研究	2			○					
地域研究：中南米	2			○					
フランス文化研究*	2			○					
ニーズ型社会と新産業創出	2			集中					
科学技術とコミュニケーション	2				○				
音楽論	2				○				
奇想のテレビドキュメンタリー論	2				○				
産業・組織心理学	2				○				
精神分析論	2				○				
中国産業・知財の基礎B	2				○				
心理学Ⅱ	2				○				
現代企業論	2				○				
科学技術政策論	2				○				
自然生態調査論	2				○				
産業政策とデジタルコンテンツ論の基礎	2				○				
確率・統計と機械学習	2				○				
経済学A（マクロ）	2				○				
経済学B（マクロ）	2				○				
経営管理論	2				○				
経済制度論C	2				○				

I 特 徴
Ⅱ 沿革と概要
Ⅲ 学部要項
Ⅳ 学生生活
V 付 録

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 学科目系列
5. A 群科目
6. B 群科目
7. C 群科目
8. 学科別案内 (C 群科目)
建築
総機
経営
社工
資源
9. D 群科目
10. 他学部聴講
11. 教職免許
12. 科目登録
13. 授業時間帯
14. 試 験
15. レポート・論文作成
16. 成績の表示
17. 転部・転科試験
18. 復学者の履修方法
19. 科目等履修生

I 特 徴	学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
			第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
			春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
II 沿革と概要	マーケティング論応用	2				○				
III 学部要項	認知心理学Ⅱ	2				○				
IV 学生生活	産業・技術移転論	2				○				
V 付 録	産学連携、ベンチャー起業の基礎B	2				○				
	境界領域アート論	2				○				
1. 単位制	心身問題研究	2				○				
2. 学位・卒業	光と電子の物理思想史	2				○				
3. 学 費	芸術表現	2				○				
4. 学科目系列	インターメディア作曲Ⅱ	4				○				
5. A 群科目	クロスメディアビジネス	2				○				
6. B 群科目	現代マスコミ論Ⅱ	2				○				
7. C 群科目	科学技術と現代社会	2				○				
8. 学科別案内 (C 群科目)	社会心理学Ⅱ	2				○				
建築	新規市場開拓としてのイノベーション経営（CSR 経営）	2				○				
総機	現在表現概論B（音楽）	2				○				
経営	都市のフィールドワーク	2				○				
社工	応用人類学	2				○				
資源	東アジア文化研究	2				○				
9. D 群科目	伝統都市と文化遺産	2				○				
10. 他学部聴講	地域研究：ドイツ	2				○				
11. 教職免許	地域研究：フランス	2				○				
12. 科目登録	地域研究：ロシア	2				○				
13. 授業時間帯	地域研究：アフリカ	2				○				
14. 試 験	地域研究：英語文化圏	2				○				
15. レポート・ 論文作成	西洋古典思想	2				○				
16. 成績の表示	ドイツ文化研究*	2				○				
17. 転部・ 転科試験	ドイツ語圏文化論（応用）*	2				○				
18. 復学者の 履修方法	フランス語圏文化論（応用）*	2				○				
19. 科目等履修生	中国の科学と社会*	2				○				
	中国語圏文化論（応用）*	2				○				

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
都市人類学	2				○				
宗教と世界	2				○				
口頭伝承と文学	2				○				
文学と科学	2				○				
グローバル社会	2				○				
プロデュース特論	1				秋Q				
映像制作実習Ⅰ	4					○			
写真表現Ⅰ	4					○			
スペイン語圏文化論（基礎）*	2					○			
映像制作実習Ⅱ	4						○		
テレビ論	4						○		
写真表現Ⅱ	4						○		
スペイン語圏文化論（応用）*	2						○		

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 学科目系列
5. A 群科目
6. B 群科目
7. C 群科目
8. 学科別案内 (C 群科目)
建築
総機
経営
社工
資源
9. D 群科目
10. 他学部聴講
11. 教職免許
12. 科目登録
13. 授業時間帯
14. 試 験
15. レポート・ 論文作成
16. 成績の表示
17. 転部・ 転科試験
18. 復学者の 履修方法
19. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

(Ⅳ) 領域コース科目

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
社会文化領域基礎演習	2						○		
社会文化領域演習	4							○	○
卒業論文（社会文化）	2							○	○

※ Q はクォーターの略。

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 学科目系列
5. A 群科目
6. B 群科目
7. C 群科目
8. 学科別案内 (C 群科目)
建築
総機
経営
社工
資源
9. D 群科目
10. 他学部聴講
11. 教職免許
12. 科目登録
13. 授業時間帯
14. 試 験
15. レポート・ 論文作成
16. 成績の表示
17. 転部・ 転科試験
18. 復学者の 履修方法
19. 科目等履修生

(3) 外国語科目 (A2 群科目)

科学技術の進歩、たとえば交通手段や情報機器の発達には、地球上の人や物の交流を飛躍的に増大させた。この傾向は 21 世紀にはいってさらに増大の度を加えていくことであろう。一方で、地球上にさまざまな社会があり多種多様な文化が存在することはまぎれもない事実であり、それだけにいっそう異なる社会、異なる文化圏同士の相互理解が緊急不可欠なものとなっている。このような状況のもと、異なる文化や社会と接触し理解するのに有効な手段の 1 つが、外国語の習得である。外国語を学ぶとは、単に言語の運用能力を身につけることに留まるものではない。言語感覚を錬磨し、言語表現の可能性を模索することで、自己の表現能力を高めることでもある。そして、他を知ることによって自己を知る道でもある。学生諸君には、将来の活躍の場を広げる意味でも、外国語に積極的に取り組んでほしい。

英語

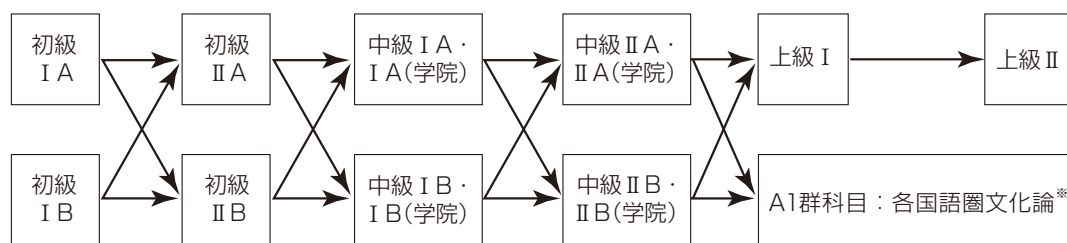
卒業までに、学科ごとに定められた所定単位数以上を修得する。すべての英語科目は全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を要する。

- ① 1 年次には、Academic Lecture Comprehension 1・2 (各 1 単位) と Communication Strategies 1・2 (各 1 単位) を履修しなければならない。尚、年度始めに開催する英語ブレースメントテストの結果に基づき、クラス分けを行う。
- ② 2 年次には、Academic Reading 1・2 (各 1 単位) と Concept Building and Discussion 1・2 (各 1 単位) を履修しなければならない。尚、1 年次の年末に開催する英語統一テストの結果に基づき、クラス分けを行う。
- ③ 3 年次以降には、Technical Writing 1・2 (各 1 単位)、Technical Presentation (1 単位)、Special Topics in Functional English (1 単位) が履修できる。

初修外国語

・英語以外の理工学術院設置の外国語科目には、ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語がある。

下図は半期ごとの履修例を示すものである。



※ (2) 複合文化領域科目 (A1 群科目) の科目表の「学科目名」に*のついている科目が該当する。

- ・グローバルエデュケーションセンター設置の「言語科目」を A2 群 (初修外国語) として算入することができる。詳細は「10 他学科・他学部・他学術院・他コース等設置科目の聴講」を参照すること。具体的な参入方法は理工学術院 Web サイト上の「科目登録の手引き」を参照すること。
- ・外国学生のための科目として、日本語教育研究センター設置の日本語科目があり、A2 群 (初修外国語) として履修することができる。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 学科目系列
5. A 群科目
6. B 群科目
7. C 群科目
8. 学科別案内 (C 群科目)
建築
総機
経営
社工
資源
9. D 群科目
10. 他学部聴講
11. 教職免許
12. 科目登録
13. 授業時間帯
14. 試 験
15. レポート・論文作成
16. 成績の表示
17. 転部・転科試験
18. 復学者の履修方法
19. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 学科目系列
5. A 群科目
6. B 群科目
7. C 群科目
8. 学科別案内 (C 群科目)
建築
総機
経営
社工
資源

A2 群科目履修上の注意

- ・学科目のあとに I, II を付してある学科目は、その順序に従って履修しなければならない（I の単位修得が確認できた後に、II の履修が可能となる）。

初修外国語履修上の注意

- ・学科目のあとに A を付してある学科目は言語の構造を理解し、文の形を習得するためのベーシック・トレーニングを行う。B を付してある学科目では表現を学ぶプラクティカル・トレーニングを行う。
- ・A, B を同時履修することが望ましいが、どちらか一方のみを履修することも可能。
前頁の図に示されているように、I A の次に II B を履修することも可能。
- ・複数の言語の科目の同時履修も可能。
- ・文化・言語・地域の各国語圏文化論（(2) 複合文化領域科目（A1 群科目）の科目表の「学科目名」に＊のついている科目が該当）を履修するには、各国語の中級 II A か中級 II B、あるいは「学院クラス」の II A か II B の単位を修得していなければならない。ただし、該当科目担当教員が履修条件を満たしていると認めた学生についてはその限りではない。
注：スペイン語・ロシア語に上級科目は設置していない。

【既習者のための科目】

ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語の既習者には、IA（学院）、IB（学院）、IIA（学院）、IIB（学院）が準備されている。履修例については、前頁の図の学院 IA、学院 IB 以降を参照。
※主に早稲田大学高等学院の出身者を対象とする学院クラス。中級との合併。

【日本語未履修外国生のための科目】

別途、クラス担任の指示に従うこと。

(I) 英語（必修科目）

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期			
		第1年度	第2年度	第3年度	第4年度
		春 秋	春 秋	春 秋	春 秋
Academic Lecture Comprehension 1 (ALC 1)	1	○			
Academic Lecture Comprehension 2 (ALC 2)	1		○		
Communication Strategies 1 (CS 1)	1	○			
Communication Strategies 2 (CS 2)	1		○		
Academic Reading 1 (AR 1)	1			○	
Academic Reading 2 (AR 2)	1				○
Concept Building And Discussion 1 (CBD 1)	1			○	
Concept Building And Discussion 2 (CBD 2)	1				○
英語（必修科目）合計	8				

(Ⅱ) 英語（選択科目）

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期			
		第1年度		第2年度	
		春	秋	春	秋
Technical Writing 1 (TW 1)	1			○	
Technical Writing 2 (TW 2)	1				○
Technical Presentation (TP)	1			○	○
Special Topics in Functional English (STFE)	1			○	○

※ TP および STFE は春学期、秋学期科目を重複して履修することはできない。

(Ⅲ) 初修外国語 ドイツ語

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期			
		第1年度		第2年度	
		春	秋	春	秋
独語 初級ⅠA	1	○			
独語 初級ⅠB	1	○			
独語 初級ⅡA	1		○		
独語 初級ⅡB	1		○		
独語 ⅠA（学院クラス）	1	○			
独語 ⅠB（学院クラス）	1	○			
独語 ⅡA（学院クラス）	1		○		
独語 ⅡB（学院クラス）	1		○		
独語 中級ⅠA	1			○	
独語 中級ⅠB	1			○	
独語 中級ⅡA	1			○	
独語 中級ⅡB	1			○	
独語 上級Ⅰ	1				○
独語 上級Ⅱ	1				○

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 学科目系列
5. A群科目
6. B群科目
7. C群科目
8. 学科別案内 (C群科目)
建築
総機
経営
社工
資源
9. D群科目
10. 他学部聴講
11. 教職免許
12. 科目登録
13. 授業時間帯
14. 試 験
15. レポート・論文作成
16. 成績の表示
17. 転部・転科試験
18. 復学者の履修方法
19. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

(Ⅳ) 初修外国語 フランス語

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
仏語 初級ⅠA	1	○							
仏語 初級ⅠB	1	○							
仏語 初級ⅡA	1		○						
仏語 初級ⅡB	1		○						
仏語 ⅠA (学院クラス)	1	○							
仏語 ⅠB (学院クラス)	1	○							
仏語 ⅡA (学院クラス)	1		○						
仏語 ⅡB (学院クラス)	1		○						
仏語 中級ⅠA	1			○					
仏語 中級ⅠB	1			○					
仏語 中級ⅡA	1				○				
仏語 中級ⅡB	1				○				
仏語 上級Ⅰ	1					○			
仏語 上級Ⅱ	1						○		

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 学科目系列
5. A 群科目
6. B 群科目
7. C 群科目
8. 学科別案内 (C 群科目)

建築

総機

経営

社工

資源

9. D 群科目
10. 他学部聴講
11. 教職免許
12. 科目登録
13. 授業時間帯
14. 試 験
15. レポート・論文作成
16. 成績の表示
17. 転部・転科試験
18. 復学者の履修方法
19. 科目等履修生

(Ⅴ) 初修外国語 中国語

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
中国語 初級ⅠA	1	○							
中国語 初級ⅠB	1	○							
中国語 初級ⅡA	1		○						
中国語 初級ⅡB	1		○						
中国語 ⅠA (学院クラス)	1	○							
中国語 ⅠB (学院クラス)	1	○							
中国語 ⅡA (学院クラス)	1		○						
中国語 ⅡB (学院クラス)	1		○						
中国語 中級ⅠA	1			○					
中国語 中級ⅠB	1			○					
中国語 中級ⅡA	1				○				
中国語 中級ⅡB	1				○				
中国語 上級Ⅰ	1					○			
中国語 上級Ⅱ	1						○		

(Ⅵ) 初修外国語 スペイン語

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
スペイン語 初級ⅠA	1	○							
スペイン語 初級ⅠB	1	○							
スペイン語 初級ⅡA	1		○						
スペイン語 初級ⅡB	1		○						
スペイン語 中級ⅠA	1			○					
スペイン語 中級ⅠB	1			○					
スペイン語 中級ⅡA	1				○				
スペイン語 中級ⅡB	1				○				

(Ⅶ) 初修外国語 ロシア語

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
露語 初級ⅠA	1	○							
露語 初級ⅠB	1	○							
露語 初級ⅡA	1		○						
露語 初級ⅡB	1		○						
露語 ⅠA (学院クラス)	1	○							
露語 ⅠB (学院クラス)	1	○							
露語 ⅡA (学院クラス)	1		○						
露語 ⅡB (学院クラス)	1		○						
露語 中級ⅠA	1			○					
露語 中級ⅠB	1			○					
露語 中級ⅡA	1				○				
露語 中級ⅡB	1				○				

※ Q はクォーターの略。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 学科目系列
5. A群科目
6. B群科目
7. C群科目
8. 学科別案内 (C群科目)
建築
総機
経営
社工
資源
9. D群科目
10. 他学部聴講
11. 教職免許
12. 科目登録
13. 授業時間帯
14. 試 験
15. レポート・ 論文作成
16. 成績の表示
17. 転部・ 転科試験
18. 復学者の 履修方法
19. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

6 数学，自然科学，実験・実習・制作，情報関連科目（B 群科目）

専門の基礎を与えることを目標にしている学科目で，数学，物理学，化学，理工学基礎実験，情報関連科目がこれにあたる。各学科が必修科目として指定する学科目を履修し，系列内の所定単位数を修得すること。

（1）学科別必修科目・選択科目・所定単位数

建築学科

	必修科目							
系列	数学（B1 群）			自然科学（B2 群）		化学	実験・実習・制作（B3 群）	
学科目名	基礎の数学	数学 A1	数学 B1	物理学		化学C	理工学基礎実験	
				基礎物理学A	基礎物理学B		1A	1B
単位数	1 年 春学期 (2 単位)	1 年 通年 (4 単位)	1 年 通年 (4 単位)	1 年 春学期 (2 単位)	1 年 秋学期 (2 単位)	1 年 春学期 (2 単位)	1 年 春学期 (3 単位)	1 年 秋学期 (3 単位)
所定単位数	10 単位			4 単位		2 単位	6 単位	

	選択科目			
系列	自然科学（B2 群）	情報関連科目（B4 群）		
学科目名	生命科学	コンピュータリテラシー	プログラミング入門	プログラミング
	生命科学概論 A			
単位数	2 年 春学期 (2 単位)	1 年 秋学期 (2 単位)	2 年 春学期 (2 単位)	2 年 秋学期 (2 単位)

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 学科目系列
5. A 群科目
6. B 群科目
7. C 群科目
8. 学科別案内（C 群科目）
建築
総機
経営
社工
資源
9. D 群科目
10. 他学部聴講
11. 教職免許
12. 科目登録
13. 授業時間帯
14. 試 験
15. レポート・論文作成
16. 成績の表示
17. 転部・転科試験
18. 復学者の履修方法
19. 科目等履修生

総合機械工学科

	必修科目							
系列	数学 (B1 群)		自然科学 (B2 群)		実験・実習・制作 (B3 群)			情報関連科目 (B4 群)
学科目名	数学 A1	数学 B2	物理学		化学	理工学基礎実験		
			基礎物理学A	基礎物理学B	化学C	1A	1B	2A
単位数	1 年 通年 (4 単位)	1 年 通年 (6 単位)	1 年 春学期 (2 単位)	1 年 秋学期 (2 単位)	1 年 春学期 (2 単位)	1 年 春学期 (3 単位)	1 年 秋学期 (3 単位)	2 年 春学期 (2 単位)
所定単位数	10 単位		4 単位		2 単位	8 単位		

	選択科目				
系列	数学 (B1 群)	自然科学 (B2 群)		情報関連科目 (B4 群)	
学科目名	基礎の数学	生命科学		コンピュータリテラシー	プログラミング入門
		生命科学概論A	細胞生物学A		
単位数	1 年 春学期 (2 単位)	2 年 春学期 (2 単位)	2 年 秋学期 (2 単位)	1 年 秋学期 (2 単位)	2 年 秋学期 (2 単位)

経営システム工学科

	必修科目					
系列	数学 (B1 群)		自然科学 (B2 群)		実験・実習・制作 (B3 群)	
学科目名	数学 A1	数学 B2	力学C	基礎電磁気学	理工学基礎実験	
					1A	1B
単位数	1 年 通年 (4 単位)	1 年 通年 (6 単位)	1 年 春学期 (2 単位)	1 年 秋学期 (2 単位)	1 年 春学期 (3 単位)	1 年 秋学期 (3 単位)
所定単位数	10 単位		4 単位		6 単位	

	選択必修科目		
系列	自然科学 (B2 群)		
学科目名	化学		生命科学
	化学A	化学C	生命科学概論A
単位数	1 年 春学期 (2 単位)	1 年 春学期 (2 単位)	1 年 春学期 (2 単位)
所定単位数	2 単位※		

※いずれか 1 科目、2 単位を修得すること。

	選択科目			
系列	数学 (B1 群)	情報関連科目 (B4 群)		
学科目名	基礎の数学	コンピュータリテラシー	プログラミング入門	プログラミング
単位数	1 年 春学期 (2 単位)	1 年 秋学期 (2 単位)	2 年 春学期 (2 単位)	2 年 秋学期 (2 単位)

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 学科目系列
5. A 群科目
6. B 群科目
7. C 群科目
8. 学科別案内 (C 群科目)
建築
総機
経営
社工
資源
9. D 群科目
10. 他学部聴講
11. 教職免許
12. 科目登録
13. 授業時間帯
14. 試 験
15. レポート・論文作成
16. 成績の表示
17. 転部・転科試験
18. 復学者の履修方法
19. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

社会環境工学科

	必修科目						
系列	数学 (B1 群)		自然科学 (B2 群)			実験・実習・制作 (B3 群)	
学科目名	数学 A1	数学 B2	物理学		化学	理工学基礎実験	
			力学 A	力学 B	化学 C	1A	1B
単位数	1 年 通年 (4 単位)	1 年 通年 (6 単位)	1 年 春学期 (2 単位)	1 年 秋学期 (2 単位)	1 年 春学期 (2 単位)	1 年 春学期 (3 単位)	1 年 秋学期 (3 単位)
所定単位数	10 単位		4 単位		2 単位	6 単位	

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 学科目系列
5. A 群科目
6. B 群科目
7. C 群科目
8. 学科別案内 (C 群科目)

	選択科目			
系列	情報関連科目 (B4 群)			
学科目名	C プログラミング入門	FORTRAN プログラミング入門	C プログラミング	FORTRAN プログラミング
単位数	2 年 春学期 (2 単位)	2 年 春学期 (2 単位)	2 年 秋学期 (2 単位)	2 年 秋学期 (2 単位)

環境資源工学科

建築
総機
経営
社工
資源
9. D 群科目
10. 他学部聴講
11. 教職免許
12. 科目登録
13. 授業時間帯
14. 試 験
15. レポート・論文作成
16. 成績の表示
17. 転部・転科試験
18. 復学者の履修方法
19. 科目等履修生

	必修科目											
系列	数学 (B1 群)			自然科学 (B2 群)				実験・実習・制作 (B3 群)			情報関連科目 (B4 群)	
学科目名	数学 A1	数学 B2	数学 D	物理学		化学	生命科学	理工学基礎実験			コンピュータリテラシー	FORTRAN プログラミング入門
				力学 A	力学 B	化学 C	生命科学概論 A	1A	1B	2A		
単位数	1 年 通年 (4 単位)	1 年 通年 (6 単位)	2 年 春学期 (2 単位)	1 年 春学期 (2 単位)	1 年 秋学期 (2 単位)	1 年 春学期 (2 単位)	1 年 春学期 (2 単位)	1 年 春学期 (3 単位)	1 年 秋学期 (3 単位)	2 年 春学期 (2 単位)	1 年 秋学期 (2 単位)	2 年 春学期 (2 単位)
所定単位数	12 単位			4 単位		2 単位	2 単位	8 単位			4 単位	

	選択科目		
系列	情報関連科目 (B4 群)		
学科目名	FORTRAN プログラミング	数値シミュレーション	ハイパフォーマンスコンピューティング
単位数	2 年 秋学期 (2 単位)	3 年 春学期 (2 単位)	3 年 秋学期 (2 単位)

B 群科目履修上の注意

- ・専門教育科目 (C 群科目) 中で、指定された数学、自然科学の学科目の単位を修得しなければ履修できない学科目があるので、科目登録にあたってはこの履修順序に注意すること。

(Ⅰ) 数学配当表 ※必修・選択等履修方法は各学科によって異なる。

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
基礎の数学	2	○							
数学A 1 (線形代数)	4	○	○						
数学B 1 (微分積分)	4	○	○						
数学B 2 (微分積分)	6	○	○						
数学D (微分方程式)	2			○					
数学E (関数論)	2				○				

(Ⅱ) 物理学配当表 ※必修・選択等履修方法は各学科によって異なる。

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
力学A	2	○							
力学B	2		○						
力学C	2	○							
基礎電磁気学	2		○						
基礎物理学A	2	○							
基礎物理学B	2		○						

(Ⅲ) 化学配当表

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
化学A	2	○							
化学C	2	○							

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 録

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 学 費

4. 学科目系列

5. A群科目

6. B群科目

7. C群科目

8. 学科別案内
(C群科目)

建築

総機

経営

社工

資源

9. D群科目

10. 他学部聴講

11. 教職免許

12. 科目登録

13. 授業時間帯

14. 試 験

15. レポート・
論文作成

16. 成績の表示

17. 転部・
転科試験

18. 復学者の
履修方法

19. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

(Ⅳ) 生命科学配当表

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
生命科学概論 A	2			○					
細胞生物学 A	2				○				

(Ⅴ) 実験・実習・制作配当表

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 学科目系列
5. A 群科目
6. B 群科目
7. C 群科目
8. 学科別案内 (C 群科目)
建築
総機
経営
社工
資源

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
理工学基礎実験 1 A	3	○							
理工学基礎実験 1 B	3		○						
理工学基礎実験 2 A	2			○					
地球科学実験	2			集中					
化学実験	1				集中				
生物学実験	1					集中			

(Ⅵ) 情報関連科目配当表

9. D 群科目
10. 他学部聴講
11. 教職免許
12. 科目登録
13. 授業時間帯
14. 試 験
15. レポート・ 論文作成
16. 成績の表示
17. 転部・ 転科試験
18. 復学者の 履修方法
19. 科目等履修生

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
コンピュータリテラシー	2		○						
C プログラミング入門	2			○					
FORTRAN プログラミング入門	2			○					
C プログラミング	2				○				
FORTRAN プログラミング	2				○				
数値シミュレーション	2					○			
ハイパフォーマンスコンピューティング	2						○		

※ Q はクォーターの略。

7 専門教育科目（C 群科目）

専門教育科目は、専門必修科目、専門選択必修科目、専門選択科目および自由科目に分かれる。

(1) 専門必修科目

この学科目は、各学科の性格を特色づけるものである。学生諸君は、所属学科配当の学科目を、配当年度に従って履修しなければならない。

※創造理工学部では次の科目を1年次共通のC群科目として設置している。

創造理工リテラシー

当学部は地球的視野をもつ創造力豊かな21世紀の科学技術者の育成をめざしている。「創造理工リテラシー」はこの理念に基づいて行われる演習科目である。当科目では、この教育理念を始めとして、技術者倫理、リスクコミュニケーション、知的財産についてその基礎となる考え方を学び、また、異文化間コミュニケーションの問題性を実感的に理解し、その上で、情報収集の方法、プレゼンテーションのポイント、論文の書き方等、大学生に必要な「読み書き」の技術とマナーを習得する。5学科1領域の教員が専門分野を越えて教育にあたるが、学生諸君にはこの科目の学習を通して創造理工学部生としての創造的基礎体力を培うことが求められている。

(2) 専門選択必修科目

この学科目は、指定された範囲から必ず所定の科目を履修し、定められた単位を修得しなければならない。

(3) 専門選択科目

この学科目は、学生各人の希望によって選択・履修できるものであって、各年度に配当されている学科目の中から選択修得しなければならない。

※専門選択必修科目および専門選択科目の中で、大学院進学の際に単位修得が義務づけられている学科目、単位修得が望ましいとされている学科目等がある。詳細については、年度始めのガイダンスで確認すると共に、疑問がある場合はクラス担任に相談すること。

(4) 創造共通科目

この学科目は、創造理工学部の2年生以上を対象とした学部共通の選択科目である。履修した科目は、各学科の定めるルールに従って、卒業必要単位に算入できる。

該当科目：共創ワークショップ演習（2単位）、最新システムの社会実装技術（2単位）

算入区分：

建築学科	A～D群その他から任意に選択できる単位数
総合機械工学科	C群専門選択科目
経営システム工学科	C群専門選択科目
社会環境工学科	C群専門選択科目
環境資源工学科	A～D群その他から任意に選択できる単位数

(5) 自由科目

この学科目は、合格点を取れば単位を与えられ、成績通知書にも記入されるが、卒業必要単位には算入されない。

C群科目履修上の注意

- ・学科目名の次に番号（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）等を付してある学科目、および特に履修順序の指定されている学科目は、先行して履修すべき学科目の単位を修得していなければ、次の学科目を履修できない。
- ・学科目名の次にA、B、Cのついている学科目履修の順序に規定はない。

Ⅰ 特徴

Ⅱ 沿革と概要

Ⅲ 学部要項

Ⅳ 学生生活

Ⅴ 付録

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 学費

4. 学科目系列

5. A群科目

6. B群科目

7. C群科目

8. 学科別案内
(C群科目)

建築

総機

経営

社工

資源

9. D群科目

10. 他学部聴講

11. 教職免許

12. 科目登録

13. 授業時間帯

14. 試験

15. レポート・論文作成

16. 成績の表示

17. 転部・転科試験

18. 復学者の履修方法

19. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 学科目系列
5. A 群科目
6. B 群科目
7. C 群科目
8. 学科別案内 (C 群科目)
建築
総機
経営
社工
資源
9. D 群科目
10. 他学部聴講
11. 教職免許
12. 科目登録
13. 授業時間帯
14. 試 験
15. レポート・論文作成
16. 成績の表示
17. 転部・転科試験
18. 復学者の履修方法
19. 科目等履修生

8 学科別 C 群科目配当表および学修案内

建築学科

建築学科は、私大の建築学科として最古の歴史を持ち数多くの優れた人材を建築界に輩出するなどして、国内外から高く評価されている。創設以来、建築デザイン教育を重視する姿勢を貫いてきている。建築学を建築芸術分野、建築工学分野に分け、前者は建築史、建築計画、都市計画の各系、後者は環境工学、建築構造、建築生産の各系から構成されている。各々の系での研究や教育が建築における実践や理論において大きく統合されることを理想としている。

建築学科の学科目では理性と感性とを同時に養いつつ、低学年では広く、高学年ではより専門的に深く学習を進めることができるようにカリキュラムが組立てられ、分析的な学問のみではなく、それらを基礎とした意匠から工学までの広い意味の建築デザインを総合的に学習して行くことを特色としている。設計製図をその中心におき、関連する講義や演習と共に、幅広い知識を統合して建築をとらえる。

建築学科が目指す技術者像

早稲田大学建築学科では、我が国の自然環境や歴史、風土とも共生し、世界に誇れる建築文化を確立するために、豊かな生活環境を築き社会に提供していく立場から、世界の多様な地域に固有の伝統と文化に根ざす、広義の「建築デザイン」を実践する技術者の育成を目指している。学部卒業時点では、専門家としての基本的な知識や技術、倫理観を培い、異分野の専門家と協働して自らのアイデアを社会に提案できる技術者の育成を目指す。

学習・教育の目標

2007 年度からは、日本技術者認定機構（JABEE）や国際的な認定基準にも対応する学習・教育の目標を以下の通り定めている。

- (A) 「早稲田建築」の伝統に学び、現代社会が建築・都市・環境に求めるものを知る
- (B) 地球的な視野と、地域に固有の歴史風土を理解する視点を、共に涵養する
- (C) 建築家および建築技術者の職能を理解し、社会に対する専門家としての倫理観を培う
- (D) 建築・都市のデザインおよび芸術性に関する幅広い知識を身につける
- (E) 進取の精神をもって、先進的な知識を積極的に吸収する力を培う
- (F) 関連する諸分野の知識を統合し、創造的な空間の提案をする能力を培う
- (G) 異分野の専門家と協働し、問題を実践的に解決する能力を培う
- (H) 建築に関する自らのアイディアを広く社会に提案する能力を鍛える

所定単位数

	専門必修科目	専門選択必修科目	専門選択科目
所定単位数	54 単位	14 単位	8 単位

卒業論文、卒業計画着手の条件

学部の最終学年に、大学 4 年間で学んだ実績を集大成してそれを記録に残す大事業ともいうべき卒業論

文と卒業計画がある。学部4年で卒業するものにとっては、この成就が大学生活に関して一生を通じて持つことのできる誇りでもあり、卒業後何十年経っても思い出深いものとなる。また、大学院へ進学する者にとっては4年生がいよいよ建築の専門的な学習のスタートの年となる。

卒業論文（大学院進学者は研究論文）は所属する研究室の研究と重なることも多く、優れた成果は学会等でも発表される。大学院生との共同研究となることも多い。また、大学院進学者はその研究の連続が修士論文、修士計画に発展する場合が多い。卒業論文に着手するためには、原則として学部3年までの『必修科目』の履修を済ませている必要がある。ただし学士入学生、他学科転科生などについてはこの条件の対象としない。

卒業計画も一生に一度の仕事として、自由な条件設定の下に学生時代の夢を託す作品を残すものとなる。従って自分がこの世の中にあってほしいと希う建築などをテーマとして定め、自らその解答を図面の形で提案することが求められる。卒業計画の作成はグループで行うこととしているが、芸術系と工学系との両分野の学生で構成され、卒業論文で得られた成果を作品として共同でまとめあげることが望ましい。設計製図Ⅲ a またはⅢ b の単位を修得していなければ卒業計画に着手することが認められない。また、卒業計画については、提出期限に遅れた者は理由の如何を問わず卒業延期となる。

本学科では社会文化領域コースへ進学することは認めていない。

履修上の注意

(1) 建築士（一級、二級・木造）試験の受験資格

建築士試験の受験資格を得るためには、別途、履修すべき科目（指定科目という）が定められている。建築学科の必修科目および選択必修科目をすべて履修することで、指定科目に関する要件を満たすことができるが、学年始めのガイダンスに出席して必ず確認すること。

(2) JABEE 関連の注意

建築学科の必修科目および選択必修科目をすべて履修していれば、この認定を受ける資格は得られるが、そのほかにも、注意すべき事項があるので、学年始めのガイダンスに出席して必ず確認すること。

建築学科 専門教育科目配当表

(I) 専門必修科目

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
創造理工リテラシー	2	○							
建築と社会	2	○							
建築意匠と歴史	2	○							
建築と建築工学	2	○							
建築表現Ⅰ	2	○							
建築・都市と環境	2		○						
建築表現Ⅱ	2		○						
建築静力学Ⅰ	2		○						
建築表現Ⅲ	2			○					
建築構造法Ⅰ	2			○					

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 録

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 学 費

4. 学科目系列

5. A 群科目

6. B 群科目

7. C 群科目

8. 学科別案内
(C 群科目)

建築

総機

経営

社工

資源

9. D 群科目

10. 他学部聴講

11. 教職免許

12. 科目登録

13. 授業時間帯

14. 試 験

15. レポート・論文作成

16. 成績の表示

17. 転部・転科試験

18. 復学者の履修方法

19. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 学科目系列
5. A 群科目
6. B 群科目
7. C 群科目
8. 学科別案内 (C 群科目)
建築
総機
経営
社工
資源

9. D 群科目
10. 他学部聴講
11. 教職免許
12. 科目登録
13. 授業時間帯
14. 試 験
15. レポート・論文作成
16. 成績の表示
17. 転部・転科試験
18. 復学者の履修方法
19. 科目等履修生

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
構造計画	2			○					
建築静力学2	2			○					
建築材料 I	2			○					
設計製図 I	2				○				
建築施工法 I	2				○				
都市計画	2				○				
設備防災計画	2				○				
設計製図 II	2					○			
建築構造製図	1					○			
建築設計原論	2					○			
建築生産マネジメント	2					○			
景観設計	2					○			
建築環境学	2					○			
建築環境設備製図	1						○		
建築法規	2						○		
卒業論文	3							○	○
卒業計画	3							○	○
専門必修科目合計	54								

※設計製図 I の履修は、建築表現Ⅲの履修後に行うものとする。

(Ⅱ) 専門選択必修科目 (14 単位以上修得すること。)

学 科 目 名	単位 数	開 講 学 期					
		第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度	第 4 年度		
		春	秋	春	秋		
《実験部門》							
建築工学実験 A	3			○			
建築工学実験 B	3			○			
建築工学実験 C	3				○		
建築工学実験 D	3				○		
《製図部門》							
設計製図Ⅲ a	2					○	
設計製図Ⅲ b	2					○	
《演習部門》							
建築歴史意匠演習	3						○

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期			
		第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度	第 4 年度
		春 秋	春 秋	春 秋	春 秋
建築実務訓練	3				○
都市計画演習	3				○
環境演習	3				○
構造演習	3				○
建築生産演習	3				○
《計画部門》					
建築計画 A	2		○		
建築計画 B	2		○		
建築計画 C	2			○	
《歴史部門》					
日本建築史	2			○	
近代建築史	2			○	
専門選択必修科目合計	44				

※《実験部門》4科目から1科目を選択

※《製図部門》2科目から1科目を選択

※《演習部門》6科目から1科目を選択

※《計画部門》3科目から2科目または3科目を選択

※《歴史部門》2科目から1科目または2科目を選択

(Ⅲ) 専門選択科目

学 科 目 名	単 位 数	開講学期			
		第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度	第 4 年度
		春 秋	春 秋	春 秋	春 秋
建築と情報	2	○			
設計演習 A	2		○		
設計演習 B	2		○		
建築数学 A	2		○		
現代都市・地域論 A	2		夏Q		
現代都市・地域論 B	2		夏Q		
建築材料Ⅱ	2			○	
設計演習 C	2			○	
比較西洋建築史	2			○	
骨組の力学	2			○	
建築構造法Ⅱ	2			○	

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 学科目系列
5. A 群科目
6. B 群科目
7. C 群科目
8. 学科別案内 (C 群科目)

建築

総機

経営

社工

資源

9. D 群科目
10. 他学部聴講
11. 教職免許
12. 科目登録
13. 授業時間帯
14. 試 験
15. レポート・論文作成
16. 成績の表示
17. 転部・転科試験
18. 復学者の履修方法
19. 科目等履修生

I 特 徴	学 科 目 名	単 位 数	開講学期							
			第 1 年度		第 2 年度		第 3 年度		第 4 年度	
			春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
II 沿革と概要	空調調和衛生設備	2					○			
III 学部要項	設計演習 D	2					○			
IV 学生生活	鉄筋コンクリート構造設計 I	2					○			
V 付 録	鉄骨構造設計 I	2					○			
	建築動力学	2					○			
1. 単位制	建築施工法 II	2					○			
2. 学位・卒業	世界建築史	2						○		
3. 学 費	設計演習 E	2						○		
4. 学科目系列	構造解析	2						○		
5. A 群科目	鉄筋コンクリート構造設計 II	2						○		
6. B 群科目	鉄骨構造設計 II	2						○		
7. C 群科目	基礎構造設計	2						○		
8. 学科別案内 (C 群科目)	広域環境論	2						○		
建築	電気情報設備	2						○		
総機	建築経済	2						○		
経営	建築生産システム演習	1						○		
社工	設計演習 G	2							○	
資源	地震工学	2							○	
9. D 群科目	構造総合設計演習	2							○	
10. 他学部聴講	設計演習 F	2							○	
11. 教職免許	専門選択科目合計	61								
12. 科目登録										
13. 授業時間帯										
14. 試 験										
15. レポート・論文作成										
16. 成績の表示										
17. 転部・転科試験										
18. 復学者の履修方法										
19. 科目等履修生										

(Ⅳ) 創造共通科目

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第 1 年度		第 2 年度		第 3 年度		第 4 年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
共創ワークショップ演習	2			春Q					
最新システムの社会実装技術	2						○		
創造共通科目合計	4								

※ A ～ D 群その他から任意に選択できる単位として卒業必要単位に算入できる。

※ C 群選択科目として必要な 8 単位には算入されない。

※ Q はクォーターの略。

総合機械工学科

総合機械工学科で学ぶ機械工学とは、技術に定位を置く学問であり、その「技術」を人間の設計（デザイン）行為として広くとらえることにより、科学でこれまで扱うことが困難であった「価値観や背景が異なる多様な人間の生活（営み）の場に調和した共創の技術」を目指す新しい学問領域を開拓する。具体的には、環境、エネルギー、医療福祉、高齢者介助、コミュニティづくりといった現代社会が抱える諸問題を、個々の人間に則して解決していくための機械の設計原理ならびにそれらの開発と社会的評価について、学科を超えたプロジェクト的研究を展開する。

教育面においては、「技術」を単に「ものづくり」ととどめておくのではなく、「人づくり」にまで拡張するために、これまでとは異なる新しい教育方法を導入する。技術は本来、実践的性格を強く帯びたものであるから、これを踏まえると、生活者と共に「ものづくり」を遂行していくための実践感覚やコーディネーション能力を育成できる教育体制が要請されることになる。この「実践的な知」は身体的な働きによって獲得されるものであり、「科学的な知」が頭脳の働きにより角逐されることと対をなすものである。

この2つの知を両輪として循環的に働かせる教育カリキュラムとプロジェクト研究を連動させることによって、生活の現場における社会的問題に即応し、それを善い方向に導くことができる構想力と実践能力、論理構成能力を有する開発エンジニアを育成するための教育を展開する。

所定単位数

	専門必修科目	専門選択科目
所定単位数	50 単位	20 単位

ゼミナール、エンジニアリング・プラクティスおよび卒業論文・計画の着手条件について

総合機械工学科の学生は、3年生になると各教員のもとで、ゼミナールおよびエンジニアリング・プラクティスの科目を履修する。また、4年生になるとそれぞれの指導教員のもとで、卒業論文・計画を作成する。これらの科目は総合機械工学科の教育の中核をなし、自主的な学習態度がより強く要求されると同時に各専攻分野の出発点ともなるので、これらを履修するには、原則として次の条件を満たさなければならない。

1. ゼミナール、エンジニアリング・プラクティスを履修するためには、第1年度および第2年度のA群、B群、およびC群の必修科目の単位を修得していること。ただし、エンジニアリング・プラクティス（通年）、あるいはエンジニアリング・プラクティスA・B（各半期）の履修については、指導教員の指示に従うこと。
2. 卒業論文・計画に着手するためには、第3年度までのA群、B群、およびC群の必修科目の単位を修得していること。さらに、卒業必要単位に算入可能な選択科目の単位もすべて合計して122単位以上を修得していること。

履修上の注意

上記の条件の詳細は、2年生の学期末にクラス担任から説明されるが、1年生から各科目を配当年度に着実に履修すること。特に実験実習科目の未修得者は、学力と時間の関係から4年間で卒業が不可能になる恐れがあるので、十分注意すること。

なお、大学院進学等に関する相談はクラス担任、ゼミナール担当教員に申し出ること。

I 特徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付録
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学費
4. 学科目系列
5. A群科目
6. B群科目
7. C群科目
8. 学科別案内(C群科目)
建築
総機
経営
社工
資源
9. D群科目
10. 他学部聴講
11. 教職免許
12. 科目登録
13. 授業時間帯
14. 試験
15. レポート・論文作成
16. 成績の表示
17. 転部・転科試験
18. 復学者の履修方法
19. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 学科目系列
5. A 群科目
6. B 群科目
7. C 群科目
8. 学科別案内 (C 群科目)
建築
総機
経営
社工
資源
9. D 群科目
10. 他学部聴講
11. 教職免許
12. 科目登録
13. 授業時間帯
14. 試 験
15. レポート・論文作成
16. 成績の表示
17. 転部・転科試験
18. 復学者の履修方法
19. 科目等履修生

総合機械工学科 専門教育科目配当表

(Ⅰ) 専門必修科目

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
ビジュアルシンキング	2	○							
創造理エリテラシー	2	○							
エンジニアリングメカニクス	2	○							
メカトロニクスラボF	2	○							
デザインエンジニアリング	2		○						
プロジェクト・ベースド・ラーニングF	2		○						
フルードダイナミクスF	2		○						
マテリアルメカニクス	2			○					
マシニングラボ	2			○					
コントロールエンジニアリング	2			○					
プロジェクト・ベースド・ラーニングA	2			○					
マテリアルズエンジニアリング	2				○				
エンジニアリング・サーモダイナミクス	2				○				
アドバンストマテリアルメカニクス	2				○				
メカニカルドローイング・デザインF	2				○				
ゼミナール	4					○	○		
エンジニアリング・プラクティス	2					○	○		
メカニカルエンジニアリングラボF	2					○			
メカニカルドローイング・デザインA	2					○			
メカニカルエンジニアリングラボA	2						○		
プロダクションプラクティス	2						○		
卒業論文・計画	6							○	○
専門必修科目合計	50								

(Ⅱ) 専門選択科目

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
メカトロニクスラボA	2		○						
フルードダイナミクスA	2			○					
メカトロニクス	2				○				
マテリアルファンダメンタルズ	2				○				
構造物のダイナミクス	2				○				
熱エネルギー工学	2					○			
熱エネルギー変換工学	2					○			
機械材料の力学物性	2					○			

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
インダストリアルマテリアルズ	2					○			
共創機械工学	2					○			
宇宙構造物工学	2					○			
原子力発電概論	2					○			
画像工学基礎	2					○			
機械系解析法F	2					○			
構造動力学特論	2					○			
人工衛星設計 PBL A	2					○			
宇宙粒子線物理学	2					集中			
月惑星探査と科学	2					集中			
バイオメカトロニクス	2						○		
バイオエンジニアリング	2						○		
マイクロ・ナノマシーン	2						○		
知的生産システム	2						○		
移動速度論	2						○		
熱エネルギー・反応工学	2						○		
宇宙構造の設計と制御	2						○		
宇宙科学技術	2						○		
エンジン設計工学	2						○		
人工衛星設計 PBL B	2						○		
輸送機器材料	2						集中		
知的所有権概論※	2							○	
自動車工学	2							○	
自動車用パワートレイン開発プロセス及び開発手法	2							○	
構造材料生産技術	2							集中	
熱機関	2								○
エネルギー最前線	2								○
専門選択科目合計	70								

※春学期・秋学期のいずれか一方のみ受講可能

(Ⅲ) 創造共通科目

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
共創ワークショップ演習	2			春Q					
最新システムの社会実装技術	2						○		
創造共通科目合計	4								

※ C 群専門選択科目として卒業必要単位に算入できる。

※ Q はクォーターの略。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 学科目系列
5. A 群科目
6. B 群科目
7. C 群科目
8. 学科別案内 (C 群科目)
建築
総機
経営
社工
資源
9. D 群科目
10. 他学部聴講
11. 教職免許
12. 科目登録
13. 授業時間帯
14. 試 験
15. レポート・論文作成
16. 成績の表示
17. 転部・転科試験
18. 復学者の履修方法
19. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

経営システム工学科

経営システム工学科で学ぶ経営システム工学とは経営システムの目標達成すなわち問題解決のための工学である。人・もの・情報を包含する多様な経営システムのデザインおよび実現を通じて、人々の生活の質（Quality of Life）の向上を目指す。

所定単位数

	専門必修科目	専門選択科目
所定単位数	48 単位	26 単位

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 学 費

4. 学科目系列

5. A 群科目

6. B 群科目

7. C 群科目

8. 学科別案内
(C 群科目)

建築

総機

経営

社工

資源

9. D 群科目

10. 他学部聴講

11. 教職免許

12. 科目登録

13. 授業時間帯

14. 試 験

15. レポート・論文作成

16. 成績の表示

17. 転部・転科試験

18. 復学者の履修方法

19. 科目等履修生

卒業論文着手の条件

研究室に所属して、「経営システム工学演習」を含め、卒業必要単位数に算入できる単位数(成績表の[算入] 欄に記載されるもの)の合計が 110単位以上、かつその中の A、B、C 群の合計が 99単位以上修得済み。

ただし、学士入学等で特別の事情がある場合、この限りではない。

履修上の注意

- (1) 複合領域科目(A1 群科目)の特論科目に設置してある「経済学 A (ミクロ)、経済学 A (マクロ)」、「経済学 B (ミクロ)、経済学 B (マクロ)」、「経済学 A (ミクロ)、経済学 B (マクロ)」、「経済学 B (ミクロ)、経済学 A (マクロ)」(4 単位)のいずれかの組み合わせを必修として履修すること。
- (2) 卒業研究演習は A1 と A2 のうちいずれかと、B1 と B2 のいずれかをあわせて 4 単位を修得しなければならない。ただし、同一年度の同一学期に A と B の両方を修得することはできない。通常は A1 と B1 の組合せを履修する。
- (3) 経営システム工学演習は A か B のいずれかを修得しなければならない。ただし、通常は A のみを修得し、B を修得する場合は特別の事情がある場合に限られ、学科の承認を要する。

経営システム工学科 専門教育科目配当表

(I) 専門必修科目

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
創造理工リテラシー	2	○							
経営システム工学入門実験	2	○							
経営システム工学総論	2	○							
統計解析法	2	○							
統計解析法演習	1	○							
情報処理基礎演習	2		○						
情報システム開発演習	2			○					
メソッドエンジニアリング演習	2			○					
確率とその応用	2			○					
コンピュータ工学	2			○					
人間工学概論	2			○					
生産管理学	2			○					
生産工学基礎	2			○					
生産システム工学実験	2				○				
基礎オペレーションズ・リサーチ	2				○				
品質マネジメント	2				○				
システム基礎	2				○				
オペレーションズリサーチ演習	1				○				
プロフィットマネジメント	2				○				
情報数理基礎	2				○				
経営システム工学演習A	1						○		
経営システム工学演習B	1							○	
卒業研究演習A 1	2							○	
卒業研究演習B 2	2							○	
卒業研究演習B 1	2								○
卒業研究演習A 2	2								○
卒業研究	5							○	○
専門必修科目合計※ ²	48								

※¹ 前頁の「履修上の注意」を参照すること。

※² 経営システム工学演習A、卒業研究演習A 1とB 1を履修した場合。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 学科目系列
5. A 群科目
6. B 群科目
7. C 群科目
8. 学科別案内 (C 群科目)
建築
総機
経営
社工
資源
9. D 群科目
10. 他学部聴講
11. 教職免許
12. 科目登録
13. 授業時間帯
14. 試 験
15. レポート・論文作成
16. 成績の表示
17. 転部・転科試験
18. 復学者の履修方法
19. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

(Ⅱ) 専門選択科目

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 学科目系列
5. A 群科目
6. B 群科目
7. C 群科目
8. 学科別案内 (C 群科目)
建築
総機
経営
社工
資源
9. D 群科目
10. 他学部聴講
11. 教職免許
12. 科目登録
13. 授業時間帯
14. 試 験
15. レポート・ 論文作成
16. 成績の表示
17. 転部・ 転科試験
18. 復学者の 履修方法
19. 科目等履修生

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
経営実践・国内プロジェクト	2	○	○						
経営実践・海外プロジェクト	2	○	○						
経営システム・国際プロジェクト	2	○	○						
経営計画	2					○			
多変量解析法A	2					○			
多変量解析法B	2					○			
オペレーションズリサーチA	2					○			
オペレーションズリサーチB	2					○			
実験計画法	2					○			
知識情報処理	2					○			
人間生活工学	2					○			
マーケティング・リサーチ	2					○			
生産・流通マネジメント	2					○			
施設計画	2					○			
製品開発工学	2					○			
応用システム思考	2					○			
データサイエンスと機械学習	2					○			
情報システム	2					○			
価値創造戦略工学	2					○			
経営システム工学専門実習（人間工学）	4						○		
経営システム工学専門実習（設計・製作）	4						○		
経営システム工学専門実習（システム分析）	4						○		
データエンジニアリング・演習	2						○		
安全人間工学	2						○		
人材マネジメント論	2						○		
製造プロセス工学	2						○		
数理統計学	2						○		
ロジスティクス	2						○		
生産システム論	2						○		
ソフトウェア工学	2						○		
数理工学基礎	2						○		

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
最適化・シミュレーション演習	2						○		
品質工学	2						○		
ソフトウェアマネジメント	2							集中	
国際知的財産経営論A	1							春Q	
国際知的財産経営論B	1							夏Q	
専門選択科目合計	76								

(Ⅲ) 創造共通科目

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
共創ワークショップ演習	2			春Q					
最新システムの社会実装技術	2						○		
創造共通科目合計	4								

※ C 群専門選択科目として卒業必要単位に算入できる。

(Ⅳ) 専門自由科目

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
工場見学・実習	2			○	○				
専門自由科目合計	2								

※ Q はクォーターの略。

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 録

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 学 費

4. 学科目系列

5. A 群科目

6. B 群科目

7. C 群科目

8. 学科別案内
(C 群科目)

建築

総機

経営

社工

資源

9. D 群科目

10. 他学部聴講

11. 教職免許

12. 科目登録

13. 授業時間帯

14. 試 験

15. レポート・
論文作成

16. 成績の表示

17. 転部・
転科試験

18. 復学者の
履修方法

19. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

社会環境工学科

社会環境工学科は、地球的視点から自然環境の保全、人間環境の向上、人間社会の安全等を工学的に取り扱う学科である。技術者倫理に基づいて、人間が安全で文化的な生活を送るために必要な社会基盤を整備し、人間が自然との協調と共生の中で生活するための方策を実現するために必要な、極めて広い領域を対象とするため、社会基盤、環境・防災、計画・マネジメントの3部門から構成されている。

社会基盤部門では、構造力学、構造工学、構造設計、コンクリート工学の4研究室がある。環境・防災部門では、河川工学、海岸工学、水環境工学、土質力学、地盤工学の5研究室がある。計画・マネジメント部門では、都市計画、交通・都市、景観・デザインの3研究室がある。

相互に異なる内容を専門とする専任教員と非常勤講師により、社会環境工学の幅広い専門分野が漏れなくカバーされているのが特色である。

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 学科目系列
5. A 群科目
6. B 群科目
7. C 群科目
8. 学科別案内 (C 群科目)

所定単位数

	専門必修科目	専門選択必修科目	専門選択科目
所定単位数	39 単位	4 単位	31 単位

卒業論文または卒業計画の着手の条件

1. A 群科目は、複合領域科目 (A1) で 14 単位以上、外国語科目 (A2) で 12 単位以上を修得していること。
2. B 群科目は、18 単位以上を修得していること。
3. C 群科目に関しては、第1～第3年度配当のすべての実験科目の単位を修得していること。
ただし、S がついている者に対しては別途判断する。
4. 合計修得単位が 110 単位以上であること。

建築
総機
経営
社工
資源

社会環境工学科 専門教育科目配当表

(I) 専門必修科目

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
構造力学A	2	○							
創造理工リテラシー	2	○							
構造力学B	2		○						
空間デザイン	2		○						
構造力学C	2			○					
環境材料学	2			○					
水理学A	2			○					
計画基礎手法	2			○					
土質力学A	2			○					
社会環境工学実験	1			○					

9. D 群科目
10. 他学部聴講
11. 教職免許
12. 科目登録
13. 授業時間帯
14. 試 験
15. レポート・論文作成
16. 成績の表示
17. 転部・転科試験
18. 復学者の履修方法
19. 科目等履修生

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
構造デザイン	2				○				
構造力学D	2				○				
水理学B	2				○				
計画システム	2				○				
土質力学B	2				○				
コンクリート構造学A	2				○				
コンクリート実験	1					○			
水理・水質実験	1					○			
水環境工学	2					○			
構造実験	1						○		
土質実験	1						○		
卒業論文又は計画	2							○	○
専門必修科目合計	39								

- (Ⅱ) 専門選択必修科目 ○印の科目のうち、いずれか1科目を履修し、2単位を修得すること。
△印の科目のうち、いずれか1科目を履修し、その科目と連動している▽印の科目1科目とともに、2単位を修得すること。

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
○社会基盤系ゼミナール	2						○		
○計画・マネジメント系ゼミナール	2						○		
○環境・防災系ゼミナール	2						○		
△社会基盤系専門演習A	1							○	
△計画・マネジメント系専門演習A	1							○	
△環境・防災系専門演習A	1							○	
▽社会基盤系専門演習B	1								○
▽計画・マネジメント系専門演習B	1								○
▽環境・防災系専門演習B	1								○
専門選択必修科目合計	12								

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 学科目系列
5. A 群科目
6. B 群科目
7. C 群科目
8. 学科別案内 (C 群科目)
建築
総機
経営
社工
資源
9. D 群科目
10. 他学部聴講
11. 教職免許
12. 科目登録
13. 授業時間帯
14. 試 験
15. レポート・論文作成
16. 成績の表示
17. 転部・転科試験
18. 復学者の履修方法
19. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

(Ⅲ) 専門選択科目

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 学科目系列
5. A 群科目
6. B 群科目
7. C 群科目
8. 学科別案内 (C 群科目)
建築
総機
経営
社工
資源
9. D 群科目
10. 他学部聴講
11. 教職免許
12. 科目登録
13. 授業時間帯
14. 試 験
15. レポート・論文作成
16. 成績の表示
17. 転部・転科試験
18. 復学者の履修方法
19. 科目等履修生

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
構造力学演習 A	1	○	○						
社会環境工学フレッシュセミナー	1	○							
測量	2	○							
測量実習	1	○							
地球科学 A	2	○							
生命科学概論 A	2	○							
空間情報実習	1		○						
空間情報学	2		○						
地球科学 B	2		○						
構造力学演習 B	1			○	○				
水理学演習	1			○	○				
土質力学演習	1			○	○				
地質工学	2			○					
空間デザイン演習	1			○					
数学 D	2			○					
技術者倫理と社会システム	1			春Q					
環境工学	2				○				
構造デザイン演習	1				○				
景観工学	2				○				
数学 E	2				○				
環境水理学	2					○			
都市計画	2					○			
専門応用数学	2					○			
設計演習 A	1					○			
地震学概論	2					○			
社会環境工学セミナー	1					○			
景観まちづくり	2					○			
プロジェクトマネジメント	2					○			
海岸工学	2					○			
防災地盤工学	2					○			
道路アセットマネジメント	2					○			

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
数値シミュレーション	2					○			
橋梁工学	2						○		
交通まちづくり	2						○		
環境地盤工学	2						○		
リスクマネジメント	2						○		
設計演習B	1						○		
社会資本整備	2						○		
水圏環境防災工学	2						○		
トンネル地盤工学	2						○		
都市代謝工学	2						○		
基盤再生工学	2						○		
ハイパフォーマンスコンピューティング	2						○		
計画設計実習	1							○	
専門選択科目合計	74								

(Ⅳ) 創造共通科目

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
共創ワークショップ演習	2			春Q					
最新システムの社会実装技術	2						○		
創造共通科目合計	4								

※ C 群専門選択科目として卒業必要単位に算入できる。

※ Q はクォーターの略。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 学科目系列
5. A 群科目
6. B 群科目
7. C 群科目
8. 学科別案内 (C 群科目)

建築

総機

経営

社工

資源

9. D 群科目
10. 他学部聴講
11. 教職免許
12. 科目登録
13. 授業時間帯
14. 試 験
15. レポート・論文作成
16. 成績の表示
17. 転部・転科試験
18. 復学者の履修方法
19. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

環境資源工学科

環境資源工学科は、「資源開発と環境保全」「天然資源の偏在と国際協力」「資源の枯渇と省資源・省エネルギー」「資源リサイクル」「廃棄物の適正処分・管理」「大気・水・地質環境」「自然災害とその予測・防災」などの資源・環境問題の根幹に関わる重要課題にグローバルな視点から取り組んでいる。その対象とする分野も、各種資源の採取、分離・精製、再生利用、適正処分といった資源利用・循環に関わる技術はもとより、そのシステムを持続可能とし、かつ、自然環境系における人間生活を担保する、大気・水・森林環境保全、環境調和型リサイクル、環境調整型素材の開発、地殻環境保全、災害予測・予防など多岐にわたっている。従来、資源工学として培われてきた学問・技術領域を基盤としながら、資源循環型社会の構築や地球規模での環境保全を視座においた教育と研究を展開している。

本学科では社会文化領域コースへ進学することは認めていない。

所定単位数

	専門必修科目	専門選択必修科目	専門選択科目
所定単位数	40 単位	1 単位	24 単位

卒業論文着手の条件

1. 第2年度までの必修科目の単位をすべて修得していること。
2. 複合領域科目（A1 群科目）を 12 単位以上修得していること。
3. 卒業必要単位数に算入される科目を 120 単位以上を修得していること。

環境資源工学科 専門教育科目配当表

(I) 専門必修科目

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期			
		第1年度	第2年度	第3年度	第4年度
		春 秋	春 秋	春 秋	春 秋
創造理工リテラシー	2	○			
地球科学 A	2	○			
環境資源工学の展望	1	○			
地球科学 B	2		○		
環境資源と社会	1		○		
無機分析化学実験	2		○	○	
化学熱力学	2		○		
材料力学 B	2		○		
環境保全工学概論	2		○		
資源循環工学概論	2		○		
開発環境工学概論	2		○		
地球科学実験 A	1		○		

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 学科目系列
5. A 群科目
6. B 群科目
7. C 群科目
8. 学科別案内 (C 群科目)
建築
総機
経営
社工
資源
9. D 群科目
10. 他学部聴講
11. 教職免許
12. 科目登録
13. 授業時間帯
14. 試 験
15. レポート・ 論文作成
16. 成績の表示
17. 転部・ 転科試験
18. 復学者の 履修方法
19. 科目等履修生

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
電磁気学 A	2			○					
環境資源経済論	2				○				
地球物質科学	2				○				
地殻情報工学概論	2				○				
地球科学実験 B	1				○				
素材プロセス工学概論	2				○				
電磁気学 B	2				○				
応用数学及び演習	1					○			
応用物理化学及び演習 A	1					○			
環境資源工学実験 A	1					○			
環境資源工学実験 B	1						○		
卒業論文	2							○	○
専門必修科目合計	40								

(Ⅱ) 専門選択必修科目 (いずれか 1 科目履修)

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
地殻情報工学及び演習	1						○		
応用物理化学及び演習 B	1						○		
専門選択必修科目合計	2								

(Ⅲ) 専門選択科目

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期			
		第1年度	第2年度	第3年度	第4年度
		春	秋	春	秋
【(A) 共通科目】					
環境機器分析	2		○		
化学統計力学	2		○		
素材機器分析評価	2			○	
水理学	2			○	
数理統計学	2			○	
有機化学	2				○
【(B) 地球・資源系関連科目】					
ジオインフォマテックス	2		○		
地殻情報工学の基礎	2		○		
石油・天然ガス開発技術の最先端	2		○		
鉱物資源開発技術の最先端	2		○		

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 学科目系列
5. A 群科目
6. B 群科目
7. C 群科目
8. 学科別案内 (C 群科目)

建築
総機
経営
社工
資源

9. D 群科目
10. 他学部聴講
11. 教職免許
12. 科目登録
13. 授業時間帯
14. 試 験
15. レポート・論文作成
16. 成績の表示
17. 転部・転科試験
18. 復学者の履修方法
19. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 学科目系列
5. A 群科目
6. B 群科目
7. C 群科目
8. 学科別案内 (C 群科目)
建築
総機
経営
社工
資源
9. D 群科目
10. 他学部聴講
11. 教職免許
12. 科目登録
13. 授業時間帯
14. 試 験
15. レポート・論文作成
16. 成績の表示
17. 転部・転科試験
18. 復学者の履修方法
19. 科目等履修生

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
岩盤力学	2					○			
地圏物理探査工学	2					○			
油層工学の基礎	2					○			
資源地球科学	2						○		
数値岩盤工学	2						○		
油層シミュレーション	2						○		
地圏流体力学	2						集中		
地震探査工学	2							○	
【(C) 素材・循環系関連科目】									
金属生産工学	2					○			
粉体制御工学	2					○			
資源分離工学	2					○			
化学工学総論	2					○			
素材物理化学B	2					○			
素材物理化学A	2						○		
素材物質科学	2						○		
金属材料学	2						○		
資源リサイクリング	2						○		
環境界面工学	2						○		
【(D) 人間・環境系関連科目】									
環境地質学	2					○			
労働衛生工学	2					○			
環境水質工学	2					○			
同位体環境学	2					○			
環境研究の実践と国際協力	2					集中			
環境地球化学	2						○		
環境リスク工学	2						○		
海洋地球環境学	2						○		
廃棄物管理工学	2							○	
専門選択科目合計	74								

(Ⅳ) 創造共通科目

学 科 目 名	単 位 数	開 講 学 期							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
共創ワークショップ演習	2			春Q					
最新システムの社会実装技術	2						○		
創造共通科目合計	4								

※ A～D 群その他から任意に選択できる単位として卒業必要単位に算入できる。

※ C 群選択科目として必要な 24 単位には算入されない。

※ Q はクォーターの略。

9 保健体育・自主挑戦科目（D 群科目）

本学部の学科目の単位のほかに保健体育科目と自主挑戦科目を併せて 4 単位までを卒業に必要な単位数として履修できる。

(1) 保健体育科目

1 年間に履修できる保健体育科目は、年間 4 単位に限る。その組み合わせは、スポーツ理論とスポーツ実習をどのように組み合わせてもよい。

詳細については、グローバルエデュケーションセンターの発行する『全学オープン科目履修ガイド』を参照すること。

(2) 自主挑戦科目

「理工文化論」

20 世紀は人類史上最も「理工文明」の栄えた時代であった。21 世紀に人類に課された命題は、その成果をいかに人類に回帰するかにある。すなわち、21 世紀は「理工文明」から「理工文化」への脱却の時代であると言っても過言ではない。本講義では、早稲田大学教授陣に加えて各界のオピニオン・リーダーでもある、学外の著名な科学者・文化人がそれぞれの立場から「理工文化」への熱き思いを語る。

講義への出席状況および提出されたレポートによって評価が行われ、所定の基準以上の評価を得た者に D 群科目として 2 単位が与えられる。

「ボランティア」

この科目は、学内外で学生が自らの意志で自発的に関った福祉・災害救援・人権・平和環境などの人間社会の切実な諸問題に対する実質 5 日間程度の活動を対象とする。「活動報告書」と「活動を通じて得たもの」を述べたレポートの 2 つの提出物を基に評価が行われ、所定の基準以上の評価を得た者に D 群科目として 2 単位（重複履修不可）が与えられる。

ただし、特定の宗教、政治に関わるようなものは、本科目の対象としない。

(注) 事前に、「ボランティア申請書」、「保護者等の同意書」を提出すること。加えて、「早稲田大学学生補償制度（傷害補償）：略称『学傷補』」と「早稲田大学学生補償制度（賠償責任補償）：略称『学賠補』」に加入すること。

「インターンシップ」

理工学術院では、60 時間以上（実質 10 日以上）のインターンシップ実習について、申請に基づき、「D 群自主挑戦科目（3 年生配当 2 単位、重複履修不可）」として単位認定を行う。

研究室での研究内容や関連分野が実際の生産現場の研究・開発の課程の中でどのように活用されているかを体験する等、高度な能力を養うことを目的とする。指導教員と協議の上、今後の研究に役立てられる企業、プログラムを選定すること。

(注) 実習前後に MyWaseda からの申請および企業等受入機関による実習評価書の送付が必要となる。詳細は理工学術院 Web サイトを確認すること。

(注) 学生が個人で参加するインターンシップについては、早稲田大学学生補償制度（傷害補償）（略称：学傷補）および早稲田大学学生賠償制度（略称：学賠補）への加入ができないため、任意の保険への加入を強く推奨する。なお、早稲田大学生生活協同組合各店舗にて大学生協の学生総合共済加入を受け付けている。学科・専攻が推奨しているインターンシップについては、学傷補、学賠補への加入が可能。また、学科・専攻が推奨しているインターンシップにおいて海外で実習を行う場合は、大学指定の海外旅行保険への加入が義務付けられているため、理工学術院統合事務所教学支援課にて申請書類を受け取り、必ず手続きをすること。

(注) 受入企業によっては、インターンシップを行う際に、参加学生の誓約書等以外に大学との契約締結

I 特徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付録

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 学費

4. 学科目系列

5. A 群科目

6. B 群科目

7. C 群科目

8. 学科別案内
(C 群科目)

建築

総機

経営

社工

資源

9. D 群科目

10. 他学部聴講

11. 教職免許

12. 科目登録

13. 授業時間帯

14. 試験

15. レポート・論文作成

16. 成績の表示

17. 転部・転科試験

18. 復学者の履修方法

19. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

を求められる場合があるが、学生が個人で参加する自由応募のインターンシップについては、大学として契約締結は行わない。学科・専攻が推奨するインターンシップについても、原則として契約締結は行わない。

(注) 建築学科は「建築実務訓練」、経営システム工学科は「経営実践・国内プロジェクト」「経営実践・海外プロジェクト」「経営システム・国際プロジェクト」、社会環境工学科は「社会環境工学プラクティカル」、環境資源工学科は「実務研修」が用意されているので「インターンシップ」としての単位は付与されない。

自主挑戦科目配当表

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
理工文化論	2	○							
ボランティア	2			○	○				
インターンシップ	2					○	○		

※ Q はクォーターの略。

10 他学科・他学部・他学術院・他コース等設置科目の聴講

(1) 他学科・他学部・他学術院・他コース設置科目

他学科・他学部・他学術院・他コース(※)の学科目を聴講し、単位を修得した場合には、「表1」で区分を確認すること。

他学科・他学部・他学術院聴講の区分となっているものについては、「表2」の単位数を上限に卒業に必要な単位数に算入できる。他コース聴講の区分となっているものについては、「表3」の単位数を上限に卒業に必要な単位数に算入できる。

なお、所属学科に設置されている科目と同一名称および実質的に同一内容の科目の聴講は認めない。

また、原則として、実験・実習・演習・製図科目および卒業論文または卒業研究は他学科・他学部聴講を認めない。

※他コース：英語による授業のみで学位を取得できる国際コースおよび英語学位プログラムのこと。

表1：自学科以外の科目を履修した場合の単位取扱区分

科目設置箇所	科 目	区 分
他学科	すべて	他学科聴講
理工学術院内他学部	すべて	理工学術院内他学部聴講
他学術院	学部等提供オープン科目 その他他学部設置科目	他学術院聴講
	各種資格に関する科目 (教育学部・文学部)	教職課程 ※卒業必要単位には算入されない
他コース	すべて (通常コースとの合併科目を除く)	他コース聴講

科目設置箇所	科 目	区 分
グローバルエデュケーションセンター	アカデミックライティング科目	A1 群に 8 単位まで算入可能 /9 単位目からは他学術院聴講
	自然科学科目	
	人文・社会科学科目	
	人間的力量科目（全区分）	
	数学科目	自由科目扱い ※卒業必要単位には算入されない
	英語科目	他学術院聴講
	言語科目	A2 群に 4 単位まで算入可能 /5 単位目からは他学術院聴講
	保健体育科目	本要項「Ⅲ－9.D 群科目」参照
	協定他大学提供科目 (2 年生以上対象・一部 1 年生も可)	他学術院聴講
	データ科学科目	算入可否は科目により異なる※ ¹
	情報科目	
	日本語教育科目	他学術院聴講
	その他	自由科目扱い ※卒業必要単位には算入されない
留学センター	すべて	他学術院聴講

※¹ 下記 Web サイトにて確認すること

<https://www.waseda.jp/fsci/students/registration/>

表 2：他学科・他学部・他学術院聴講 卒業必要単位数に算入できる上限単位数

学科名	他学科聴講	理工学術院内他学部聴講	他学術院聴講	計
建築学科	4 単位	4 単位	4 単位	4 単位
総合機械工学科	10 単位	10 単位	10 単位	10 単位
経営システム工学科	8 単位	8 単位	8 単位	11 単位
社会環境工学科	4 単位	4 単位	4 単位	4 単位
環境資源工学科	4 単位	4 単位	4 単位	4 単位

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 学科目系列
5. A 群科目
6. B 群科目
7. C 群科目
8. 学科別案内 (C 群科目)

建築

総機

経営

社工

資源

9. D 群科目
10. 他学部聴講
11. 教職免許
12. 科目登録
13. 授業時間帯
14. 試 験
15. レポート・論文作成
16. 成績の表示
17. 転部・転科試験
18. 復学者の履修方法
19. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

表 3：他コース聴講 卒業必要単位数に算入できる上限単位数

学科名	他コース聴講	計
建築学科	12 単位	12単位※ ¹
総合機械工学科	10 単位	10単位※ ²
経営システム工学科	8 単位	8単位※ ³
社会環境工学科	20 単位	20単位※ ¹
環境資源工学科	4 単位	4単位※ ¹

※¹ 他コース聴講として修得した単位は、他学科・他学部・他学術院聴講として修得した単位とは別に、学科が設定している 上限単位数まで卒業必要単位数に算入できる。

※² 総合機械工学科は、他学科・他学部・他学術院・他コース併せて10 単位までしか卒業必要単位数に算入できない。

※³ 経営システム工学科は、他学科・他学部・他学術院・他コース併せて 11 単位までしか卒業必要単位数に算入できない。

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 学科目系列
5. A 群科目
6. B 群科目
7. C 群科目
8. 学科別案内 (C 群科目)

(2) 全学オープン科目

早稲田大学には、学部・学年を問わず全学生が履修できる科目が数多くある。これらの科目を総称して「全学オープン科目」という。全学オープン科目は、グローバルエデュケーションセンター（GEC）、留学センターをはじめ、学部や研究科、協定を結んでいる他大学などから幅広い分野にわたって提供されている。

学生は、所属学部独自のカリキュラムに加えて「全学オープン科目」を選択履修し、修得した単位を所属学部の規定にしたがって卒業単位に算入することができる。所属学部の授業と学部の垣根を越えた総合大学ならではのスケールで学ぶことのできる全学オープン科目を上手に組み合わせ、自分の世界を広げ、学ぶことの楽しさを実感してもらいたい。

建築
総機
経営
社工
資源

9. D 群科目
10. 他学部聴講

全学オープン科目の提供箇所と履修方法について

項目	科目、講義内容、科目登録関連の参照先	授業・試験関連の参照先
科目提供箇所		
学部・研究科	・科目提供箇所の Web サイト ・シラバスシステム（Web） ・「全学オープン科目履修ガイド」	・科目提供箇所の Web サイト
グローバルエデュケーションセンター（GEC）		
留学センター		
協定他大学 (2 年生以上対象・一部 1 年生も可)	・グローバルエデュケーションセンター Web サイト ・他大学交流システム（*1）	・科目を提供している大学の Web サイト（*2）

※全学オープン科目の単位の取り扱いについては、所属学部が発行する「学部要項」および「科目登録の手引き」、マニュアル等で確認すること。

*1…協定他大学提供科目を検索、登録するためのサイト。アクセス方法は、グローバルエデュケーションセンター Web サイトで確認できる。

*2…各大学 Web サイトは、「全学オープン科目履修ガイド」およびグローバルエデュケーションセンター Web サイトで確認できる。

15. レポート・論文作成
16. 成績の表示
17. 転部・転科試験
18. 復学者の履修方法
19. 科目等履修生

(3) 学部・研究科以外の全学オープン科目提供箇所

① グローバルエデュケーションセンター（GEC）（URL：<https://www.waseda.jp/inst/gec/>）

GECでは、全学部・全研究科の学生が、専門分野に限らず全く異なる分野も学習できる多種多様な科目を展開している。

すべての学問の基礎となる大学生の必須スキルとして、アカデミック・ライティング科目（「学術的文章の作成」ほか）、数学科目（「数学基礎プラスα（金利編）」ほか）、データ科学科目（「統計リテラシーα」「データ科学入門α」ほか）、情報科目（「プログラミング初級」ほか）、英語科目（「General Tutorial English」「Academic Writing and Discussion in English」ほか）を提供している。また、早稲田大学以外では学ぶ機会の少ない言語科目や、多数の特色あるスポーツ実習科目（「ラクビー」「弓道」ほか）、日本語教育科目（「日本語教育学入門」ほか）も提供している。

人間的力量と呼ばれる科目群には、国内・海外での実習や企業等と協同で実施するワークショップといった問題解決型・体験型の実践的な学びを多く取り入れている。

科目の提供に加えて、GECでは「全学副専攻制度」を設けている。所属している学部で重点的に学ぶ「主専攻」のほかに、その他の学問分野を「副専攻」として体系的に学び、主専攻の補強、第二の強みの獲得、主専攻の応用領域の獲得などを旨とする。全学副専攻の修了者には、卒業時に修了証明書が発行される。

② 留学センター（URL：<https://www.waseda.jp/inst/cie/>）

留学センターは、海外からの留学生受入れや早大生の海外留学支援はもちろん、国際教育プログラムの実施拠点として、留学プログラムと連動し留学先で履修できる科目、外国語学習・テーマ研究・異文化体験を中心とした短期留学科目のほか、海外の学生とともに授業を本学で履修するサマーセッション科目、海外大学からの教員を招へいして実施する「International Japanese Studies」の科目など、独自の科目を学部生に提供している。

なお、短期留学については、「海外語学・文化研修プログラム」として、春季および夏季の両方が科目登録の対象となっている。この制度により、長期留学が難しい学生にも、短期で海外経験を積み、かつ単位を修得できる機会を提供している。

③ 協定他大学（URL：https://www.waseda.jp/inst/gec/undergraduate/other_univ/）

早稲田大学は協定を結んでいる他大学と互いに科目を提供しあっている。早稲田大学には設置されていない各大学特有の科目も多くラインナップされており、登録の選択肢も広がる。他大学からの提供科目も所属学部の規定に従い卒業単位に算入することが可能である。ただし、履修は2年生以上が対象（一部科目については、1年生も履修可能）である。

I 特徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付録

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 学費

4. 学科目系列

5. A群科目

6. B群科目

7. C群科目

8. 学科別案内
(C群科目)

建築

総機

経営

社工

資源

9. D群科目

10. 他学部聴講

11. 教職免許

12. 科目登録

13. 授業時間帯

14. 試験

15. レポート・
論文作成

16. 成績の表示

17. 転部・
転科試験

18. 復学者の
履修方法

19. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 学科目系列
5. A 群科目
6. B 群科目
7. C 群科目
8. 学科別案内 (C 群科目)
建築
総機
経営
社工
資源

9. D 群科目
10. 他学部受講
11. 教職免許
12. 科目登録
13. 授業時間帯
14. 試 験
15. レポート・論文作成
16. 成績の表示
17. 転部・転科試験
18. 復学者の履修方法
19. 科目等履修生

11 教員免許状取得方法

中学校および高等学校の教育職員（以下「教員」）となるためには、教員免許状を取得しなければならない。免許状取得には、卒業に必要な単位を修得すること（学士の学位を有すること）のほかに、「教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目」、「教科及び教職に関する科目」について所定単位を修得する必要がある。

免許状の取得を希望する学生は、**教育・総合科学学術院 教職支援センター**発行の『教職課程履修の手引き』を熟読のうえ、**1 年生から計画を立てて必要な科目を履修すること**。特に、「教科に関する専門的事項」以外の科目の履修方法及び修得単位数は「教職課程の手引き」に従い履修すること。また、教育学部の設置科目なので（授業は早稲田キャンパスで実施）、教育学部 Web サイトや掲示に十分注意すること。「教科に関する専門的事項」（主として自学科の専門教育科目）は、別掲の（7）学科別「教科に関する専門的事項」一覧表にしたがって履修すること。

履修学年 3 年以上の教職課程履修者が同課程必修科目の科目登録において選外となった場合、3 次登録期間初日までに、理工学術院統合事務所（kyousyoku17@list.waseda.jp）まで申し出ること。

本学部で取得できる教員免許状の種類、免許状取得に関する最低修得単位数は以下の通りである。

（1）各学科で取得できる教員免許の種類

学 科	免許状の種類	
	中学 1 種	高校 1 種
建 築 学 科		
総 合 機 械 工 学 科		
経 営 シ ス テ ム 工 学 科		
社 会 環 境 工 学 科	理科	理科
環 境 資 源 工 学 科	理科	理科

（2）免許状取得に関する法令上の最低修得単位数

教育職員免許法施行規則に定める科目		最低修得単位数	
		中学 1 種	高校 1 種
教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		合計 8 単位	合計 8 単位
日本国憲法※ ¹		2	2
体育（実技）		2	2
外国語コミュニケーション		2	2
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作※ ²		2	2
教科及び教職に関する科目		合計 59 単位	合計 59 単位
①教科及び教科の指導法に関する科目※ ³		小計 28 単位	小計 24 単位
教科に関する専門的事項※ ³			
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）※ ³		8	4
②教育の基礎的理解に関する科目		10	10
③道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		10	8
④教育実践に関する科目		7	5
大学が独自に設定する科目※ ⁴		4	12
最低修得単位数の合計		67	67

※¹ 教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目における「日本国憲法」項目を満たすためには、憲法Ⅰ及び憲法Ⅱの両方を修得する必要がある。

※² 必ず「数理、データ活用及び人工知能に関する科目」2 単位もしくは「情報機器の操作」2 単位のいずれかを選択してください。「数理、データ活用及び人工知能に関する科目」1 単位と「情報機器の操作」1 単位の組み合わせは認められません。

※³ 「教科に関する専門的事項」と「各教科の指導法（情報機器及び機材の活用を含む。）」との合算で「小計」に記載の単位数を修得する必要がある。

※⁴ 上表①～④の最低修得単位数を超えて単位を修得した場合は、「大学が独自に設定する科目」の単位として計算される。「大学が独自に設定する科目」の科目区分に設置されている科目を、記載されている単位数以上履修しなければならないという意味ではない。

(3) 各教科の指導法、「教育の基礎的理解に関する科目」等（必修）

科目設置箇所は教育学部（教職課程）。教職に関する科目の年間登録制限単位数は 20 単位。

教育職員免許法施行規則に定める科目		早稲田大学設置科目名	配当 年次	単位 数	履修方法	
					中学	高校
教科及び教科の指導法に関する科目	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	教科教育法 1 ※ ¹	2 または 3	2	必修	必修
		教科教育法 2		2	必修	必修
		教科教育法 3 ※ ²		2	必修	選択
		教科教育法 4 ※ ²		2	必修	選択
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育基礎総論 1（中・高）	1	2	必修	必修
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	教職概論（中・高）	1	2	必修	必修
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育制度総論（中・高）	1	2	必修	必修
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学（中・高）	1	2	必修	必修
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育（中・高）	1	1	必修	必修
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	教育課程編成論（中・高）	2	1	必修	必修
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	道徳教育論（中・高）※ ²	1	2	必修	選択
	総合的な学習の時間の指導法	総合的な学習・探究論（中・高）	1	1	必修	必修
	特別活動の指導法	特別活動論（中・高）	1	1	必修	必修
	教育の方法及び技術	教育方法・技術論（中・高）	2	2	必修	必修
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育における ICT 活用（中・高）	2	1	必修	必修
	生徒指導の理論及び方法	生徒指導・進路指導論（中・高）	1	2	必修	必修
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法					
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	生徒理解と教育相談（中・高）	1	2	必修	必修
教育実践に関する科目	教育実習	教育実習演習（中・高）※ ³ （3 週間）	4	5	必修	—
		教育実習演習（中・高）※ ³ （2 週間）	4	3	—	必修※ ⁴
	教職実践演習	教職実践演習（中・高）※ ⁵	4	2	必修	必修

※¹「教科教育法」は、各自が取得を希望する免許状の教科ごとに履修すること。

※² 高等学校 1 種免許状を取得する場合に「教科教育法 3」「教科教育法 4」「道徳教育論」を履修した場合は「大学が独自に設定する科目」の単位として算入される。

※³「教育実習演習」を履修するためには前提条件が設定されている（詳細は、『教職課程履修の手引き』を参照）。この条件を満たさない場合は、教育実習が行えないので注意すること。

※⁴ 中学校および高等学校の両免許状を取得する場合は、教育実習演習（中・高）（3 週間）を履修すること。

※⁵「教職実践演習」を履修するためには、「教職履修カルテ」の作成が必要となる（詳細は、『教職課程履修の手引き』を参照）。準備が整わない場合は履修することはできない。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 学科目系列
5. A 群科目
6. B 群科目
7. C 群科目
8. 学科別案内 (C 群科目)
建築
総機
経営
社工
資源
9. D 群科目
10. 他学部聴講
11. 教職免許
12. 科目登録
13. 授業時間帯
14. 試 験
15. レポート・論文作成
16. 成績の表示
17. 転部・転科試験
18. 復学者の履修方法
19. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 学科目系列
5. A 群科目
6. B 群科目
7. C 群科目
8. 学科別案内 (C 群科目)
建築
総機
経営
社工
資源
9. D 群科目
10. 他学部聴講
11. 教職免許
12. 科目登録
13. 授業時間帯
14. 試 験
15. レポート・論文作成
16. 成績の表示
17. 転部・転科試験
18. 復学者の履修方法
19. 科目等履修生

(4)「教育の基礎的理解に関する科目」等（選択）

科目設置箇所は教育学部（教職課程）。教職に関する科目の年間登録制限単位数（20 単位）に含まれる。
履修した単位は、「大学が独自に設定する科目」に算入される。

教育職員免許法施行規則に定める科目		早稲田大学設置科目名	配当 年次	単位数	履修方法	
					中学	高校
教育の基礎理論に関する科目	教育の理念並びに教育学部に関する歴史及び思想	教職研究Ⅲ（日本教育史）	2	2	選択	選択
		教職研究Ⅳ（西洋教育史）	2	2	選択	選択
		教職研究Ⅰ（学校教育法規）	2	2	選択	選択
		教職研究Ⅱ（教育行政法規）	2	2	選択	選択
		教職研究Ⅴ（学校外教育）	2	2	選択	選択
		教職研究Ⅸ（教育経営）	2	2	選択	選択
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育の方法及び技術	授業技術演習	3	2	選択	選択

(5) 大学が独自に設定する科目

科目設置箇所は教育学部（教職課程）。教職に関する科目の年間登録制限単位数（20 単位）には含まれない。
中学校 1 種免許状を取得する場合は、介護等体験は必修となる（詳細は、『教職課程履修の手引き』を参照）。

教育職員免許法施行規則に定める科目		早稲田大学設置科目名	配当 年次	単位数	履修方法	
					中学	高校
教科又は教職に関する科目		介護体験実習講義※	3	2	必修	選択
		教職研究Ⅵ（生涯教育）	2	2	選択	選択
		教職研究Ⅷ（総合学習の研究）	2	2	選択	選択
		人間理解基盤講座（心の健康教育に関する理論と実践）	2	2	選択	選択
		初等教育インターンシップ	3	4	選択	選択
		学級経営インターンシップ（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	3	4	選択	選択
		特別支援教育インターンシップ	3	4	選択	選択
		インクルーシブ教育インターンシップ	3	4	選択	選択

※介護等体験を行うには前提条件が設定されている（詳細は、『教職課程履修の手引き』を参照）。この条件を満たさない場合は、介護等体験が行えないので注意すること。

(6) 教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目

本学部における「教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目」の履修方法は以下の通りである。

教育職員免許法施行規則に定める科目		早稲田大学設置科目名	配当年次	単位数	履修方法	
					中学	高校
日本国憲法		「憲法Ⅰ」(A1 群)	1	2	必修	必修
		「憲法Ⅱ」(A1 群)	1	2	必修	必修
体育(実技)		「スポーツ実習Ⅰ」 (GEC 設置科目)	1	1 または 2	2 単位を 選択必修	2 単位を 選択必修
		「スポーツ実習Ⅱ」 (GEC 設置科目)	1	1 または 2		
外国語コミュニケーション		「Communication Strategies 1」(A2 群)	1	1	必修	必修
		「Communication Strategies 2」(A2 群)	1	1	必修	必修
		「Academic Lecture Comprehension 1」(A2 群)	1	1	必修	必修
		「Academic Lecture Comprehension 2」(A2 群)	1	1	必修	必修
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	情報機器の操作	「C プログラミング入門」(B4 群)	1	2	「情報機器の操作」または「数理、データ活用及び人工知能に関する科目」から 2 単位を選択必修	「情報機器の操作」または「数理、データ活用及び人工知能に関する科目」から 2 単位を選択必修
		「コンピュータリテラシー」(B4 群)	1	2		
		プログラミング入門	1	1		
		プログラミング初級 (C/C++)	1	2		
		プログラミング初級 (Java)	1	2		
		プログラミング中級 (Java)	1	2		
		プログラミング中級 (C/C++)	1	2		
		ソフトウェア開発技術 α	1	2		
		ソフトウェア開発技術 β	1	2		
		情報セキュリティ技術	1	2		
		Web デザイン実践	1	2		
		サーバサイド Web プログラミング初級	1	2		

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 学科目系列
5. A 群科目
6. B 群科目
7. C 群科目
8. 学科別案内 (C 群科目)
建築
総機
経営
社工
資源
9. D 群科目
10. 他学部聴講
11. 教職免許
12. 科目登録
13. 授業時間帯
14. 試 験
15. レポート・論文作成
16. 成績の表示
17. 転部・転科試験
18. 復学者の履修方法
19. 科目等履修生

I 特 徴	教育職員免許法施行規則に定める科目	早稲田大学設置科目名	配当 年次	単位数	履修方法	
					中学	高校
II 沿革と概要	情報機器の操作	クライアントサイド Web プログラミング初級	1	2	「情報機器の操作」または「数理、データ活用及び人工知能に関する科目」から2単位を選択必修	「情報機器の操作」または「数理、データ活用及び人工知能に関する科目」から2単位を選択必修
III 学部要項		サーバサイド Web プログラミング中級	1	2		
IV 学生生活		クライアントサイド Web プログラミング中級	1	2		
V 付 録		データベース (SQL 入門)	1	2		
		データベース (管理と運用)	1	2		
1. 単位制		マルチメディア初級 (画像処理とアニメーション) α	1	1		
2. 学位・卒業		マルチメディア初級 (画像処理とアニメーション) β	1	1		
3. 学 費		マルチメディア中級 (画像処理とアニメーション) α	1	1		
4. 学科目系列		マルチメディア中級 (画像処理とアニメーション) β	1	1		
5. A 群科目		ミュージック・プログラミング	1	2		
6. B 群科目		CG エンジニア入門	1	2		
7. C 群科目		数理、データ活用及び人工知能に関する科目	統計リテラシー α	1	1	
8. 学科別案内 (C 群科目)			統計リテラシー β	1	1	
建築			データ科学入門 α	1	1	
総機			データ科学入門 β	1	1	
経営						
土工						
資源						
9. D 群科目						
10. 他学部聴講						
11. 教職免許						
12. 科目登録						
13. 授業時間帯						
14. 試 験						
15. レポート・論文作成						
16. 成績の表示						
17. 転部・転科試験						
18. 復学者の履修方法						
19. 科目等履修生						

(7) 学科別「教科に関する専門的事項」一覧表

各学科には取得できる免許状の種類に応じて教科に関する科目が設置されているが、他学科・他学部聴講が必要な場合がある。実験を他学科・他学部聴講する場合は、設置学科の許可が必要のため、授業開始前に理工学術院統合事務所に申し出ること。

社会環境工学科：理科（中学１種）

教育職員免許法施行規則に定める科目	科 目 名	単 位 数		履修方法 中学	設置学科
		必修	選択		
物理学	○ 土質力学A	2			
	○ 土質力学B	2			
	○ 構造力学A	2			
	○ 構造力学B	2			
	○ コンクリート構造学A	2			
	○ 水理学A	2			
	○ 水理学B	2			
	環境工学	2			
	○ 構造デザイン	2			
化 学	※ 基礎化学A		2	1 科目	化学
	※ 基礎化学B		2	選択必修	化学
	○ 水環境工学		2		
生物学	生命科学概論A	2			
地 学	地球科学A	2			
	地球科学B	2			
物理学実験 (コンピュータ活用を含む。)	※ 理工学基礎実験2 A	2			資源
化学実験 (コンピュータ活用を含む。)	化学実験	1			
生物学実験 (コンピュータ活用を含む。)	生物学実験	1			
地学実験 (コンピュータ活用を含む。)	○ 土質実験	1			
	○ 構造実験	1			
	○ 水理・水質実験	1			
	○ コンクリート実験	1			

○自学科のカリキュラムにおける必修科目

※他学科聴講が必要な科目

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 学科目系列
5. A 群科目
6. B 群科目
7. C 群科目
8. 学科別案内 (C 群科目)
建築
総機
経営
社工
資源
9. D 群科目
10. 他学部聴講
11. 教職免許
12. 科目登録
13. 授業時間帯
14. 試 験
15. レポート・論文作成
16. 成績の表示
17. 転部・転科試験
18. 復学者の履修方法
19. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

社会環境工学科：理科（高校１種）

教育職員免許法施行 規則に定める科目	科 目 名	単 位 数		履修方法 高校	設置学科
		必修	選択		
物理学	○ 土質力学A	2			
	○ 土質力学B	2			
	○ 構造力学A	2			
	○ 構造力学B	2			
	○ コンクリート構造学A	2			
	○ 水理学A	2			
	○ 水理学B	2			
	環境工学	2			
	○ 構造デザイン	2			
化 学	※ 基礎化学A		2	1科目 選択必修	化学
	※ 基礎化学B		2		化学
	○ 水環境工学		2		
生物学	生命科学概論A	2			
地 学	地球科学A	2			
	地球科学B	2			
物理学実験 (コンピュータ活用を含む。) 化学実験 (コンピュータ活用を含む。) 生物学実験 (コンピュータ活用を含む。) 地学実験 (コンピュータ活用を含む。)	※ 理工学基礎実験2A		2		資源
	化学実験		1		
	生物学実験		1	1科目 選択必修	
	○ 土質実験		1		
	○ 構造実験		1		
	○ 水理・水質実験		1		
	○ コンクリート実験		1		

○自学科のカリキュラムにおける必修科目

※他学科聴講が必要な科目

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 学科目系列
5. A 群科目
6. B 群科目
7. C 群科目
8. 学科別案内 (C 群科目)
建築
総機
経営
社工
資源
9. D 群科目
10. 他学部聴講
11. 教職免許
12. 科目登録
13. 授業時間帯
14. 試 験
15. レポート・ 論文作成
16. 成績の表示
17. 転部・ 転科試験
18. 復学者の 履修方法
19. 科目等履修生

環境資源工学科：理科（中学１種）

教育職員免許法施行 規則に定める科目	科 目 名	単 位 数		履修方法 中学	設置学科
		必修	選択		
物理学	岩盤力学 地圏物理探査工学 化学統計力学	2	2 2		
化 学	○ 化学熱力学 ○ 応用物理化学及び演習 A 環境地球化学 環境機器分析	2 1	2 2		
生物学	○ 生命科学概論 A	2			
地 学	○ 地球科学 A ○ 地球科学 B ○ 地球物質科学 環境地質学 資源地球科学 素材物質科学	2 2 2	2 2 2		
物理学実験 (コンピュータ活用を含む。)	○ 理工学基礎実験 2 A	2			
化学実験 (コンピュータ活用を含む。)	化学実験 ○ 無機分析化学実験	1 2			
生物学実験 (コンピュータ活用を含む。)	生物学実験	1			
地学実験 (コンピュータ活用を含む。)	○ 地球科学実験 A ○ 地球科学実験 B ○ 環境資源工学実験 A ○ 環境資源工学実験 B	1 1 1 1			

○自学科のカリキュラムにおける必修科目

※他学科聴講が必要な科目

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 録

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 学 費

4. 学科目系列

5. A 群科目

6. B 群科目

7. C 群科目

8. 学科別案内
(C 群科目)

建築

総機

経営

社工

資源

9. D 群科目

10. 他学部聴講

11. 教職免許

12. 科目登録

13. 授業時間帯

14. 試 験

15. レポート・
論文作成

16. 成績の表示

17. 転部・
転科試験

18. 復学者の
履修方法

19. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

環境資源工学科：理科（高校１種）

教育職員免許法施行 規則に定める科目	科 目 名	単 位 数		履修方法 高校	設置学科
		必修	選択		
物理学	岩盤力学 地圏物理探査工学 化学統計力学	2	2 2		
化 学	○ 化学熱力学 ○ 応用物理化学及び演習 A 環境地球化学 環境機器分析	2 1	2 2		
生物学	○ 生命科学概論 A	2			
地 学	○ 地球科学 A ○ 地球科学 B ○ 地球物質科学 環境地質学 資源地球科学 素材物質科学	2 2 2	2 2 2		
物理学実験 (コンピュータ活用を含む。)	○ 理工学基礎実験 2 A		2	1 科目 選択必修	
化学実験	化学実験		1		
生物学実験 (コンピュータ活用を含む。)	○ 無機分析化学実験 生物学実験		2 1		
地学実験 (コンピュータ活用を含む。)	○ 地球科学実験 A ○ 地球科学実験 B ○ 環境資源工学実験 A ○ 環境資源工学実験 B		1 1 1 1		

○自学科のカリキュラムにおける必修科目

※他学科聴講が必要な科目

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 学科目系列
5. A 群科目
6. B 群科目
7. C 群科目
8. 学科別案内 (C 群科目)
建築
総機
経営
社工
資源
9. D 群科目
10. 他学部聴講
11. 教職免許
12. 科目登録
13. 授業時間帯
14. 試 験
15. レポート・ 論文作成
16. 成績の表示
17. 転部・ 転科試験
18. 復学者の 履修方法
19. 科目等履修生

12 履修科目の登録

(1) 選択・申請・確認

学生は、指定された科目登録手続期間内に、当該年度に履修しようとする学科目を登録（申請および確認）しなければならない。

学科目の選択にあたっては、本学部要項と Webシラバス、『科目登録の手引き』等を熟読して、各自の学習目標を定め、時間の余裕等も考慮しながら、必要に応じクラス担任と相談し指導を受け、適切な選択を行う必要がある。登録方法については、年度始めに理工学術院 Web サイトに公開される『科目登録の手引き』を熟読し、登録間違い・登録漏れのないよう注意すること。

なお、他学部、他学科の学科目を聴講したい場合には、「Ⅲ - 10 他学科・他学部・他学術院・他コース等設置科目の聴講」のページを参照すること。

理工学術院 Web サイト <https://www.waseda.jp/fsci/students/registration/>

Web シラバス <https://www.wsl.waseda.jp/syllabus/JAA101.php>

(2) 無登録科目の受講禁止

登録した学科目以外の受講は認めない。無登録科目を聴講・受験しても単位は与えられない。

(3) 登録後の変更禁止

登録した学科目の変更・取消は、決められた期間以外は認めない。登録にあたっては慎重を期し、本人が行うこと。また、必ず登録の結果を確認すること。

13 授業時間帯

早稲田大学の授業時間帯は下表のとおりである。

時 限	1	2	3	4	5	6	7
時 間	9 : 00 ∟ 10 : 30	10 : 40 ∟ 12 : 10	13 : 00 ∟ 14 : 30	14 : 45 ∟ 16 : 15	16 : 30 ∟ 18 : 00	18 : 15 ∟ 19 : 45	19 : 55 ∟ 21 : 25

14 試験

試験には、定期試験期間に行われる試験のほか、レポート試験、授業時間中におこなわれる理解度の確認（教場試験）等がある。

定期試験

春学期試験および学年末（秋学期）試験として試験時間割を組んで実施する試験である。

- ① 試験時間割、および時間割発表後の試験に関する連絡は、理工学術院 Web サイト上にて行うので、見落としのないようにすること。
- ② 同一科目でも学籍番号、クラス、学科等によって試験の日時が違ったり、試験場を分ける場合がある。
- ③ 同一時間に受験科目が重複している者は、理工学術院統合事務所に申し出て指示を受けること。
- ④ 学生証は、表面の署名欄に自筆署名をしたものを携帯し、受験中は机の端に提示しておくこと。
学生証を携帯していない場合には、試験を受験できないことがある。

なお、学生証を紛失した者は、再交付を受けておくこと。

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 録

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 学 費

4. 学科目系列

5. A 群科目

6. B 群科目

7. C 群科目

8. 学科別案内
(C 群科目)

建築

総機

経営

社工

資源

9. D 群科目

10. 他学部聴講

11. 教職免許

12. 科目登録

13. 授業時間帯

14. 試 験

15. レポート・
論文作成

16. 成績の表示

17. 転部・
転科試験

18. 復学者の
履修方法

19. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

- ⑤ 試験場においては、監督員の指示に従うこと。
- なお、着席位置確認のため「座席表」を使用する場合がある。指示があった場合には、座席表の着席位置に学籍番号・氏名を記入し、次の学生に回すこと。
- ⑥ 答案用紙には、氏名・学籍番号を明記すること。
- ⑦ 身内の不幸や病気・事故などによる入院、医師からの外出禁止措置等がとられた場合など、やむを得ない事情により試験を欠席した場合には、試験の代替措置等が考慮される場合がある。至急、公的機関の証明書または医師の診断書等を理工学術院統合事務所に提出して確認すること。

不正行為

不正行為を行った場合には、本学学則および本学部内規に基づき、原則として停学、および停学に付随する措置として、履修している全科目を無効とする。

また、答案用紙はたとえ解答ができなくても持ち帰らず、必ず提出すること。答案を持ち帰る行為も不正行為と同等の扱いになるので、十分注意すること。

15 レポート・論文作成にあたっての注意事項

出典を明示せずに書物、Web サイトなどから他人の文章や資料の全部または一部をレポート・論文等に記載した場合、「盗用」・「剽窃」にあたり不正行為に該当し、厳しい処分の対象になる。

自分の考えを述べる上で他人の文章や資料を「引用」・「参照」する際は、引用箇所を「 」等で明示し、出典（著者名、タイトル、該当ページ、出版社、出版年、Web サイトの場合はアドレスとアクセスした日付）を正確に記載することが一般的なルールである。ただし、引用の分量が多くなる場合は、「引用」・「転載」の許可を著者に求める必要があるので、必要最小限にとどめること。

16 成績の表示

成績は、各学期ごとに定められた発表日に MyWaseda 上で発表される。成績発表日については理工学術院 Web サイトを確認すること。

成績表記は A⁺・A・B・C・F をもって表示し、A⁺～C を合格、F を不合格とする。なお、成績発表の際にはこのほかに H・S・* という記号を使用する。

- H……成績保留を意味する。担当教員から課題提出の指示などがある場合があるので、教員の指示を確認すること。なお、教員からの指示に従わずに成績保留期間を越えた場合には自動的に F となる。
- S……不合格と評価された専門必修科目であるが、次年度の科目登録の際にほかの学科目との曜日・時限重複を許可する。当該科目は、担当教員から指示された試験またはレポート課題等により評価する。
- * ……登録している科目で、担当教員からの成績がまだ出ていない科目を示す。

評 価	A ⁺	A	B	C	F	H	S
点 数	100～90	89～80	79～70	69～60	59～		
成績証明書	A ⁺	A	B	C	表 示 な し		
判 定	合 格				不 合 格		

【GPA について】

①計算式

科目の成績評価に対して Grade Point と呼ばれる換算値（A⁺は4点、Aは3点、Bは2点、Cは1点、不合格は0点）が決められている。それぞれの「科目の単位数」と「成績評価の Grade Point」の積の総和を「総登録単位数」で割って、スコア化したものが GPA（Grade Point Average）である。総登録単

1.単位制
2.学位・卒業
3.学 費
4.学科目系列
5.A群科目
6.B群科目
7.C群科目
8.学科別案内 (C群科目)
建築
総機
経営
社工
資源
9.D群科目
10.他学部聴講
11.教職免許
12.科目登録
13.授業時間帯
14.試 験
15.レポート・ 論文作成
16.成績の表示
17.転部・ 転科試験
18.復学者の 履修方法
19.科目等履修生

位数には、不合格科目の単位も含まれる。これを式で表すと、次のようになる。

$$\frac{(A^+ \text{修得単位数} \times 4) + (A \text{修得単位数} \times 3) + (B \text{修得単位数} \times 2) + (C \text{修得単位数} \times 1) + (\text{不合格科目単位数} \times 0)}{\text{総登録単位数(不合格科目を含む)}}$$

※ GPA は小数第 2 位まで表示される。(小数第 3 位は、四捨五入とする)

②対象科目

卒業算入単位として登録した科目が対象となる。(教職等の資格関連科目や自由科目等の卒業非算入科目は対象外)

ただし、以下の成績評価の場合は GPA の計算対象から除外される。

- ・「H」(成績保留) ※成績確定後に対象となる。
- ・「P」(合格) および「Q」(不合格)
- ・「N」(単位認定)

③ GPA の通知・証明

GPA 対象科目の成績および GPA が記載された「GPA 証明書」を発行する。

なお、「成績証明書」には GPA は記載されない。成績通知書、MyWaseda の成績照会には記載される。

17 理工学術院内 転部・転科試験

本学部における教育は、各学科の 4 年間一貫した教育体系に基づいて行われている。したがって、入学した学科での学修を前提としている。しかし、所属学科における勉学に著しい不適性を感じ、かつ転科志望の意志が強いなど特別の事情がある場合には、学科主任の承認のもとに理工学術院内 転部・転科試験に出願できる。

理工学術院内 転部・転科試験においては、所属学部内で転科のほか、理工学術院 3 学部(基幹理工学部、創造理工学部、先進理工学部)内での、転部を伴う転科をすることが可能である。しかし、年度によっては転科学生を受け入れない学科があり、受け入れる学科においても募集人員は若干名である。

理工学術院内 転部・転科試験には、学部 1 年生が 2 年次から学科を変更するための試験(転部・転科(2 年))および、学部 2 年生が 3 年次から学科を変更するための試験(転部・転科(3 年))がある。ともに在籍年数を下げた受験は認められない。詳細については、理工学術院内 転部・転科試験要項(11 月頃より理工学術院 Web サイトに掲載開始予定)で確認すること。

なお、理工学術院内 転部・転科試験を出願するにあたり、転科後の勉学に耐えられるように、受験の前提条件として修得単位数等に厳しい受験資格が求められるので、事前にクラス担任、学科主任との相談が必要である。

理工学術院内 転部・転科試験の受験資格は次の通りである。

【転部・転科(2 年)】

複合領域科目(A1 群科目)を 4 単位、1 年配当の外国語科目(A2 群科目)および B 群・C 群科目の各学科必修科目の全単位を修得していること。

【転部・転科(3 年)】

複合領域科目(A1 群科目)を 8 単位、1・2 年配当の外国語科目(A2 群科目)および B 群・C 群科目の各学科必修科目の全単位を修得していること。

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 録

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 学 費

4. 学科目系列

5. A 群科目

6. B 群科目

7. C 群科目

8. 学科別案内
(C 群科目)

建築

総機

経営

社工

資源

9. D 群科目

10. 他学部聴講

11. 教職免許

12. 科目登録

13. 授業時間帯

14. 試 験

15. レポート・
論文作成

16. 成績の表示

17. 転部・
転科試験

18. 復学者の
履修方法

19. 科目等履修生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

18 復学者の履修方法

休学者が復学した場合の履修方法は次のとおりである。

- ① 卒業に必要な所定単位およびその内訳は、入学した年度の規定による。
- ② 復学者の学科目履修上の学年は、原則として入学した年度より起算した学年から休学年数を除いた学年とする。
- ③ 入学時と復学時の規定に相違がある場合に、復学後履修する学科目の指定は所属する学科の主任がこれを行う。

19 科目等履修生（一般科目等履修生・教職課程履修生）

科目等履修生の入学は、年度の始めに限って選考のうえ、許可される。在籍期間は1年間に限り、引き続き聴講を希望する場合は、改めて願出が必要がある。

(1) 一般科目等履修生

履修を許可された科目を半期15単位（年間30単位）まで履修できる。科目について合格と判定された場合、所定の単位を授与し、本人の申請により証明書を発行する。

(2) 教職課程履修生

本学部卒業生または本学大学院理工系研究科に在籍する学生で、教職に関する科目（教育学部設置科目）および教科に関する科目の履修を希望する場合、履修を許可された科目を半期15単位まで（年間30単位、教育学部設置の「教職に関する科目」の年間履修単位は合計20単位まで）履修できる。在籍可能な期間は通算で3年を限度とする。

(3) 学科目の履修について

①履修可能科目

原則として講義の専門教育科目とする。

※正規学生の履修に妨げがないと認められる場合に限る。

※教員免許取得のための教職関係科目については、講義の専門教育科目以外の聴講を認める場合がある。

②実験・実習科目

施設の許す範囲でこれを許可する。履修の可否については、提出された出願書類に基づいて審査し、その結果を志願者に通知する。

※本学において既に単位を修得済の科目については、履修不可。

科目等履修生の詳細については、科目等履修生募集要項（理工学術院 Web サイトで2月頃公開）で確認すること。

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 学 費
4. 学科目系列
5. A 群科目
6. B 群科目
7. C 群科目
8. 学科別案内 (C 群科目)
建築
総機
経営
社工
資源
9. D 群科目
10. 他学部聴講
11. 教職免許
12. 科目登録
13. 授業時間帯
14. 試 験
15. レポート・論文作成
16. 成績の表示
17. 転部・転科試験
18. 復学者の履修方法
19. 科目等履修生

IV

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 録

学生生活

1	Support Anywhere	1. Support Anywhere
2	理工学術院および創造理工学部 Web サイト	2. Web サイト
3	学籍番号	3. 学籍番号
4	クラス担任制度	4. クラス担任
5	学生相談	5. 学生相談
6	大学院への進学	6. 大学院進学
7	就職	7. 就 職
8	学生証	8. 学生証
9	各種証明書類の交付	9. 証明書交付
10	各種異動・変更手続	10. 各種願提出
11	奨学金制度	11. 奨学金
12	掲示	12. 掲 示
13	学生の課外活動	13. 課外活動
14	安全管理	14. 安全管理
15	海外留学等	15. 海外留学
16	禁煙キャンパス	16. 禁煙 キャンパス
17	自転車、バイクおよび自動車の通学利用禁止	17. 自転車禁止
18	図書館（理工学生読書室・理工学図書館）	18. 図書館・ 読書室
19	コンピュータ・ルーム	19. コンピュータ・ ルーム
20	実験施設紹介	20. 実験施設
21	保健センター西早稲田分室	21. 保健センター
22	授業欠席の取り扱いについて	22. 授業欠席の取り 扱いについて
23	授業期間中の全学休講の取り扱いについて	23. 授業期間中の全学休 講の取り扱いについて
24	緊急時の通知方法	24. 緊急時の 通知方法

1 Support Anywhere

この学部要項とは別に、豊富な学内情報をまとめた Web サイト「Support Anywhere（サポエニ）」に施設利用や学生生活に関する情報が掲載されている。学部要項と共に活用してもらいたい。

<https://wnpspt.waseda.jp/student/supportanywhere/>

2 理工学術院および創造理工学部 Web サイト

本学術院および本学部では Web サイトを開設し、インターネットを通じた情報発信を行っている。各学科からの案内、各種申請手続や日程等の事務所からの情報、実験室等に関する情報を掲載している。

<https://www.waseda.jp/fsci/>

<https://www.cse.sci.waseda.ac.jp/>

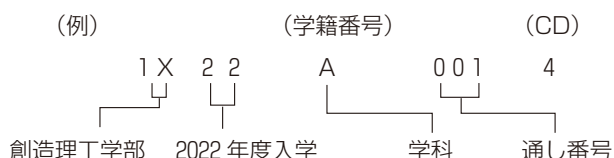
3 学籍番号

本学部では入学のとき、学生個々について学籍番号を定めている。

学籍番号は、8 桁から成っている。初め 2 桁は学部コード（創造理工学部は 1X）、次の 2 桁は入学年度（西暦年下 2 桁）、次の 1 桁（アルファベット）は学科コード（学科コード参照）、最後の 3 桁は学科内における学生の番号を示す。

学科コード

- A—建築学科
- B—総合機械工学科
- C—経営システム工学科
- D—社会環境工学科
- E—環境資源工学科



学籍番号とは別にコンピュータに入力する際にだけ使用するチェック・デジット(略称 CD)1 桁を付ける。これはコンピュータへの入力ミス防止のためのものである。

なお、再入学者等は学籍番号下 3 桁の番号を下表のとおり区分する。

種 別	通し番号
再 入 学	601 ～
転部・転科	701 ～
編 入 学	751 ～
学 士 入 学	801 ～
一般履修生	901 ～
委託履修生	951 ～

4 クラス担任制度

学生生活等について、諸君の相談相手となって、必要な指導助言を与えるために、クラス担任制度が設けられている。教員との人間的ふれあいや、勉学上・個人生活上のアドバイスを希望する者は、この制度を利用して、学生生活をより有意義なものとするのが望ましい。詳細については、理工学術院 Web サイトで確認すること。なお、面会を希望する場合は、直接研究室、教員に予約をとること。

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 録

1. Support Anywhere

2. Web サイト

3. 学籍番号

4. クラス担任

5. 学生相談

6. 大学院進学

7. 就 職

8. 学生証

9. 証明書交付

10. 各種願提出

11. 奨学金

12. 掲 示

13. 課外活動

14. 安全管理

15. 海外留学

16. 禁煙キャンパス

17. 自転車禁止

18. 図書館・読書室

19. コンピュータ・ルーム

20. 実験施設

21. 保健センター

22. 夜間入居の取り扱いについて

23. 昼間入居の取り扱いについて

24. 緊急時の通知方法

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

1. Support Anywhere
2. Web サイト
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 大学院進学
7. 就 職
8. 学生証
9. 証明書交付
10. 各種願提出
11. 奨学金
12. 掲 示
13. 課外活動
14. 安全管理
15. 海外留学
16. 禁煙 キャンパス
17. 自転車禁止
18. 図書館・ 読書室
19. コンピュータ・ ルーム
20. 実験施設
21. 保健センター
22. 授業欠席の取り 扱いについて
23. 授業時間外の学習課の 取扱いについて
24. 緊急時の 通知方法

5 学生相談

(1) 理工学術院統合事務所 (51 号館 1 階)

科目登録・授業・試験・成績・学籍（休学・留学・退学等）・教室貸与・奨学金等、修学上に関わるすべての事項について、その相談に応じています。また、遺失物や拾得物も管理しているので、これらに関する質問があれば随時相談すること。

URL:<https://www.waseda.jp/fsci/students/counter/>

(2) ハラスメントの防止

本学では、「早稲田大学におけるハラスメント防止に関するガイドライン」を制定し、相談を受け付け、その解決に取り組むだけでなく、パンフレットや Web サイト等での広報や、研修等を通して、啓発・防止活動を実地しています。

Q ハラスメントとは何ですか？

A ハラスメントとは、性別、社会的身分、人種、国籍、信条、年齢、職業、身体的特徴等の属性あるいは広く人格に関わる事項等に関する言動によって、相手方に不利益や不快感を与え、あるいはその尊厳を損なうことをいいます。大学におけるハラスメントとしては、性的な言動によるセクシュアル・ハラスメント、勉学・教育・研究に関連する言動によるアカデミック・ハラスメント、優越的地位や職務上の地位に基づく言動によるパワー・ハラスメントなどがあります。

Q ハラスメントはどうして問題なのですか？

A ハラスメントをされた側にとっては、安心して学習・研究・労働する環境が阻害され、悪影響が生じ、学習・研究・労働する権利の侵害、つまり、人権侵害になるからです。ごく気軽な気持ちでの行為や言動が相手にとっては耐えられない苦痛となっていることもあります。結果として、日常生活に支障をきたすことも少なくありません。

Q 学生が加害者になることもあるのか？

A はい、あります。例えばサークルのコンパで性的な言動を繰り返したり、飲酒を強要したり、交際をしつこく迫った結果、相手が不快感を持った場合には、セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメントになりえます。

Q 「ハラスメントかな」と思ったら？

A あなた自身が被害に遭った時、友人からの相談を受けた時は、気軽に相談窓口にご連絡してください。専門のスタッフが対応します。相談の流れなど、詳しい内容につきましては、下記 Web サイトも参照してください。

■コンプライアンス推進室（旧 ハラスメント防止室）

初回相談は、電話・メール・FAX・手紙どの方法でも OK。来室前なら匿名でも結構です。あなたのプライバシーと意向を最大限に尊重します。来室希望の場合は、Web サイトをご確認の上ご予約ください。

☐相談窓口 ※相談しやすい方にご相談ください。

(学内) コンプライアンス相談窓口 (コンプライアンス推進室)

【E-mail】 compliance@list.waseda.jp

【URL】 <https://www.waseda.jp/inst/harassment/>

【開室時間】 月～金 9:30～17:00

(学外) 相談窓口 (委託先 NEC VALWAY 株式会社)

【TEL】 0120-123-393

【相談時間】 月～金 8:30～19:00 土 8:30～17:00

(日祝日, 年末年始を除く) ※英語・中国語対応可能

【URL】 <https://koueki-tsuhou.com/WFcXVtaEFdCd/>

※詳しくは Web サイトをご覧ください。

(3) スチューデントダイバーシティセンター

スチューデントダイバーシティセンターでは、国籍、エスニシティ、性別（男女だけではなく多様な性）、性的指向・性自認、障がいの有無などにかかわらず、多様な学生の豊かな学生生活環境の確保と、多様な価値観や生き方を受容するキャンパスづくりの推進を目的に、下記3オフィスが連携し支援や啓発を行っている。気軽にご相談、お問合せいただきたい。

ICC (異文化交流センター)

場所：3号館1階 TEL：03-5286-3990 E-mail：icc@list.waseda.jp

ラウンジ開室時間：授業実施期間 月～金 10:00～18:00 土 10:00～17:00

授業休止期間 月～金 10:00～17:00 土 閉室

URL：<https://www.waseda.jp/inst/icc/>

障がい学生支援室

身体障がい学生支援部門

場所：3号館1階110 TEL：03-5286-3747 E-mail：shienshitsu@list.waseda.jp

発達障がい学生支援部門

場所：27-10号館5階502 TEL：03-3208-0587 E-mail：shien02@list.waseda.jp

開室時間：月～金 9:00～17:00

URL：<https://www.waseda.jp/inst/dsso/> (両部門共通)

GSセンター (ジェンダー・セクシュアリティセンター)

場所：10号館2階213 E-mail：gscenter@list.waseda.jp

開室時間：月～金 9:00～17:00

URL：<https://www.waseda.jp/inst/gscenter/>

I 特徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付録

1. Support Anywhere

2. Web サイト

3. 学籍番号

4. クラス担任

5. 学生相談

6. 大学院進学

7. 就職

8. 学生証

9. 証明書交付

10. 各種願提出

11. 奨学金

12. 掲示

13. 課外活動

14. 安全管理

15. 海外留学

16. 禁煙キャンパス

17. 自転車禁止

18. 図書館・読書室

19. コンピュータ・ルーム

20. 実験施設

21. 保健センター

22. 授業欠席の取り扱いについて

23. 授業時間中の学習機の使用について

24. 緊急時の通知方法

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

6 大学院への進学

大学院は博士課程5年を、前期2年と後期3年に区分し、前期2年の課程を修士課程、後期3年の課程を博士後期課程として取り扱う。

修士課程を修了するには、大学院に2年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および最終試験に合格しなければならない。修了すると修士（工学）、修士（理学）、修士（建築学）、修士（経営工学）のいずれかの学位が授与される。ただし、優れた研究業績を上げた者については、研究科運営委員会が認めた場合に限り、この課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

修士課程への進学には、推薦入学と入学試験の2つの方法がある。入学試験の詳細については、理工学術院統合事務所に問い合わせること。

(1) 推薦入学

本学部卒業生および卒業見込者で成績の優秀な者を対象に、推薦入学の制度がある。

(2) 入学試験

① 一般入学試験

卒業生および卒業見込者を対象に、専門科目の筆記試験（一部、口述試験）と面接により実施する。

② 飛び級入学試験（大学に3年以上在学する者に係わる特別選抜制度）

「大学に3年以上在学し、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者」を対象に特別選抜試験を実施する。

博士後期課程を修了するには、博士後期課程に3年以上在学し、各専攻の定める所定の単位を修得し、かつ、所要の研究指導を受けた上、博士論文の審査および最終試験に合格しなければならない。ただし優れた研究業績を上げた者については、研究科運営委員会が認めた場合に限り、この課程に1年以上在学すれば足りるものとする。修了すると博士（工学）、博士（理学）、博士（建築学）、または博士（経営工学）のいずれかの学位が授与される。

博士後期課程への進学には、推薦入試と入学試験の2つの方法がある。入学試験の詳細については、理工学術院統合事務所に問い合わせること。

7 就職

(1) 就職活動

理工系学生の企業への応募方法には、「自由応募」と「推薦応募」の2種類がある。「自由応募」とは、各企業等からの求人情報をもとに、自分の希望する企業に直接応募する制度であり、現在の文系の就職活動はこの方法によって行われている。また、「推薦応募」とは理工系独自の応募形態であり、就職希望者の推薦を依頼してくる企業に対して、大学（学部・研究科・学科・専攻等）が推薦を行う制度である。企業が学科・専攻に推薦枠を指定してくる場合があるので、大学（学部・研究科・学科・専攻等）は学生の希望を確認し、希望者が多い場合には選考等を行った上で、被推薦者を決定することになる。詳細は各学科・専攻の就職担当教員に確認すること。

(2) 就職担当教員の指導等

各学科・専攻では、卒業予定者を対象に進路指導を行う就職担当教員を配置し、就職活動や進学について、適宜、必要な指導・アドバイスを行なっている。学生は就職内定状況等、現在の活動状況をその都度担当教員に報告すること。

1. Support Anywhere
2. Web サイト
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 大学院進学
7. 就 職
8. 学生証
9. 証明書交付
10. 各種願提出
11. 奨学金
12. 掲 示
13. 課外活動
14. 安全管理
15. 海外留学
16. 禁煙 キャンパス
17. 自転車禁止
18. 図書館・読書室
19. コンピュータ・ルーム
20. 実験施設
21. 保健センター
22. 授業欠席の取り扱いについて
23. 履修期間中の学習の取扱いについて
24. 緊急時の通知方法

(3) 就職推薦状について

学部長・研究科長名での推薦状の発行は6月1日からとなる。推薦状が必要な学生は所属の学科・専攻連絡事務室にて定められた期間に所定の手続きを行うこと。発行にあたっては、6月1日に卒業・修了見込みがたっていることが前提となる。学科・専攻長名あるいは就職担当教員名で発行される「推薦状」あるいは「紹介状」については、学科・専攻の連絡事務所、就職担当教員に確認すること。

(4) 就職資料室等の利用

諸資料は、61号館1階の「就職資料室」に配架している。また、一部連絡事務室に掲示される場合がある。就職資料室では、求人情報、Uターン・Iターン情報、各企業や官公庁の資料のほか、業界・企業研究のための参考図書、情報誌、先輩の就職活動体験記等の諸資料を、自由に閲覧出来るように配架している。

(5) キャリアセンターの利用

キャリアセンターでは、自分自身のキャリア形成の考え方、学生時代の過ごし方（心構え、早稲田大学にあるリソース・チャンスをどう生かすか等）、といったアドバイスから実際の就職活動のサポートまで、幅広い支援を行っている。

〈主な活動〉

- ・ MyWaseda によるキャリア就職支援講座の配信（就活スタート講座・インターンシップガイダンスなど多数）
 - ・ その他キャリア形成支援イベント（公務員学習スタート講座、卒業生等現役社会人との交流イベント他）
 - ・ 就職支援イベント（業界・企業研究フェア、自己分析講座他）
 - ・ 企業・求人・卒業生名簿情報の提供（MyWaseda内キャリアコンパス内「企業・求人情報照会」より）
- ※キャリアセンターが提供する求人情報は「自由応募」のものです。

- ・ インターンシップの紹介および関連セミナー
- ・ キャリア・就活個別相談（進路に関することならどんなことでも）

※詳細はキャリアセンター Web サイトを確認すること。

【場所】 戸山キャンパス 30号館 学生会館3階

【時間】 平日 10:00～16:00

（変更される場合があるので、キャリアセンター Web サイトを確認すること。）

【TEL】 03-3203-4332（開室日の9:00～17:00）

【E-mail】 career@list.waseda.jp

【URL】 <https://www.waseda.jp/inst/career/>

(6) 内定・進路の報告

卒業・修了時には必ず内定（教員・公務員を含む）・進路（進学・留学・自営・未定などを含む）を報告すること。就職以外の場合も必須。

MyWaseda → 「キャリアコンパス」 → 「内定・進路の報告」より

I 特徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 録

1. Support Anywhere

2. Web サイト

3. 学籍番号

4. クラス担任

5. 学生相談

6. 大学院進学

7. 就 職

8. 学生証

9. 証明書交付

10. 各種願提出

11. 奨学金

12. 掲 示

13. 課外活動

14. 安全管理

15. 海外留学

16. 禁煙キャンパス

17. 自転車禁止

18. 図書館・読書室

19. コンピュータ・ルーム

20. 実験施設

21. 保健センター

22. 夜間入居の取り扱いについて

23. 授業時間中の学生機動の取り扱いについて

24. 緊急時の通知方法

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

8 学生証

学生証は、身分を証明するだけでなく、修学上の様々な場面で必要となるので、常に携帯し、破損・紛失のないよう注意すること。学生証は、他人に貸与または譲渡してはならない。

なお、学生証とは、「学生証カード」と有効年度を表示した「裏面シール」からなり、「学生証カード」の裏面に、「裏面シール」を貼り合わせて初めて効力が生じる。また有効期間は「裏面シール」に示された有効年度の4月1日から翌年3月31日までの1年間である。また、表面の所定の欄に氏名を記入すること。

(1) 交 付

新入生の学生証は、受験票と引き換えに交付する。

2年生以上は、学年末に裏面シールを交付するので、これを前年度のシールと貼り替えることで、学生証を更新したこととなる。

なお、学生証カードは在学期間中使用するが、写真変更希望者は、在学中1回に限り無料で交換できる。この場合は、理工学術院統合事務所に申し出ること。

(2) 紛 失

学生証を紛失した場合、悪用される恐れがあるので、ただちに警察に届け、理工学術院統合事務所で再交付の手続をすること。

(3) 再交付

紛失等のため再交付を受ける場合は、カラー写真（縦4cm×横3cm）を添付した所定の「再交付願」を理工学術院統合事務所へ提出すること。なお、紛失等による再交付の手数料として2,000円が必要となる。

(4) 提 示

試験等の受験、図書館や学生読書室の利用、各種証明書・学割の交付、種々の配付物を受けるとき、その他本学教職員の請求があったときは、学生証を提示しなければならない。

(5) 失 効

卒業または退学などにより学生の身分がなくなると同時に、その効力を失うので、ただちに理工学術院統合事務所へ返却すること。卒業の場合は、引き換えに学位記が授与される。

9 各種証明書類の交付

本学で発行する証明書は以下の表のとおりである。発行は原則として即日発行であるが、システムメンテナンスや証明書の種類等により数日かかる場合もあるので、十分な余裕をもって申し込むこと。

(1) 手数料

証明書の発行には手数料が必要になる。

在学中に関わる証明書 1通 200円（卒業生がその卒業日の属する月末までに申請した証明書を含む）

卒業生、退学者等に関わる証明書 1通 300円

(2) 発行方法

① 自動証明書発行機を利用の場合

学生証・暗証番号が必要となる。暗証番号はMyWasedaのパスワードを使用すること。

② 窓口で申し込む場合

所定の「証明書発行申込書」に必要事項を記入し、手数料収納証を貼付の上、学生証を添えて申し込むこと。

1. Support Anywhere
2. Web サイト
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 大学院進学
7. 就 職
8. 学生証
9. 証明書交付
10. 各種願提出
11. 奨学金
12. 掲 示
13. 課外活動
14. 安全管理
15. 海外留学
16. 禁煙 キャンパス
17. 自転車禁止
18. 図書館・読書室
19. コンピュータ・ルーム
20. 実験施設
21. 保健センター
22. 授業欠席の取り扱いについて
23. 履修期間中の学習課題の取扱いについて
24. 緊急時の通知方法

証明書種別一覧表（★は自動証明書発行機にて発行可）

種 別	
★在 学 証 明 書	教員免許状単位取得証明書
★成 績 証 明 書	退 学 証 明 書
★卒業（修了）見込証明書	★英 文 在 学 証 明 書
卒 業（修 了）証 明 書	★英 文 成 績 証 明 書
★成績・卒業（修了）見込証明書	★英文卒業（修了）見込証明書
成 績 ・ 卒 業 証 明 書	英文卒業（修了）証明書
教員免許状取得見込証明書	★英文成績・卒業（修了）見込証明書
★G P A 証 明 書	英文成績・卒業（修了）証明書
そ の 他 証 明 書	★英 文 G P A 証 明 書

(3) 学割

自動証明書発行機で無料で発行可能。

10 各種異動・変更手続

在学中、本人または保護者等に何らかの異動や事故等があった場合は、必ずその事項について所定の手続を行わなければならない。各種願・届は理工学術院 Web サイトで入手できる。

(1) 休学

① 休学の条件

病気やその他の正当な理由により、引き続き2か月以上授業（試験を含む）に出席できない者は、学部所定の申請手続を行い、学部長の許可を得たのち、休学できる。休学にあたっては、クラス担任または指導教員との面談を行い、必要書類を揃えたうえで、各学期の提出期日までに手続を済ませること。なお、他大学受験などの復学を前提としない休学は認められない。

休学種別	休学願の提出期日	休学終了日	復 学 日	休学年数
春学期休学	5月31日まで	9月20日	9月21日	0.5年
秋学期休学	11月30日まで	翌年3月31日	翌年4月1日	0.5年

② 休学期間

休学は春学期休学あるいは秋学期休学の2種類とし、当該学期限りとする。ただし、特別の事情がある場合には、引き続き休学を許可することがある。休学期間は在学年数に算入しない。春学期・秋学期継続休学または秋学期から次年度春学期継続休学を希望する者は復学手続時に休学継続を願い出ること。なお、在籍中に休学できる期間は、通算して4年を超えられない。

③ 休学期間の学費

休学願の提出日により、休学中の学費は下表のとおりとなる。

春学期休学願		学費
4月30日まで	休学中在籍料	50,000円
	学生健康増進互助会費	1,500円
5月1日から 5月31日まで	当該学期の全額	
秋学期休学願		学費
10月31日まで	休学中在籍料	50,000円
	学生健康増進互助会費	1,500円
	校友会費 (4年次秋学期の休学時のみ)	40,000円
11月1日から 11月30日まで	当該学期の全額	

※入学と同時に最初の学期を休学する場合は、学費の減額はない。

※「兵役」を理由に休学する場合は、事前に理工学術院統合事務所に相談すること。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

1. Support Anywhere
2. Web サイト
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 大学院進学
7. 就 職
8. 学生証
9. 証明書交付
10. 各種願提出
11. 奨学金
12. 掲 示
13. 課外活動
14. 安全管理
15. 海外留学
16. 禁煙 キャンパス
17. 自転車禁止
18. 図書館・ 読書室
19. コンピュータ ルーム
20. 実験施設
21. 保健センター
22. 夜間授業の取 扱いについて
23. 休学期間の学費の 取扱いについて
24. 緊急時の 通知方法

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

1. Support Anywhere
2. Web サイト
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 大学院進学
7. 就 職
8. 学生証
9. 証明書交付
10. 各種願提出
11. 奨学金
12. 掲 示
13. 課外活動
14. 安全管理
15. 海外留学
16. 禁煙キャンパス
17. 自転車禁止
18. 図書館・読書室
19. コンピュータ・ルーム
20. 実験施設
21. 保健センター
22. 授業欠席の取り扱いについて
23. 授業時間外の学習の取扱いについて
24. 緊急時の通知方法

(2) 留学

- ① 外国の大学等高等教育機関に1学期相当期間以上在学し、学習または研究活動等を行う場合、学部所定の申請手続きに基づき、学部長の許可を得て、「留学」できる。「留学」となるかどうか不明な場合には、事前に理工学術院統合事務所に確認すること。
- ② 在籍中に留学できる期間は1年間相当とする。特別な事情がある場合は、さらにこれを延長できる。
- ③ 本学で主催する一部の留学プログラムを除いては、留学期間は在学年数に算入しない。ただし、留学先の大学において修得した単位数、その修得に要した期間、その他を勘案して、本学における教育課程の一部を履修したと認められた場合は、留学期間のうち1年または1学期を在学年数に算入できる。詳細は理工学術院統合事務所に問い合わせること。
- ④ 留学期間中の学費については、理工学術院統合事務所に問い合わせること。ただし、留学センターが主催する留学の場合は、留学センターにて確認すること。「15. 海外留学等」も確認すること。

(3) 復学

- ① 復学対象者（休学・留学期間終了者）に対し、復学の手続が必要とされる時期に、理工学術院統合事務所からその手続に関する書類を送付するので、これに従って手続を行うこと。
- ② 復学は学期始めに限られる。

(4) 退学

- ① 退学を希望する場合は、学生証を添えて、理工学術院統合事務所へ申し出ること。
- ② 学期の途中で退学をする場合でも、その期の学費を納めなければならない。
ただし、手続を4月14日までに完了した場合には春学期分学費が、9月末日までに完了した場合には秋学期分学費が、それぞれ発生しない。
詳細については、理工学術院統合事務所に問い合わせること。

(5) 再入学

正当な理由で退学した者が、再入学を願い出た場合、退学した学年の翌年度から起算して、7年度までの間に限り許可されることがある。詳細については、理工学術院統合事務所に問い合わせること。

(6) 保護者等・学費負担者変更届

- ① 本人の住所・電話番号等が変更された場合は、直ちに MyWaseda の「個人情報照会・変更」画面から変更届けを行うこと。また、本人の住所が変更された場合は、Waseda メールアドレス宛に承認メールが届いた後、理工学術院統合事務所に新しい学生証の裏面シールを受け取ること。
- ② 保護者等または学費負担者の住所・電話番号が変更された場合は、直ちに理工学術院統合事務所で所定の手続を行うこと。
- ③ 在学中に改姓（名）をした場合は、戸籍抄本等を添付のうえ、直ちに理工学術院統合事務所で所定の手続を行うこと。
- ④ 死亡その他の理由で保護者等を変更する場合は、直ちに新しい保護者等を届け出ること。

11 奨学金制度

本学には、多くの奨学金制度が準備されている。奨学金には返還の必要のない「給付」奨学金と返還の必要がある「貸与」奨学金がある。

奨学金に出願する場合は、毎年、西早稲田キャンパス 53 号館 1 階にて配布する「奨学金情報 Challenge」を入手し、そこに記載されている所定の手続（奨学金登録）をする必要があるため十分に注意すること（一部の奨学金を除く）。なお、登録の出願資格は日本国籍を有する者、または永住者・定住者・日本人（永住者）

の配偶者、子である。

その他の奨学金の募集等があった場合は、随時、正門掲示板、および理工学術院 Web サイトに掲示する。各学科における独自の奨学金に関しては、学科からの情報に注意すること。

なお、家計支持者の死亡・失職または災害等により、家庭の経済状況が急変した場合は、未登録であっても奨学課に申し出ると、早稲田大学緊急奨学金・日本学生支援機構奨学金の緊急・応急採用等が適用される場合がある。

在留資格が、永住者・定住者・日本人（永住者）の配偶者、子以外の場合、外国人留学生向けの奨学金の対象となる。外国人留学生対象の奨学金の一覧は、「早稲田大学留学生ハンドブック」に記載されている。奨学金希望者は、理工学術院 Web サイトにて周知される奨学金に、募集のある都度申し込むこと。

12 掲示

(1) 立看板について

原則として西早稲田キャンパス内でのサークル等学生団体の立看板は認めない。ただし、正当な理由であると判断された場合は設置を許可する場合もある。理工学術院統合事務所総務課に問い合わせること。

許可された場合は、①通行の妨げになるような場所への設置はしないこと、②倒れないように針金等で固定をすること、③保護のため樹木への固定は行わないこと、とする。

また貸出しは掲示板のみ行っている。掲示物の印刷・貼り付け等は借主が各自で行うこと。

(2) 掲示物・ビラについて

掲示板については、次項の表を参照すること。掲示板を使用する際は、次のルールに従うこと。ルールに反する場合には撤去する。

- ① 理工学術院統合事務所に申し出て承認を受けること。
- ② 掲示の期限を明示すること。
- ③ 期限を過ぎたものは自ら撤去すること。
- ④ ビラの配布は原則禁止とする。

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 録

1. Support Anywhere

2. Web サイト

3. 学籍番号

4. クラス担任

5. 学生相談

6. 大学院進学

7. 就 職

8. 学生証

9. 証明書交付

10. 各種願提出

11. 奨学金

12. 掲 示

13. 課外活動

14. 安全管理

15. 海外留学

16. 禁煙
キャンパス

17. 自転車禁止

18. 図書館・
読書室

19. コンピュータ・
ルーム

20. 実験施設

21. 保健センター

22. 夜間入居の取り
扱いについて

23. 昼間開校の学生課の
取り扱いについて

24. 緊急時の
通知方法

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

掲示板一覧

1. Support Anywhere
2. Web サイト
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 大学院進学
7. 就 職
8. 学生証
9. 証明書交付
10. 各種願提出
11. 奨学金
12. 掲 示
13. 課外活動
14. 安全管理
15. 海外留学
16. 禁煙 キャンパス
17. 自転車禁止
18. 図書館・読書室
19. コンピュータ・ルーム
20. 実験施設
21. 保健センター
22. 授業欠席の取り扱いについて
23. 授業時間外の学習の取扱いについて
24. 緊急時の通知方法

場所	掲示板名称	掲示内容
正門掲示板	総合案内掲示板	各掲示板の掲示内容案内 講演会案内 催物案内 学生の会イベント インターンシップ情報 イベント情報
	入試掲示板	入試情報
	学生支援掲示板	学部奨学金・大学院奨学金 就職情報・キャリアセンターからのお知らせ 資格
	授業関連掲示板	他箇所関係（グローバルエデュケーションセンター，教職他） 科目登録情報 休講情報 レポート 試験情報
51・60・61 号館北側 外通路	学科・専攻ごとの掲示板	学科・専攻ごとのお知らせ
56 号館 1 階	実験掲示板	応用物理学実験等の情報
57 号館 2 階 ラウンジ	案内掲示板	催物案内 イベント情報
51号館学生ラウンジ	学生の会限定掲示板	学生の会 告知スペース
西門掲示場	西門掲示板	各掲示板の掲示内容案内 講演会案内
50 号館 3 階	50 号館事務所掲示板	TWIns 関連情報，50 号館セミナールーム時間割表，講演会案内

13 学生の課外活動

学生生活は本来勉学を中心として展開されるべきである。しかし専門の知識を得ることのみに終始することは決して望ましいことではない。科学技術の根幹を理解するには多くの知識を必要とするが、それだけに、視野が狭くなりがちである。孤立した個人的な生活、少数の仲間とだけの閉鎖的な生活からは、広い教養と豊かな人間性を持った人物は生まれにくいものである。

本学術院には教員、卒業生、在学生で構成されている多くの学会がある。この学会には学生会があって、課外活動に対して種々の便宜が与えられている。本学術院の特殊性を生かした学生会と連絡を密にし、課外活動によって学生生活の充実をはかることが望まれる。

学生の課外活動は、大学という集団の中で最大限の自由が保障されなければならないことはいうまでもないが、それだけに、諸君は責任を持ち、規律を守らなければならない。課外活動はそれを通じて自己の人間形成をはかり、将来社会で活動する準備をすることが目的であるから、ある特定の目的をもつ外部の団体に左右され、プロ化して行動をすることは慎むべきだろう。

学生生活で諸君は種々の困難につきあたるにちがいない。その時は学友、クラス担任との話し合い、あるいは保健センターの利用等を通してそれらを乗り越え、悔いのない学生生活を送るよう努力してほしい。

本学には多くの学生の会およびサークルがあり（早稲田大学学生部 Web サイト参照）、本学部の学生もこれに参加し、活躍している。

14 安全管理

西早稲田キャンパスには、学生・教職員 10,000 人以上が集い、教育研究活動を行っている。理工系の特徴でもあるが、主に研究活動に専念する学部 4 年生、大学院生は 4,000 名を超え、多種多様な研究活動が展開されている。教育研究活動中の事故を未然に防ぐため、その他安全に関する諸課題を検討し改善を図るべく、教職員からなる「西早稲田キャンパス安全衛生委員会」が設置され、そのもとに様々な安全管理体制が組織され、安全衛生一斉点検をはじめキャンパス内の安全管理が行われている。

このような中、学生諸君には、以下の点を遵守してもらいたい。

- ・各実験科目においては、実験ガイダンスを通して、安全に関する注意があるので、それらを必ず守り、常に安全を意識して実験に取り組むこと。
- ・卒論実験における安全については、研究分野ごとに特殊な内容があるので、指導教員等の指示に従い、作業の安全を確認して実験すること。
- ・各実験室等が開催する安全講習会等に積極的に参加し、学内ルール等を遵守すること。

また、新入生や研究室配属前の学部 3 年生を対象とした「安全 e-learning プログラム」(MyWaseda) や研究時の安全対策をまとめた「安全のてびき」(技術企画総務課 Web サイトの「安全衛生関連情報」からダウンロード可) などを活用するとともに、不明な点は関係する実験室等の技術系職員に問い合わせを欲しい。

(メールの問い合わせ: anzenrenraku@list.waseda.jp)

理工系の学生として、学内のルールはもちろん、関係する法律・条令を遵守し、自分のみならず、周囲の安全、広くは地球規模の環境安全・保全を意識し行動すること。

I 特徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付録

1. Support Anywhere

2. Web サイト

3. 学籍番号

4. クラス担任

5. 学生相談

6. 大学院進学

7. 就職

8. 学生証

9. 証明書交付

10. 各種願提出

11. 奨学金

12. 掲示

13. 課外活動

14. 安全管理

15. 海外留学

16. 禁煙キャンパス

17. 自転車禁止

18. 図書館・読書室

19. コンピュータ・ルーム

20. 実験施設

21. 保健センター

22. 授業力向上の取り組みについて

23. 国際化推進の取り組みについて

24. 緊急時の通知方法

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

緊急時の対応

(1) けが・重病

大けが・重病の場合には、学内緊急電話（学内緊急電話：内線 2000（西早稲田キャンパス内からのみ）、外線 03-5286-3022）に連絡すること。緊急性（動かさないほうがよい・動かせない場合も含む）があると判断し、直接 119 番に通報した場合は、救急車誘導のため学内緊急電話にも必ず連絡すること。けがをした人・具合の悪い人が動かせる場合には、保健センター（西早稲田分室 51 号館 1 階：内線 2640）で処置を受け、必要があれば学外の医療機関で治療を受ける。同センターが不在のときは学内緊急電話に連絡すること。

西早稲田キャンパスには 7 台の AED が設置されていて緊急事態の場合、状況に応じて使用できる。

【参考：AED 設置場所】http://www.tps.sci.waseda.ac.jp/03_safety/aed/aedlayout.pdf

緊急時の心肺蘇生、AED の使用方法などに関心がある学生は「普通救命講習」を受講すること。詳細は技術企画総務課 Web サイトまたは MyWaseda などでも通知する。

(2) 火 災

近くにある消火器で初期消火するとともに、場所・状況等を学内緊急電話に至急連絡し、その指示を受けること。消火器で消火できない場合には、近くの人とともに避難すること。教室棟の廊下等には非常用電話（赤いボックス）が設置されているので、それを使って学内緊急電話（内線 2000）に連絡できる。

(3) 大地震

地震が静まるまで、机等の下で身の安全を確保する。大学は、大学本部・各キャンパスに対策本部を設け、情報の収集、学生・教職員の安全確保をはかることにしているため、その指示に従うこと。大学総務部発行の「大地震対応マニュアル（学生用）」を参考にすると良い。

15 海外留学等

海外留学についての時期・学費・単位認定の可否および学部独自のプログラムについては理工学術院統合事務所教学支援課に相談し、全学生を対象にした本学の海外留学プログラムの内容や応募手続方法などについては、留学センター作成の「留学の手引き」や留学センター Web サイト（<https://www.waseda.jp/inst/cie/>）をまず参照すること。

全学生を対象にした本学の留学プログラムの概要は、大別すると以下のとおりであるが、留学センター提供の留学プログラムへの参加を検討する学生は、4 月と 10 月に開催される「留学フェア」への参加を勧める。留学の概要説明や注意点、プログラムの情報入手方法、Waseda Global Gate の使用方法など、留学を検討するのに有益な情報が得られる。特に長期留学の場合、遅くとも 1 年以上前からの準備が必要であるため、年間を通した留学応募手続案内などの具体的日程や情報案内等について、随時留学センター Web サイトで確認すること。

本学の留学プログラムの留学費用については、プログラムによって取扱いが異なる。奨学金は、日本学生支援機構（JASSO）の海外留学支援制度（協定派遣）奨学金、WSC メンバーズ基金グローバル人材育成奨学金、早稲田大学学生交流奨学金等があり、奨学金の募集要項等は留学先大学が決定した後に配付される。また、留学先が決定する前に奨学金受給の可否が分かる「（予約採用型）早稲田の栄光奨学金」、「（新設、予約採用型）ハバタケ世界の空奨学金」などもある。詳細については、留学センターの Web サイトや「留学の手引き」を確認すること。

1. Support Anywhere
2. Web サイト
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 大学院進学
7. 就 職
8. 学生証
9. 証明書交付
10. 各種願提出
11. 奨学金
12. 掲 示
13. 課外活動
14. 安全管理
15. 海外留学
16. 禁煙キャンパス
17. 自転車禁止
18. 図書館・読書室
19. コンピュータ・ルーム
20. 実験施設
21. 保健センター
22. 授業欠席の取り扱いについて
23. 履修期間や学習時間の取扱いについて
24. 緊急時の通知方法

プログラムの概要

(1) Double Degree Programs (DD)

本学在学中にダブルディグリーのカリキュラムを提供する大学に留学し、所定の要件を満たせば、卒業する際に本学の学位と留学先大学所定の学位の両方を取得できるプログラム。留学先大学におけるダブルディグリー課程修了のためには、外国語に関する高度な読解力、聴解力、会話力が求められるため、参加希望者の語学力については特に厳格な審査を行う。なお、プログラムによって、対象学部・研究科や期間が異なる。

(2) Exchange Programs (EX)

大学間あるいは箇所間の交換協定に基づき留学する制度。留学期間は原則として1学年相当期間だが、1学期間のものもある。最初から比較的高い語学力が要求され、現地の学生と共に通常科目を履修するプログラムが一般的である。ただし、一部外国語学習を中心としたプログラムもある。人数枠は通常、各校1～3名である。学費は原則として本学に支払い、留学先大学の学費は免除される。

(3) Customized Study Programs (CS)

留学先大学が早稲田大学生のために定めるカリキュラムに参加するプログラム。最初から通常科目を履修できるプログラムと、外国語学習を中心としながら、語学レベルに応じてテーマに基づいたカリキュラムを履修するプログラムの大きく分けて2種類がある。留学期間は原則として1学年相当期間だが、1学期間のものもある。学費は原則として本学のものは免除になり、留学先大学に所定のプログラムフィーを支払う。

【プログラム種別】

上述の(2)・(3)のプログラムは更に、以下の2種類に分類される。

a. Regular Academic Programs

留学先大学の通常カリキュラムの中で、現地の学生と共に通常科目を履修する。

b. Language Focused Programs

留学先大学では外国語を中心として学習するが、一部、通常科目を履修することが可能な場合もある。

<組み合わせ例>

プログラム名称	プログラム種別	略称
Exchange Programs (EX)	Regular Academic Programs	EX-R
	Language Focused Programs	EX-L
Customized Study Programs (CS)	Regular Academic Programs	CS-R
	Language Focused Programs	CS-L

(4) 短期プログラム

夏季・春季休業期間に実施する2週間から8週間程度の短期プログラム。内容はプログラムごとに異なるが、語学研修、テーマ研究等を学ぶカリキュラムになっている。長期での留学が難しい学生、あるいは長期留学の前に自分の異文化適応力や外国語能力を試す目的で短期留学プログラムに参加してみたい学生にすすめる。交換留学協定校による学費免除のプログラムも一部提供している。留学センターの短期留学プログラムは、海外研修科目「海外語学・文化研修プログラム」の科目登録を行うことで単位の取得が可能である。

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 録

1. Support Anywhere

2. Web サイト

3. 学籍番号

4. クラス担任

5. 学生相談

6. 大学院進学

7. 就 職

8. 学生証

9. 証明書交付

10. 各種願提出

11. 奨学金

12. 掲 示

13. 課外活動

14. 安全管理

15. 海外留学

16. 禁煙
キャンパス

17. 自転車禁止

18. 図書館・
読書室

19. コンピュータ・
ルーム

20. 実験施設

21. 保健センター

22. 授業力向上の取り組みについて

23. 授業時間外の学習の取り組みについて

24. 緊急時の
通知方法

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

1. Support Anywhere
2. Web サイト
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 大学院進学
7. 就 職
8. 学生証
9. 証明書交付
10. 各種願提出
11. 奨学金
12. 掲 示
13. 課外活動
14. 安全管理
15. 海外留学
16. 禁煙 キャンパス
17. 自転車禁止
18. 図書館・ 読書室
19. コンピュータ・ ルーム
20. 実験施設
21. 保健センター
22. 授業欠席の取り 扱いについて
23. 授業時間外の学習の 取扱いについて
24. 緊急時の 通知方法

(5) その他の留学

早稲田大学が提供するプログラムの中に希望する留学先がない場合や、早稲田大学を卒業後に大学院留学をする場合は、自分で留学先を探して留学することになる。私費留学は、自分で希望大学から入学許可を得、私費で留学先の学費と生活費をまかなう形の留学形態をいう。私費留学のカテゴリーの中には、もっぱら語学学習のための留学や、Visiting StudentあるいはNon-degree Studentといった呼称で呼ばれるものもある。出願は通常入学する時期の約半年前で締め切られる。最近ではインターネットで出願を受け付ける大学も出てきているが、余裕をもった準備が必要となる。また、留学先で取得した単位が帰国後に早稲田大学で認定されない場合があるので、理工学術院統合事務所でよく確認すること。学籍上の扱いについても、ケースによって異なるため理工学術院統合事務所に確認すること。また、学部独自に主催される留学プログラムが、その都度学部・掲示板にて募集される場合がある。

16 禁煙キャンパス

受動喫煙（他人のタバコの煙を吸わされること）の防止を謳った健康増進法の施行、文部科学省通達、新宿区条例の施行および分煙化徹底についての本学理事会決定に基づき、西早稲田キャンパスにおける分煙ルールを以下のように定めている。各自、分煙ルールを厳守すること。また、通学中の路上喫煙に関しては、マナーとルールを守ること。早大生としての自覚を持った行動が望まれる。

1. 「喫煙指定場所」を除き、公共の場所（教室・ゼミ室、実験室、会議室、ラウンジ、ホワイエ、アトリウム、図書館・学生読書室、生協施設、中庭、廊下・階段・通路・エレベータ、トイレ等）、および屋外エリアを禁煙とする。
2. 研究室など、ゼミや学生指導を行う場合は教室とみなし、禁煙とする。
3. 歩行喫煙、吸殻の投げ捨て等は厳禁とする。

17 自転車、バイクおよび自動車の通学利用禁止

学生が西早稲田キャンパス内へ自転車、バイク、自動車を乗り入れ、駐輪・駐車することは、原則として禁止している。また、周辺道路も終日駐車禁止となっているため、自転車、バイクおよび自動車を通学に利用することを禁止する。なお、自転車の場合に限り、特別の事情がある場合は理工学術院統合事務所総務課（51号館1階）に問い合わせること。

これまで、本学の学生によるものと思われる正門前道路や明治通り側歩道等の違法駐輪・駐車に対して近隣住民からたびたび苦情が寄せられ、所轄の警察署からも再三にわたり厳しい注意をうけている。また、この迷惑駐車が原因となって交通事故も発生している。周辺通路の駐車禁止を厳守すること。自分だけなら、違法駐輪しても問題ないという意識を捨て、早大生としての自覚を持った行動が望まれる。

18 図書館（理工学生読書室・理工学図書館）

早稲田大学には全学で20以上の図書館・図書室等があり、総称して「早稲田大学図書館」という。学部学生は12箇所、大学院学生は14箇所の図書館・学生読書室等で資料の貸出を受けることができる。サービス全般については、図書館Webサイト <https://www.waseda.jp/library/> に詳細な案内がある。図書館システムやサービスについての最新情報は図書館Webサイトで確認すること。

所蔵資料は統合検索システムWINE（ワイン）<https://waseda.primo.exlibrisgroup.com/> でどこからでも検索できる。WINE上でログインすることで、自分が借り出している資料の状況確認や貸出期間の

延長、資料のリクエストもできる。

図書や雑誌、新聞、視聴覚資料といった現物資料だけではなく、電子ブック、電子ジャーナルやオンラインデータベースの電子資料も多数契約しているので、活用してほしい。リサーチ NAVI「データベース・電子ジャーナルを利用する」<https://waseda-jp.libguides.com/research-navi/e-resources/jp> で案内している。自宅等、学外から電子資料を利用するには、「学外アクセス」https://www.waseda.jp/library/search_find/off-campus-access/ を経由すること。

西早稲田キャンパスには、理工学生読書室と理工学図書館がある。以下それぞれの特長と利用上の注意事項を紹介する。

(1) 理工学生読書室 52 号館地下 1 階

理工学術院の学生を主な対象とする学習図書館であり、理工系分野を中心に学習に適した日本語図書がそろっている。利用の多い本は複本制をとり、複数冊用意している。

(2) 理工学図書館 51 号館地下 1 階

理工系分野の学術雑誌と外国語を含めた図書（参考図書含む）を蔵書の中心とした研究図書館である。学習・研究のためのラーニング・コモンズを設置しており、図書館の資料や電子資料を利用しながらの議論やグループ学習ができる。

(3) 利用上の注意事項

- ① 通常授業期間中の開館時間 月～金 9:00～21:00 土 9:00～19:00
(長期休業期間中等は変更になるので図書館 Web サイトにあるカレンダーを参照のこと)
- ② 学生証は必ず持参。忘れた場合は図書館を利用できない。
- ③ 館内では喫煙、雑談、携帯電話での通話、飲食は禁止。
- ④ 図書資料は大切に扱うこと。無断持ち出し、書き込み、線引き、汚損等があった場合は厳正に対処する。
- ⑤ 貸出期限を 4 日以上超えた場合は、その本を返却するまで貸出停止となり、返却後は 1 冊につき返却期限日から経過日数分の貸出停止となる。
- ⑥ 契約電子資料の利用に際しては、ルールを遵守すること。<https://waseda-jp.libguides.com/imas/help#notice>
- ⑦ 一部の雑誌については、埼玉県にある本庄保存書庫へ別置している。
- ⑧ 理工学生読書室には図書館ラーニング・アシスタントがいるので、わからないことがあれば、質問すること(大学・図書館の方針等により、活動を休止する場合あり)。
- ⑨ その他図書館利用上で不明な点があったら、まずは図書館 Web サイトを検索する。それでもわからない場合は、カウンターで問い合わせるか、MyWaseda からオンラインレファレンスを利用すること。

MyWaseda → 「研究」タブ → 図書館申請フォーム → オンラインレファレンス

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

1. Support Anywhere
2. Web サイト
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 大学院進学
7. 就 職
8. 学生証
9. 証明書交付
10. 各種願提出
11. 奨学金
12. 掲 示
13. 課外活動
14. 安全管理
15. 海外留学
16. 禁煙キャンパス
17. 自転車禁止
18. 図書館・読書室
19. コンピュータ・ルーム
20. 実験施設
21. 保健センター
22. 授業欠席の取り扱について
23. 長期休業中の学習の取り組みについて
24. 緊急時の通知方法

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録
1. Support Anywhere
2. Web サイト
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 大学院進学
7. 就 職
8. 学生証
9. 証明書交付
10. 各種願提出
11. 奨学金
12. 掲 示
13. 課外活動
14. 安全管理
15. 海外留学
16. 禁煙キャンパス
17. 自転車禁止
18. 図書館・読書室
19. コンピュータ・ルーム
20. 実験施設
21. 保健センター
22. 授業欠席の取り扱いについて
23. 授業中の学生様の取扱いについて
24. 緊急時の通知方法

19 コンピュータ・ルーム

西早稲田キャンパスには、約 700 台のコンピュータが授業等で利用されている。授業等による利用が優先されるが、利用していない時間帯は、レポート作成やインターネット閲覧など自由に利用できる（オープン利用）。

63 号館 3 階（2022 年 4 月現在）

名 称	収容人数	利用可能な OS				備 考
		Win（日）	Win（英）	Linux	MacOS X	
A ルーム	80 名	○	○	○	—	島型レイアウト
B ルーム	80 名	○	○	○	—	
C ルーム	100 名	○	○	○	—	
D ルーム	48 名	○	○	—	○	教室型レイアウト
E ルーム	50 名	○	○	—	○	
F ルーム	48 名	○	○	○	—	MacBook Air を設置
G ルーム	48 名	○	○	○	—	教室型レイアウト
						語学授業を想定した構成
GroupWorkSpace	約 10 名	—	—	—	—	ワイヤレスプレゼンテーションシステム設置

その他（2022 年 4 月現在）

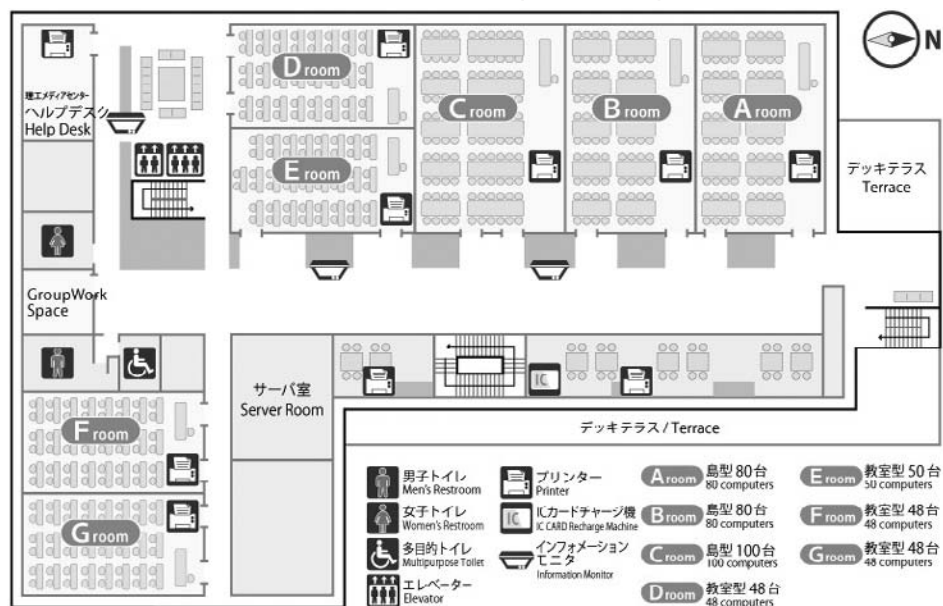
名称	収容人数	利用可能な OS	場所
製図 /CAD 室	222 名	Windows（日）	57 号館 1 階

各コンピュータ・ルームの利用状況は、インフォメーションディスプレイ（63 号館 1 階・3 階に設置）および理工メディアセンターの Web サイト（<http://www.waseda.jp/mse/>）“コンピュータ・ルーム利用スケジュール”で確認できる。

〈相談窓口〉

学内の情報環境や各種サービス利用についての相談窓口として、ヘルプデスクが 63 号館 3 階南側に設けられている。

63 号館 3 階 情報フロアマップ /Third Floor Map at Building 63



○ Windows 環境を利用する

すべてのコンピュータ・ルームで Windows が利用できる。Word, Excel, PowerPoint のほか、理工系ソフトウェア、ソフトウェア開発環境などが用意されている。

○ Linux 環境を利用する

63 号館 3 階の A, B, C, F, G ルームでは Linux 環境が利用できる。主にプログラミング言語やアルゴリズム、数値解析などの授業で利用されている。

○ MacOS X 環境を利用する

63 号館 3 階の D, E ルームでは MacOS X 環境が利用できる。Word, Excel, PowerPoint のほか、Photoshop や Illustrator (E ルームのみ) などが用意されている。

○ 語学学習環境を利用する

63 号館 3 階の F, G ルームでは、ヘッドセットが常設されており、語学学習を支援する CALL システムが利用できる。主に語学の授業およびオープン利用時の自主学習で活用されている。

20 実験施設紹介

(1) 共通実験室

西早稲田キャンパスや 50 号館 (TWIns) には、1 年次、2 年次、3 年次に履修する基礎実験科目や各学科が設置している専門実験科目などを実施する教育実験施設がある。これらを学科の枠を越えて共通的に利用していることから共通実験室と呼んでいる。これらの実験室では実験・実習科目を中心に実施しているが、ここで保有する設備は研究活動にも広く利用されている。

○ 理工学基礎実験室

理工学基礎実験室では、「理工学基礎実験 1」および「理工学基礎実験 2」を実施している。それぞれの学問分野ごとに、物理系基礎実験室・化学系基礎実験室・生命科学系基礎実験室・工学系基礎実験室の 4 つの実験室で構成されている。

理工学基礎実験室 (物理系) / 56 号館 2 階

「理工学基礎実験 1」の物理系分野の基礎実験を行っている。ものづくりをベースとした創造的でユニークな実験を通して物理学の基礎を学ぶ。

理工学基礎実験室 (化学系) / 56 号館 3 階

「理工学基礎実験 1」および「理工学基礎実験 2」の化学系分野の基礎実験を行っている。身近な化学的事象を扱った実験を通して、合成、抽出、分析等の化学に関する基礎的な知識と操作を学ぶ。

理工学基礎実験室 (生命科学系) / 56 号館 3 階

「理工学基礎実験 1」の生命科学系分野の基礎実験を行っている。細胞の観察や DNA の抽出などの生命科学系の基礎を学ぶ。

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 録

1. Support Anywhere

2. Web サイト

3. 学籍番号

4. クラス担任

5. 学生相談

6. 大学院進学

7. 就 職

8. 学生証

9. 証明書交付

10. 各種願提出

11. 奨学金

12. 掲 示

13. 課外活動

14. 安全管理

15. 海外留学

16. 禁煙キャンパス

17. 自転車禁止

18. 図書館・読書室

19. コンピュータ・ルーム

20. 実験施設

21. 保健センター

22. 夜間授業の取り組みについて

23. 昼間授業中の学習の取り組みについて

24. 緊急時の通知方法

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

理工学基礎実験室（工学系）／63号館地下1階東側
「理工学基礎実験2」の工学系分野の基礎実験を行っている。走査型電子顕微鏡操作やコンピュータ自動計測などを通して、高度で実践的な工学系の基礎技術を修得する。

○材料実験室／59号館1階東側

各種構造材料（金属・木材・コンクリート）の強度試験・物性試験や構造物の強度評価に関する専門実験を実施している。

○工作実験室／59号館1階西側

機械工作設備を用いた機械工作実習を行う実験室。工作指導を受けながら研究実験用の実験装置・部品加工や試作などを行える。

○熱工学実験室、流体実験室、制御工学実験室／58号館1階

これらの実験室ではそれぞれ、熱工学、流体工学、制御工学に関する専門実験を実施している。流体実験室では水理・水質に関する専門実験も実施している。

○製図・CAD室／57号館1階

ドラフターと平行定規（製図台）を合わせて約400台有し、建築系、機械系の製図の基礎を習得する実習やCAD（コンピュータを使用した）による設計製図演習の授業が行われている。

○測量実習室／61号館地下1階

さまざまな測量機器を用いた測量実習を実施している。測量実習以外にも写真測量による自然環境変化の判読や計測測定、遺跡調査等の研究に利用されている。

○電気工学実験室／63号館地下1階西側

電気・電子系分野および情報通信分野の専門実験を実施している。また、電圧・電流・磁場の測定や回路製作などに関する技術相談も行っている。

○化学分析実験室／56号館5階

重量分析・容量分析・機器分析など無機分析化学の専門実験を実施している。古典的な化学分析の基礎から大型装置を使用した機器分析まで幅広い知識と技術を習得できる。

○物理化学実験室／56号館4階

化学の対象である物質や物質を構成している化合物、分子などについて、物理学的な手法を用いた専門実験を実施している。

○有機化学実験室／56号館5階

試薬、器具・装置の取扱い方から有機化合物の合成、分離・精製など有機化学実験の基本を学ぶ。講義で学んだ反応機構などを実際に実験を通して確認し、有機化学の知識の理解をさらに深める。また、実

1. Support Anywhere
2. Web サイト
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 大学院進学
7. 就 職
8. 学生証
9. 証明書交付
10. 各種願提出
11. 奨学金
12. 掲 示
13. 課外活動
14. 安全管理
15. 海外留学
16. 禁煙キャンパス
17. 自転車禁止
18. 図書館・読書室
19. コンピュータ・ルーム
20. 実験施設
21. 保健センター
22. 授業欠席の取り扱いについて
23. 履修期間や学習時間の取扱いについて
24. 緊急時の通知方法

験操作を繰返し訓練することで有機化学の実験操作方法の技術を習得する。

○生命科学実験室：先端生命医科学センター TWIns 共用実験室／50 号館 3 階

本実験室では遺伝子やタンパク質などの生体分子の取扱い方法や、細胞の培養や分画、生物個体を用いた形態学的・生理学的な実験を行い、生命科学の手法を幅広く習得する。

(2) 研究用共同利用施設

研究用共同利用施設では、研究用として共同利用が可能な大型装置や精密計測機器などが集中的に管理され、幅広い研究活動に利用されている。また、それぞれの機器利用講習会や技術相談なども行われている。

○物性計測センターラボ／55 号館 S 棟地下 1 階

物性計測センターラボは、物質の構造を解析するための研究用共同利用施設である。研究室に配属された 4 年生から大学院修士課程、博士後期課程、研究員まで様々な分野の研究で利用されている。最先端の研究用計測機器が整備されているため、学内だけでなく他大学や研究機関などからの利用もある。

○マイクロテック／55 号館 N 棟地下 1 階

半導体加工装置やクリーンルームを研究用の共同利用設備として開放している。機械工学、物性物理、化学、材料工学など幅広い分野の研究者に利用されている。

○映像情報ラボ／61 号館 3 階

マルチメディア研究や教材作成などのための映像情報系機器を、共同利用設備として開放している。大型カラープリンターを用いた学会発表やプレゼンテーション用のポスター作成などを行える。

○先端生命医科学センター共通機器室

50 号館（TWIns）に於いて、生命科学系の資料分析に用いられる、遠心機、MS、FC、DNA シーケンサー、リアルタイム PCR、X 線回折装置、ガスクロマトグラフ、などの機器類を整備設置している。リサーチサポートセンターの管理の下、利用開放されている。

21 保健センター西早稲田分室

保健センター

保健センターは学生が健康な状態で大学生活が送れるように、健康の基礎作りと生涯を通じて心身の健康の自己管理能力を身につけるよう援助していくことを目的に設置されている。保健センターは、早稲田キャンパスのほか、各キャンパスに分室が設置されている。

なお、詳細については、Web サイト（<http://www.waseda.jp/hoken/>）を参照すること。

保健センター西早稲田分室（51 号館 1 階 07 室）

開室時間 月～土曜日 9：00～17：00

直通電話 03-5286-3021 〈学生相談直通 03-5286-3082〉

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 録

1. Support Anywhere

2. Web サイト

3. 学籍番号

4. クラス担任

5. 学生相談

6. 大学院進学

7. 就 職

8. 学生証

9. 証明書交付

10. 各種願提出

11. 奨学金

12. 掲 示

13. 課外活動

14. 安全管理

15. 海外留学

16. 禁煙
キャンパス

17. 自転車禁止

18. 図書館・
読書室

19. コンピュータ・
ルーム

20. 実験施設

21. 保健センター

22. 授業内容の取
扱いについて

23. 早稲田大学
の取扱いについて

24. 緊急時の
通知方法

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

【主な業務】

- (1) 学生定期健康診断
- (2) 学生・教職員の特殊健康診断
- (3) 各種健康診断書の発行
(ただし、定期健康診断を受診した者に限る)
- (4) 健康相談
月～土曜日 9:00～17:00
- (5) 医師による診察
診察受付時間 月～金曜日 13:30～15:40
- (6) 応急救急処置、傷病者の休養
月～土曜日 9:00～17:00
※西早稲田分室の前室（入り口の部屋）は常時開室しているので、簡単な傷の手当て等必要な時はいつでも利用できるようになっている。
- (7) 学生相談（51号館 1F, 9F）
月～金曜日 9:00～12:00, 13:00～17:00（予約優先）
※心理相談、学生生活全般について心理専門相談員が応じている。
- (8) 健康教育

1. Support Anywhere
2. Web サイト
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 大学院進学
7. 就 職
8. 学生証
9. 証明書交付
10. 各種願提出
11. 奨学金
12. 掲 示
13. 課外活動
14. 安全管理
15. 海外留学
16. 禁煙 キャンパス
17. 自転車禁止
18. 図書館・読書室
19. コンピュータ・ルーム
20. 実験施設
21. 保健センター
22. 授業欠席の取り扱いについて
23. 保護者や学生への取扱いについて
24. 緊急時の通知方法

22 授業欠席の取り扱いについて

以下の事例により、「授業欠席（オンライン授業における未受講を含む）」、「レポート未提出」、「試験未受験」に該当する場合は、所属箇所（学部・研究科等）事務所で手続きを行うことで、その間の取り扱いについて成績評価において不利にならないよう当該科目の担当教員に配慮をお願い出ることができる。ただし、欠席の取扱いの最終的な判断は、担当教員の判断による。

(1) 忌引き

- ① 対象
1 親等（親、子）、2 親等（兄弟姉妹、祖父母、孫）および配偶者
- ② 日数
授業実施日連続7日まで（ただし、対象者が海外在住者の場合は、柔軟に対応する）
- ③ 手続方法
 - I) 欠席期間終了後10日以内に、所属箇所事務所より「忌引きによる欠席届」を受け取る。
 - II) 「忌引きによる欠席届」（記入済）および会葬礼状等を、すみやかに所属箇所事務所に提出する。
※保護者等死去の場合は、保護者等変更の手続きも必要。
 - III) 所属箇所事務所より「忌引きによる授業欠席等に関する取扱いのお願い」を受領。
 - IV) 担当教員に、教場にて（オンライン授業の場合はEメール、LMS等を通じて、あるいは科目設置箇所事務所に）、「忌引きによる授業欠席等に関する取扱いのお願い」を渡し、配慮をお願い出る。

(2) 裁判員制度

① 対象

裁判員候補者に指名され、裁判員選任手続期日、審理・公判当日に、裁判所へ出頭する本学通学課程に在学する者（国内交換留学生は、これに準ずる）

※科目等履修生や人間科学部 e スクール学生は対象外とする。

【参考】法律により学生であることを理由に、裁判員の辞退を願い出ることができる。

裁判員の参加する刑事裁判に関する法律（第十六条抜粋）

（辞退事由）

第十六条 次の各号のいずれかに該当する者は、裁判員となることについて辞退の申し立てをすることができる。

- 一 年齢七十年以上の者
- 二 地方公共団体の議会の議員（会期中の者に限る。）
- 三 学校教育法第一条、第二百二十四条又は第三百三十四条の学校の学生又は生徒（常時通学を要する課程に在学する者に限る。）

② 手続方法

I) 「選任手続期日のお知らせ（呼出状）」とともに、所属箇所事務所に申し出る。

II) 担当教員に、教場にて（オンライン授業の場合は E メール、LMS 等を通じて、あるいは科目設置箇所事務所に）、「配慮願」を渡し、配慮を願い出る。

(3) 学校において予防すべき感染症【保健センター／学校保健安全法による】

① 対象

保健センター Web サイト「学校において予防すべき感染症」参照

* 新型コロナウイルス関連についても以下を確認すること。

<https://www.waseda.jp/inst/hsc/information/healthcare/infection>

② 手続方法

I) 罹患したことを、所属学部または大学院事務所に連絡する。

II) 治癒後、診断を受けた医師に「学校における感染症治癒証明書」の記入を依頼し、所属学部または大学院事務所に提出する。

III) 所属学部または大学院所定の「欠席届」に記入し、所属学部または大学院事務所の指示に従い、担当教員に配慮を願い出る。

※新型コロナウイルス感染症の場合は、出席停止を指示する範囲及び手続方法が異なる場合があるため、最新の情報を上記の保健センター Web サイトで確認すること。なお、罹患の場合のみならず、ワクチン接種の副反応による欠席および大学が出席停止を指示した場合等の欠席も、配慮を願い出ることが可能である。詳細は所属の学術院事務所で問い合わせること。

(4) 「介護等体験」「教育実習」期間の取り扱い【教職課程】

① 対象

教職課程を履修し、「介護等体験」または「教育実習」を行う者

② 日数

実習期間

※クォーター科目の履修期間中に実習期間が該当する場合、配慮が難しいため、当該期間にはクォーター科目の履修登録を行わないこと。

I 特徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 録

1. Support Anywhere

2. Web サイト

3. 学籍番号

4. クラス担任

5. 学生相談

6. 大学院進学

7. 就 職

8. 学生証

9. 証明書交付

10. 各種願提出

11. 奨学金

12. 掲 示

13. 課外活動

14. 安全管理

15. 海外留学

16. 禁煙キャンパス

17. 自転車禁止

18. 図書館・読書室

19. コンピュータ・ルーム

20. 実験施設

21. 保健センター

22. 夜間入居の取り扱いについて

23. 緊急時の学内安全確保の取組について

24. 緊急時の通知方法

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

1. Support Anywhere
2. Web サイト
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 大学院進学
7. 就 職
8. 学生証
9. 証明書交付
10. 各種願提出
11. 奨学金
12. 掲 示
13. 課外活動
14. 安全管理
15. 海外留学
16. 禁煙キャンパス
17. 自転車禁止
18. 図書館・読書室
19. コンピュータ・ルーム
20. 実験施設
21. 保健センター
22. 授業欠席の取り扱いについて
23. 授業期間中の全学休講の取り扱いについて
24. 緊急時の通知方法

③ 手続方法等

介護等体験，教育実習ともに欠席配慮の申し出方法とその手続きは，対象者へ Waseda Moodle 等で通知する。所定の手続きを行うことで欠席の配慮を申し出ることができるが，この最終的な取扱いはいは各科目担当教員の判断による。

23 授業期間中の全学休講の取り扱いについて

気象情報悪化等，次に挙げる事案に際し，全学休講とする場合がある（休日および休業期間を除く）。休講・延期となるのは，対象キャンパスにて対面で実施されるすべての授業および試験である。

学生は大学の決定した授業の休講・試験の延期措置に原則として従うこととするが，授業が実施されるキャンパスまでの経路において，交通機関の乱れや弾道ミサイル発射に伴う Jアラート発信等により通学することが危険又は困難であると自身で判断し，通学を見合わせた場合は，所属箇所事務所による承認済みの欠席届をもって，該当科目の担当教員へ配慮を願い出ることができる。

■例外的な対応

※オンライン授業受講にあたっては，授業を受講する場所において，気象状況の影響等により受講が困難である場合は，各自で判断する。各自の判断で視聴を見合わせた場合は，後日所属学部（研究科）において手続きを行うことにより，欠席の配慮を求めることができる。

(1) 気象状況悪化

気象庁による気象警報のみに基づく授業の休講・試験の延期措置は行わない。ただし，大雨，洪水，暴風，暴風雪，大雪等の気象状況および気象庁による気象警報をもとに，危険であると判断した場合は，次の通り，授業の休講・試験の延期措置をとる。なお，大学から特段の通知等がない場合は，原則として授業の休講・試験の延期措置は行わない。

- ① 授業の休講・試験の延期措置を決定する場合は，原則として，各時限の授業・試験開始 60 分前までに決定し，以下に記載の「緊急時の通知方法」に従って周知・広報する。ただし，できる限り授業・試験開始の 2 時間前までには周知できるよう努力する。
- ② 台風や大雪等，気象状況が時間の経過とともに悪化することが十分予測される場合は，前日に授業の休講・試験の延期措置の決定を行うことがある。その場合は，前日の午後 7 時までに決定の判断を行い，学生への周知は以下に記載の「緊急時の通知方法」に従って前日の午後 9 時までに通知を行う。

(2) 大地震

大地震発生により，授業実施が困難であると判断した場合は，次の通り，授業の休講・試験の延期措置をとる。

- ① 授業の休講・試験の延期措置を決定した場合は，直ちに以下に記載の「緊急時の通知方法」で周知・広報する。
- ② 授業時間中の場合は，校内放送で迅速に周知する。

(3) 大規模停電

電力需要量が供給量を大幅に上回り，予測不能な大規模停電が発生した場合は，次の通り授業を休講とし，復旧の翌日の 1 時限から授業を再開する。

- ① 授業時間中（1～7時限）に大規模停電が発生した場合は、状況が落ち着くまで教室待機とする。
その後の授業は全て休講とする。
- ② 授業時間外に大規模停電が発生した場合は、当日の授業は全て休講とする。

(4) 首都圏の交通機関がストライキを実施した場合

早稲田・戸山・西早稲田キャンパスは①②③④を適用し、所沢キャンパスは①②③⑤を適用する。

- ① JR 等交通機関のストライキが実施された場合（ゼネスト）は次の通りとする。
 - A 午前0時までに中止された場合、平常通り授業を行う。
 - B 午前8時までに中止された場合、授業は3時限目（午後1時）から行う。
 - C 午前8時までに中止の決定がない場合は、授業は終日休講とする。
 上記は、JR の順法闘争および私鉄のストには適用しない。
- ② 首都圏 JR の部分（拠点）ストライキが実施された場合は通常通り授業を行う。
- ③ 首都圏 JR の全面時限ストライキが実施された場合は次の通りとする。
 - A 午前8時までストライキが実施された場合、授業は3時限目（午後1時）から行う。
 - B 正午までストライキが実施された場合、6時限目（午後6時15分）から授業を行う。
 - C 正午を越えてストライキが実施された場合、授業を終日休講とする。
- ④ 私鉄、都市交通のみストライキが実施された場合は、平常通り授業を行う。
- ⑤ 西武鉄道新宿線または西武鉄道池袋線のどちらか一方でもストライキが実施された場合、また、西武鉄道両線が実施されない場合でも西武バスのストライキが実施された場合、次の通りとする。
 - A 午前8時までストライキが実施された場合、授業は3時限目（午後1時）から行う。
 - B 午前8時を越えてストライキが実施された場合、授業を終日休講とする。

24 緊急時の通知方法

緊急時に大学から通知する内容は、以下の方法で確認すること。

- (1) 早稲田大学緊急用お知らせサイト <https://emergency-notice.waseda.jp/>
- (2) MyWaseda 内のお知らせ
- (3) Waseda メール

また、以下からも同一の内容にアクセスできる。

- (1) MyWaseda ログイン前画面 <https://my.waseda.jp/>
- (2) 早稲田大学公式 Web サイト <https://www.waseda.jp/>
- (3) 早稲田大学公式 Twitter https://twitter.com/waseda_univ
- (4) 早稲田大学公式 Facebook <https://www.facebook.com/WasedaU>

I 特徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 録

1. Support Anywhere

2. Web サイト

3. 学籍番号

4. クラス担任

5. 学生相談

6. 大学院進学

7. 就 職

8. 学生証

9. 証明書交付

10. 各種願提出

11. 奨学金

12. 掲 示

13. 課外活動

14. 安全管理

15. 海外留学

16. 禁煙キャンパス

17. 自転車禁止

18. 図書館・読書室

19. コンピュータ・ルーム

20. 実験施設

21. 保健センター

22. 夜間入居の取り扱いについて

23. 緊急時の学生生活の取り組みについて

24. 緊急時の通知方法

V

付 録

I	特 徴
II	沿革と概要
III	学部要項
IV	学生生活
V	付 録

1	早稲田大学学則（抜粋）	1. 学則(抜粋)
2	早稲田大学校歌	2. 校歌
3	キャンパスマップ	3. キャンパス マップ
4	時間割作成用紙	4. 時間割 作成用紙

1 早稲田大学学則（抜粋）

第1章 総 則

第1条 本大学は学問の独立を全うし真理の探究と学理の応用に努め、深く専門の学芸を教授し、その普及を図るとともに、個性ゆたかにして教養高く、国家および社会の形成者として有能な人材を育成し、もって文化の創造発展と人類の福祉に貢献することを目的とする。

第5条 本大学の修業年限は、4年とする。ただし、在学年数は、8年を超えることができない。

第2章 学年、学期、休業日

第7条 本大学の学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。学年は次の2期に分ける。

春学期 4月1日から9月20日まで

秋学期 9月21日から翌年3月31日まで

（学部暦参照、学部 Web サイト参照）

第8条 定期休業日は次のとおりとする。

- 一 日曜日
- 二 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
- 三 本大学創立記念日（10月21日）
- 四 夏季休業 8月上旬から9月20日まで
- 五 冬季休業 12月下旬から翌年1月5日まで
- 六 春季休業 2月中旬から3月31日まで

2 夏季、冬季、春季休業期間の変更または臨時の休業日については、その都度公示する。

第9条 休業日でも、特別の必要があるときは、授業をすることがある。

第3章 教育課程・授業科目・単位数

第10条 各学部は、教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に教育課程を編成するものとする。

2 教育課程の編成に当たっては、各学部は、その専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮するものとする。

第11条 教育課程は、各授業科目を必修科目、選択科目および自由科目に分け、これを各年次に配当して編成するものとする。

2 自由科目は、第52条に定める所定の単位数に算入しない。

3 他の学部属する授業科目を選択科目または自由科目として履修することができる。

第12条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して定める。

第13条 講義科目および演習科目については、15時間から30時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。

2 実験、実習および実技については、30時間から45時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。

3 卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらに必要な学修等を考慮して単位数を定めることができる。

第15条 各学部の授業科目、単位数および履修方法は、別表のとおりとする（※）。

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 録

1. 学則(抜粋)

2. 校歌

3. キャンパス
マップ

4. 時間割
作成用紙

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

※本学部要項Ⅲに記載のとおりとする。

第19条 教員の免許状を得ようとする者は、所属学部の科目のほかには教育学部に配置された教職課程の科目を履修しなければならない。

第23条 学生は毎学年または毎学期の始めに当該学年または学期に履修する科目を選定して所属の学部長の承認を得なければならない。

第6章 入学・休学・退学・転学・懲戒

第26条 入学時期は、毎学年または毎学期の始めとする。

第31条 入学、転入学または編入学を許可された者は、大学が指定する入学手続期間内に、大学に別表1に定める入学金、第1年度に係る基礎教育充実費ならびに最初の学期に係る授業料、施設費、教育環境整備費、全学グローバル教育費、実験実習料および学生読書室図書費を納め、所定の書類を提出しなければならない。

第32条 保護者等（学生が学修研究活動を円滑に遂行していく上で、本学と連携し、学生を指導、支援する立場の者をいう。以下同じ。）は、学生が在学中に本学の諸規則、指示および遵守事項を守るよう指導し、監督する責任を負う。

第33条 保護者等として不適当と認めたときは、その変更を命ずることができる。

第34条 保護者等が死亡し、またはその他の事由でその責務を果たし得ない場合には新たに保護者等を選定して届け出なければならない。

第35条 保護者等が住所を変更した場合には、直ちにその旨を届け出なければならない。

第36条 病気その他の理由で引続き2か月以上出席することができない者は、その理由を付し、保護者等と連署で所属の学部長に願い出て、その許可を得て休学することができる。病気を理由とする休学願には医師の診断書を添えなければならない。

第37条 休学は、当該学年限りとする。ただし、特別の事情のある場合には、引き続き休学を許可することがある。

2 休学の期間は、通算して4年を超えることができない。

第39条 休学者は、学期の始めでなければ復学することができない。

第40条 休学期間は、在学年数に算入しない。

第44条 任意に退学しようとする者は、理由を付し、保護者等と連署で願い出なければならない。

（措置退学）

第45条の2 次の各号の一に該当する者については、退学の措置をとるものとする。

- 一 第5条ただし書き、第41条第2項、第42条第2項または第42条の2第5項に定める在学年数を満了した者
- 二 各学部が定める一の学年から次の学年に進むための要件を満たすべき期間を満了した者
- 三 正当な理由がなく、各学部が定める出席基準を満たさない者
- 四 学業を怠り、各学部が定める必要単位数を一定期間に満たさない者

（懲戒）

第46条 学生が本大学の規則もしくは命令に背きまたは学生の本分に反する行為があったときは、懲戒処分に付することができる。懲戒は、訓告、停学、退学の3種とする。

（懲戒退学）

第47条 本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者は、懲戒による退学処分が付する。

1. 学則(抜粋)
2. 校歌
3. キャンパスマップ
4. 時間割作成用紙

- (再入学)
- 第47条の2 第44条または第45条の2第3号および第4号の規定により退学した者が再入学を志望したときは、別に定める期間内に限り、選考の上これを許可することがある。ただし、退学した日の属する学期の翌学期の始めにおいてこれを許可することはできない。
- 2 第47条の規定により退学した者が再入学を志望したときは、これを許可しない。ただし、退学後別に定める期間を経過し、改悛の情が顕著でありかつ成業の見込みがある場合には、選考の上これを許可することがある。
- 3 再入学を許可された者が退学または学費未納により抹籍となった場合、以後の再入学は認めない。ただし、特別の事情がある場合はこの限りではない。
- 4 第1項から前項までの規定により再入学を許可した場合においては、既修の科目の全部または一部を再び履修させることがある。
- (教授会の議)
- 第48条 入学、退学、休学、転部もしくは転学の許可または懲戒は、各教授会の議を経てこれを行う。懲戒による退学とすべき事由がある者については、他の事由による退学を認めないものとする。

第7章 試験・卒業・称号

- 第49条 所定の科目を履修した者に対しては、毎学年末または毎学期末に試験を行い、合格した者に対しては、単位を与える。ただし、教授会において認められた科目については、平常点をもって試験に代えることができる。
- 2 前項の定期試験のほかに、各教授会の決議によって臨時に試験を行うことがある。
- 第50条 試験の方法は、筆記試験、口述試験および論文考査の3種とし、各教授会がこれを決定する。
- 第51条 試験（第49条の規定により平常点をもって試験に代える場合を含む。）の成績は、A⁺、A、B、CおよびFの五級に分かち、A⁺、A、BおよびCを合格とし、Fを不合格とする。ただし、学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる科目については、PおよびQの二級に分かち、Pを合格とし、Qを不合格とすることができる。
- 第52条 本大学に4年以上在学して所定の試験に合格し、所定の単位を修得した者を卒業とし、学士の学位を授与する。ただし、在学期間に関しては、所定の単位を優れた成績で修得したと各教授会が認めた場合に限り、3年以上在学すれば足りるものとする。
- 第53条 この学則に定めるもののほか、学位に付記する専攻分野名その他学位に関し必要な事項は、早稲田大学学位規則（1976年教務達第2号）をもって別に定める。

第8章 入学金・基礎教育充実費・授業料・施設費・教育環境整備費・全学グローバル教育費・実験実習料・学生読書室図書費等

- 第58条 既に納めた授業料等は、事情のいかんにかかわらず、これを返還しない。
- 第59条 学年の途中で退学した者でも、その学期の学費はこれを納めなければならない。
- 第60条 学費の納付を怠った者は、抹籍することがある。

学費未納による抹籍の取扱いに関する規程

(抹籍となる時期および取扱い)

- 第2条 別表1の学期欄に掲げる学期の授業料、施設費、教育環境整備費、全学グローバル教育費、実験実習料、学生読書室図書費、演習料および実験実習料（以下「授業料等」という）ならびに基礎教育充

I	特 徴
II	沿革と概要
III	学部要項
IV	学生生活
V	付 録

1.	学則(抜粋)
2.	校歌
3.	キャンパスマップ
4.	時間割作成用紙

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

実費を同表の納入期日欄に掲げる日までに納付しない者は、同表の自動的に抹籍となる日欄に掲げる日に自動的に抹籍とし、同表の退学とみなす日欄に掲げる日に遡り、措置退学とみなす。

- 2 前項の規定にかかわらず、授業料等の納入期日にその納付を怠った者が、別表1に定める自動的に抹籍となる日より前に、特別の事情によって抹籍の取扱いを願い出たときは、学術院の教授会（当該教授会が学部運営委員会または研究科運営委員会の審議事項と定めた場合は学部運営委員会または研究科運営委員会。以下「教授会等」という。）の議を経て抹籍とし、別表1に定める日に遡り、措置退学とみなすことができる。

- 3 前項の規定による願い出をする者は、保護者等と連署で願い出なければならない。

（学費の延納）

第2条の2 教授会等は、学生が納入期日までに学費の納入が困難であると認めるときは、その者の申請に基づき、別表1の2の学期欄に掲げる学期に係る授業料等について、同表の納入期日欄に掲げる日までに納付期日を延期することができる。

- 2 前項の申請は、授業料等の納入期日までに行わなければならない。

3 第1項の規定により延長された納入期日までに授業料等を納付しない者は、別表1の2の自動的に抹籍となる日欄に掲げる日に自動的に抹籍とし、同表の退学とみなす日欄に掲げる日に遡り、措置退学とみなす。

（未納学費を納入した者の取扱い）

第3条 第2条第1項および第2項ならびに第2条の2第3項の規定の適用を受けた者が、未納学費を納入したときは、教授会等の議を経て、未納学費の納入期日の属する期までの学籍を認めることができる。ただし、抹籍となる日を超えることはできない。

- 2 前項に規定する教授会等の議は、廃止された学部および研究科（以下「学部等」という。）においては、教務部長の承認をもって、教授会等の議を経たものとみなす。

（卒業または修了の要件を具備している者の抹籍の時期および取扱い）

第5条 卒業または修了の要件を具備しながら学費未納のため、卒業または修了を保留された者は、別表2に定める日に自動的に抹籍とし、別表2に定める日に遡り、措置退学とみなす。

（卒業または修了の要件を具備している者が未納学費を納入したときの取扱い）

第6条 前条の規定の適用を受けた者が未納学費を納入したときは、教授会等の議を経て、その納入した日より前の最も近い卒業期または修了期の卒業または修了とする。

- 2 前項の規定にかかわらず、在籍していた学部等が廃止している場合であって、第5条の規定の適用を受けた者が未納学費を納入したときは、教務部長の承認を経て、当該学部等の廃止年月日より前の最も近い卒業期または修了期の卒業または修了とする。

別表1

学 期	納入期日	自動的に抹籍となる日	退学とみなす日
春学期	4月15日	9月20日	3月31日
秋学期	10月1日	翌年の3月31日	9月20日

別表2

卒業・修了月日	学費の納入期日	自動的に抹籍となる日	退学とみなす日
3月15日	前年の10月1日	5月15日	前年の9月20日
9月15日	4月15日	11月15日	3月31日

早稻田大学校歌

相馬 御風 作詞
東儀 鉄笛 作曲

Moderato

1 み や こ の せ い ほ 一 く わ せ だ の も り に そ
 2 と う ぎ い こ ー ん ー ぶ ー だ の う し お ひ
 3 あ れ み よ か し こ ー の と き わ の も り は こ

び ゆ る い ら か 一 は わ れ ら が ば こ う わ れ
 と つ に う ず か ー く だ い と ら が こ の だ い
 こ っ の ふ る き ー と わ れ と が ぼ こ う あ つ

ら が ひ ご ろ の ほ う ふ を し る や し ん
 な る し め ん の に な い は か た て れ ど わ れ
 ま り き ん じ て ひ と は か わ れ ど お

しゅ の せ い いく ん が く の ど り く り つ げ ん
 ら が は お な じ き き り ま の ひ か り ず や い が
 ぐ は お な じ き き り ま の ひ か り ず や い が

せ を わ す れ ん ぬ く 一 お の り そ う か が
 て も く お ん の て そ ー う も と か ど は に ま
 こ え そ お え て そ ー も と か ど は に ま

や く わ れ ら が ゆ く て を み よ や ん
 ね く て ん か に かな が や き た か え ん
 ら が ぼ こ う の な お ば した え ん

だ わ せ だ わ せ だ わ せ だ わ せ だ わ せ だ
 わ せ だ わ せ だ わ せ だ

- ### 1. 学則(抜粹)

- ## 2. 校歌

- ### 3. キャンパス マップ

- #### 4. 時間割作成用紙

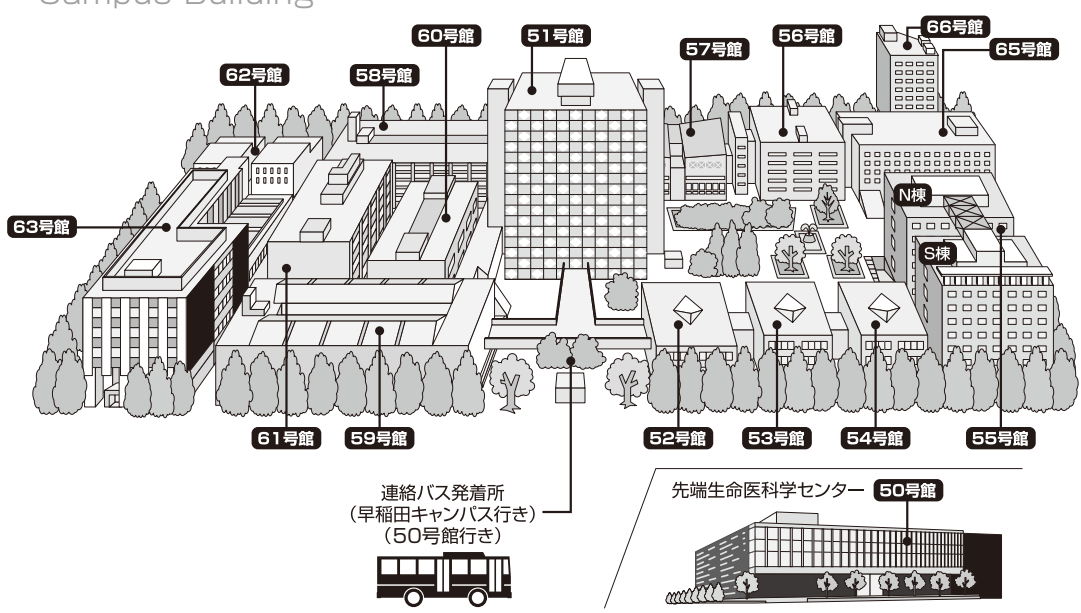
一．
都の西北 早稲田の森に
聳ゆる薨はわれらが母校
われらが日ごろの抱負を知るや
進取の精神学の独立
現世を忘れぬ 久遠の理想
かがやくわれらが行手を見よや
わせた わせた わせた わせた
わせた わせた わせた

二．
東西古今の文化のうしほ
一つに渦巻く大島国の
大なる使命を担ひて立てる
われらが行手は窮り知らず
やがても久遠の理想の影は
あまねく天下に輝き布かん
わせた わせた わせた わせた
わせた わせた わせた

三．
あれ見よかしこの常盤の森は
心のふるさとわれらが母校
集まり散じて人は変れど
仰ぐは同じき理想の光
いざ声そろへて 空もどろに
われらが母校の名をばたへん
わせた わせた わせた わせた
わせた わせた わせた

3 キャンパスマップ

西早稲田キャンパス建物配置図 Campus Building



理工メディアセンター ヘルプデスク 63号館3階	デジタルアトリエ Mac30台・Win5台 61号館3階	理工学基礎実験室 (化学系・生命科学系) 56号館	学生ラウンジ 51号館2階
コンピュータールームA~G PC454台 63号館3階	WASEDA ものづくり工房 61号館1階	理工学基礎実験室 (物理系) 56号館2階	理工学術院統合事務所 51号館1階
ロームスクエア (63号館カフェテリア) 63号館1階	就職情報室 61号館1階	理工カフェテリア 56号館地下1階	保健センター 西早稲田分室・ 学生相談室 51号館1階
理工学基礎実験室 (工学系) 63号館地下1階	製図・CAD室 PC220台 57号館1階	理工学生読書室 52号館地下1階	理工学図書館 51号館地下1階
	生協購買部, 書籍部 57号館地下1階		

学科・専攻別連絡事務室一覧

基幹理工	創造理工	先進理工
数学科 数学応用数理専攻 63号館1階01	建築学科 建築学専攻 55号館N棟2階03	物理学科 応用物理学科 物理学及応用物理学専攻 55号館N棟2階03
応用数理学 数学応用数理専攻 63号館1階01	総合機械工学科 総合機械工学専攻 60号館2階08	化学・生命化学 化学・生命化学専攻 55号館N棟2階03
機械科学・航空宇宙学科 機械科学・航空宇宙専攻 60号館2階08	経営システム工学科 経営システム工学専攻 51号館13階	応用化学科 応用化学専攻 55号館N棟2階03
電子物理システム学科 電子物理システム学専攻 63号館1階01	経営デザイン専攻 51号館9階03B	生命医科学科 生命医学専攻 50号館3階 先端生命医科学センター事務所内 〒162-8480 新宿区若松町2番2号
情報理工学科 情報理工・情報通信専攻 63号館1階01	社会環境工学科 建設工学専攻 51号館2階07	電気・情報生命工学科 電気・情報生命専攻 55号館N棟2階03
情報通信学科 情報理工・情報通信専攻 63号館1階01	環境資源工学科 地球・環境資源理工学専攻 51号館13階	生命理工学専攻 50号館3階 先端生命医科学センター事務所内
表現工学科 表現工学専攻 63号館1階01	社会文化領域 51号館2階07	ナノ理工学専攻 63号館1階01
材料科学専攻 63号館1階01		共同先端生命医科学専攻 50号館3階 先端生命医科学センター事務所内
	英語教育センター 51号館2階07	共同先進健康科学専攻 50号館3階 先端生命医科学センター事務所内
	学科 国際教育センター 51号館2階07	共同原子力専攻 63号館1階01
		先進理工学専攻 51号館1階 理工学術院統合事務所内

I	特 徴
II	沿革と概要
III	学部要項
IV	学生生活
V	付 録

1. 学則(抜粋)

2. 校歌

3. キャンパス
マップ

4. 時間割
作成用紙

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

4 時間割作成用紙

【1年生】

	月 曜		火 曜		水 曜	
	春 学 期	秋 学 期	春 学 期	秋 学 期	春 学 期	秋 学 期
1限						
2限						
3限						
4限						
5限						
6限						
7限						

【2年生】

	月 曜		火 曜		水 曜	
	春 学 期	秋 学 期	春 学 期	秋 学 期	春 学 期	秋 学 期
1限						
2限						
3限						
4限						
5限						
6限						
7限						

【3年生】

	月 曜		火 曜		水 曜	
	春 学 期	秋 学 期	春 学 期	秋 学 期	春 学 期	秋 学 期
1限						
2限						
3限						
4限						
5限						
6限						
7限						

【4年生】

	月 曜		火 曜		水 曜	
	春 学 期	秋 学 期	春 学 期	秋 学 期	春 学 期	秋 学 期
1限						
2限						
3限						
4限						
5限						
6限						
7限						

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 録

1. 学則(抜粋)

2. 校歌

3. キャンパス
マップ

4. 時間割
作成用紙

【1年生】

	木 曜		金 曜		土 曜	
	春 学 期	秋 学 期	春 学 期	秋 学 期	春 学 期	秋 学 期
1限						
2限						
3限						
4限						
5限						
6限						
7限						

【2年生】

	木 曜		金 曜		土 曜	
	春 学 期	秋 学 期	春 学 期	秋 学 期	春 学 期	秋 学 期
1限						
2限						
3限						
4限						
5限						
6限						
7限						

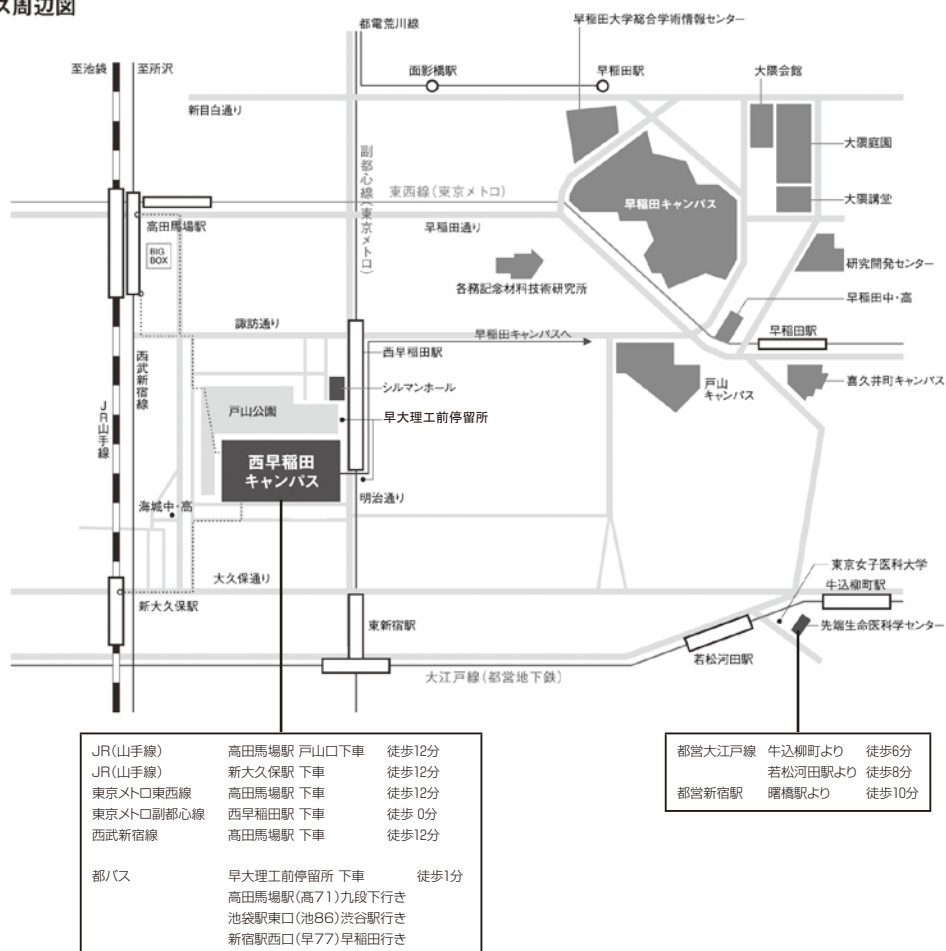
【3年生】

	木 曜		金 曜		土 曜	
	春 学 期	秋 学 期	春 学 期	秋 学 期	春 学 期	秋 学 期
1限						
2限						
3限						
4限						
5限						
6限						
7限						

【4年生】

	木 曜		金 曜		土 曜	
	春 学 期	秋 学 期	春 学 期	秋 学 期	春 学 期	秋 学 期
1限						
2限						
3限						
4限						
5限						
6限						
7限						

早稲田大学西早稲田キャンパス





早稲田大学 創造理工学部

〒169-8555 東京都新宿区大久保3-4-1

<https://www.waseda.jp/fsci/>